

第十六條 第三條ノ規定ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ施ササル骨牌又ハ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌ヲ保稅地域ヨリ引取リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

第二十二條 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム (昭和六年四月十五日朝鮮總督府令第四十三號ヲ以テ昭和六年五月一日ヨリ施行)

物品税法

(昭和十五年三月二十九日法律第四十號)

第一條 左ニ掲クル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニハ本法ニ依リ物品税ヲ課ス

第一種

甲類

- 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
- 二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
- 三 貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品
- 四 龍甲製品
- 五 珊瑚製品、琥珀製品、象牙製品及七寶製品
- 六 毛皮又ハ毛皮製品
- 七 羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

乙類

- 八 時計
- 九 文房具
- 十 身邊用細貨類
- 十一 化粧用具
- 十二 喫煙用具
- 十三 帽子、杖、襪及傘
- 十四 靴及トランク
- 十五 靴及履物
- 十六 書畫及骨董
- 十七 室内裝飾用品

- 十八 玩具
 - 十九 運動具
 - 二十 照明器具
 - 二十一 電氣器具及瓦斯器具
 - 二十二 圍碁及將棋用具
 - 二十三 家具
 - 二十四 漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ掲ケサルモノ
 - 二十五 貴金屬ヲ鍍シ又ハ張りタル製品ニシテ別號ニ掲ケサルモノ
 - 二十六 皮革製品ニシテ別號ニ掲ケサルモノ
 - 二十七 織物、メリヤス、レース、フェルト及同製品並ニ組物
 - 二十八 果物
 - 二十九 菓子
 - 三十 盆栽、盆石及鉢植類
 - 三十一 愛玩用動物及同用品
- 第二種
- 甲類
- 一 寫真機、寫真引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
 - 二 寫真用ノ乾板、フィルム及感光紙
 - 三 蓄音器及同部分品
 - 四 蓄音器用レコード
 - 五 樂器、同部分品及附屬品
 - 六 雙眼鏡及隻眼鏡
 - 七 銃及同部分品
 - 八 藥莢及彈丸

- 九 ゴルフ用具、同部分品及附屬品
 - 十 娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
 - 十一 撞球用具
 - 十二 ネオン管及同變壓器
 - 十三 喫煙用ライター
 - 十四 乗用自動車
 - 十五 化粧品
- 乙類
- 十六 ラヂオ聴取機及同部分品
 - 十七 受信用真空管、擴聲用增幅器及擴聲器
 - 十八 扇風機及同部分品
 - 十九 暖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
 - 二十 冷蔵庫及同部分品
 - 二十一 金庫及鋼鐵製家具
 - 二十二 シャンプー及洗粉
 - 二十三 紅茶、珈琲及其ノ代用物並ニココア
 - 二十四 嗜好飲料但シ酒類及清涼飲料ヲ除ク
- 第三種
- 一 燐寸
 - 二 飴、葡萄糖及麥芽糖
- 同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ、甲類及乙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トス
- 第二條 物品稅ノ稅率左ノ如シ
- 第一種
- 甲類 物品ノ價格百分ノ二十

乙類 物品ノ價格百分ノ十

第二種

甲類 物品ノ價格百分ノ二十

乙類 物品ノ價格百分ノ十

第三種

一 燐寸 千本ニ付 五錢

二 飴、葡萄酒及麥芽糖

イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シタル飴 百斤ニ付 二圓

ロ 其ノ他ノ飴並ニ葡萄酒及麥芽糖 百斤ニ付 二圓五十錢

第三條 前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及燐寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應シ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應シ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラルル物品ノ價格又ハ數量ニ應シ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 物品稅ハ第一種第十六號及第三十號ニ掲ケタル物品ニ付テハ其ノ物品カ入札其ノ他競争ノ方法ニ依リ賣買セララルル場合ニシテ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ之ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ札元又ハ之ニ準スヘキ者カ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス

第六條 製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲化粧品、シャンプー、洗粉又ハ嗜好飲料ヲ容器ニ充填シ又ハ改装スルトキハ之ヲ化粧品、シャンプー、洗粉、又ハ嗜好飲料ノ製造ト看做ス

第七條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ嗜好飲料、飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一 嗜好飲料ヲ製造場内ニ於テ飲用シタルトキ

二 飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ製造場内ニ於テ飴、葡萄酒又ハ麥芽糖以外ノ製品ノ原料トシテ使用シタルトキ

第八條

第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準スル申告書ヲ政府ニ提出スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第九條

小賣業者カ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ稅額ヨリ其ノ物品ニ課セラレタル物品稅ニ相當スル金額ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合亦同シ

製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サス

第十條

物品稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ第四條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スヘシ

命令ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月以内物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

關稅法第三十四條但書ノ規定ニ依リ保稅地域ヨリ引取ル物品ニ付テハ第一項但書ノ規定ニ拘ラス輸入免許ヲ受ケタル際物品稅ヲ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ引取ノ際其ノ稅金ノ擔保ヲ提供スルコトヲ要ス

第十一條

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他己ムコトヲ得サル事由ニ依リ減失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

第十二條

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該

タルトキハ物品稅ヲ免除ス

第六四九

當スルモノニ付テハ物品税ヲ免除ス

- 一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品
 - 二 飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖
 - 三 輸出スル菓子、糖菓其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖
- 前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ移出先若ハ引取先ニ移入前其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付テハ準用ス
- 第一項ノ物品ヲ移出先又ハ引取先ニ移入後其ノ用途ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス
- 第一項第三號ノ規定ニ依リ物品税ノ免除ヲ受ケタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ使用シテ菓子、糖菓其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ヲ製造シタル者カ之ヲ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シタルコトヲ證明セサル場合ニ於テハ製造者ヨリ直ニ其ノ物品税ヲ徴收ス

但シ災害其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ滅失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 左ニ掲クル物品ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品税ヲ免除ス

一 輸出スルモノ

二 學術研究用ニ供スルモノ

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル用途ニ供スルモノ

第十一條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ準用ス

第十四條 物品税ヲ課セラレタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ原料トシテ製造シタル菓子、糖菓其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ヲ輸出シタルトキハ輸出者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ原料トシテ使用シタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付課セラレタル物品税ニ相當スル金額以下ノ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スヘシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第十六條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十七條 收稅官吏ハ第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲クル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第十八條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品税ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル税金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

二 政府ニ申告セスシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造シタル者

前項第二號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ小賣シタル第一種ノ物品又ハ製造シタル第二種若ハ第三種ノ物品ニ對スル物品税ヲ徴收ス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十六條第一項ノ規定ニ依リ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十七條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シタル者

第二十一條 第十八條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第二十二條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條 本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ
 第二十四條 關稅定率法第七條第十七號ノ規定ハ第十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除セラレタル餡、葡萄酒若ハ麥芽糖原料トシテ製造シ又ハ第十四條ノ規定ニ依リ交付金ヲ交付セラレタル菓子、糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ニ對シテハ之ヲ適用セス
 第二十五條 自己又ハ其ノ家族ノ用ニノミ供スル第二種ノ物品又ハ餡ヲ製造スル者ニハ當該物品ニ付本法ヲ適用セス

附 則

第二十六條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條ノ規定ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子糖果其ノ他命令ヲ以テ定ムル物品ニ付テハ之ヲ適用セス
 第二十七條 第九條ノ適用ニ付テハ支那事變特別稅法ニ依リ課セラレタル物品稅ハ之ヲ本法ニ依リ課セラレタル物品稅ト看做ス
 第二十八條 支那事變特別稅法第四十八條第一項、第四十九條第一項又ハ第五十條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル物品ハ各第十一條第一項、第十二條第一項又ハ第十三條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノト看做ス
 第二十九條 支那事變特別稅法第三十八條ニ掲クル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス
 第三十條 本法施行前ヨリ引續キ琥珀製品、象牙製品、七寶製品、菓子、盆栽盆石及鉢植類並ニ愛玩用動物及同用品ノ小賣業ヲ營ム者本法施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス
 第三十一條 第一條ニ掲クル第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者カ本法施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本法施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ第一號ノ物品ニ付テハ第一條各號ニ掲クル品名毎ニ價格三千圓、餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ一萬斤ヲ超ユル部分ニ付第二條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額ト支那事變特別稅法第三十九條ニ規定スル稅率ニ依リ算出シタル稅額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トシ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス
 一 第一條ニ掲クル第二種第一號乃至第十五號ノ物品ニシテ同條各號ニ掲クル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユルモノ
 二 餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ニシテ合計斤數一萬斤ヲ超ユルモノ
 前項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スヘシ

物品稅法施行規則

(昭和十五年三月三十一日勅令第五百十號)

第一條 物品稅法第一條ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課スヘキ物品ハ別表ニ定ムル所ニ依ル
 別表ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ
 別表ニ於テ寶石、半寶石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル寶石、半寶石、眞珠、金又ハ白金ノ價格(一種以上ノモノヲ用ヒタルモノ)ニ付テハ其ノ價格ヲ合算スルカ三圓以上ノモノヲ謂フ
 第二條 物品稅法第一條ニ掲クル第一種ノ物品中第十六號及第三十號ニ掲グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一回ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ強制競賣ノ場合ハ物品稅ヲ課セス
 第三條 物品稅法第一條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場及販賣スヘキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ
 第四條 物品稅法第一條ニ掲グル第二種又ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ
 第五條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ
 第六條 稅務署長ハ必要ト認ムルトキハ第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得
 第七條 第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ
 第八條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ
 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

- 第九條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第十條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三條又ハ第四條ノ規定ニ準シ申告ヲ爲スヘシ
- 第十一條 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セララルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル
- 第十二條 保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ當該物品ニ課セララルヘキ織物消費稅及關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル
- 第十三條 燐寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル
- 第十四條 第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者カ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セス前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄稅務署ヨリ交付ヲ受ケタル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スヘキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スヘシ
- 第十五條 第一項ノ場合ニ於テハ物品稅法第八條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セス
- 第十六條 物品稅ノ免除ヲ受ケスシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セス前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
- 第十七條 物品稅法第八條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ
- 第十八條 前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ稅務署長其ノ申告ヲ相當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スヘシ
- 第十九條 前二項ノ規定ハ物品稅法第八條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス
- 第二十條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者返還ヲ受ケ又ハ戻入シタル物品ニ付物品稅法第九條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スヘキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量、價格及稅額ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
- 第二十一條 物品稅法第一條ニ掲ケタル第三種ノ物品ノ製造者戻入シタル物品ニ付同法第九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スヘキ書類及戻入ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名及數量ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
- 第二十二條 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

- 擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受預證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 擔保トシテ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受預證ヲ提出スヘシ
- 擔保トシテ提供シタル同債ノ償還ヲ受ケルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ
- 第二十條 物品稅法第十條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス
- 前項ノ規定ハ物品稅法第十條第三項ノ規定ニ依リ提供シタル擔保ニ付之ヲ準用ス
- 第二十一條 物品稅法第十一條第一項ノ規定ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クヘシ
- 第二十二條 前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シタル第二種又ハ第三種ノ物品ヲ移出先タル製造場又ハ藏置場ニ移入シタルトキハ移出先ノ營業者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
- 第二十三條 物品稅法第十二條第一項第三號ノ物品ハ輸出スル菓子及糖果ノ外輸出スル果實蜜及之ニ類スルモノトス
- 第二十四條 物品稅法第十二條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ飴、葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クヘシ
- 第二十五條 前條ノ規定ハ前項ノ物品ヲ其ノ移出先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス
- 第二十六條 物品稅法第十二條第一項ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クヘシ
- 第二十七條 物品稅法第十三條第一項第三項ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 一 醫療用ニ供スルモノ但シ三種ノ物品ヲ除ク
 - 二 機械用又ハ工業用ニ供スルモノ但シ燐寸並ニ飲料又ハ食料品ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒及麥芽糖ヲ除ク
 - 三 神社、寺院又ハ教會ニ於テ式典用又ハ禮拜用ニ供スルモノ但シ三種ノ物品ヲ除ク
 - 四 教育用ニ供スルモノ但シ中等學校又ハ、國民學校ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、蓄音器、蓄音器用レコード、ピアノ、オルガン、等、三絃、ラジオ聴取機、擴聲用增幅器及擴聲器ニ限ル(昭和一九三三號改正)

五 軍用ニ供スルモノ但シ陸海軍ノ購入ニ係ル毛皮、毛皮製品、帽子、靴、トランク、靴、寢臺、第一種第二十六號ノ皮革製品、織物、織物製品、メリヤス、メリヤス製品、犬、寫眞機、寫眞機部分品、寫眞用乾板、寫眞用フィルム、寫眞用感光紙、雙眼鏡、雙眼鏡、銃、銃部分品、藥莢及彈丸ニ限ル

六 通信用ニ供スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話(放送無線電話ヲ除ク)ノ用ニ供スルラヂオ聴取機及受信用真空管ニ限ル

第二十七條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者物品税法第十三條及前條ノ規定ニ依リ物品税ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受ケヘシ

第二十八條 物品税法第十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品税ヲ免除セラレタル餡、葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ原料トシテ製造シタル菓子、糖果若果實蜜及之ニ類スルモノ又ハ同法第十三條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署必要アリト認ムルトキハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十九條 物品税法第十一條第三項、第十二條第二項及第四項並ニ第十三條第二項ノ期間ハ稅務署長之ヲ指定ス

第三十條 物品税法第十一條第三項但書、第十二條第二項及第四項但書並ニ第十三條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第二十一條第二十四條第一項又ハ第二十七條ノ稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ減失シタル場所カ前項ノ稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ減失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スヘシ

第三十一條 第二十一條、第二十二條、第二十四條、第二十五條及第二十七條乃至前條ノ規定ハ物品税法第十一條乃至第十三條ノ規定ノ適用ヲ受ケ保稅地域ヨリ引取ララル第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 物品税法第十四條ノ規定ニ依ル交付金ハ左ノ各號ニ掲ケタル金額トス但シ餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ製造場ヨリ直接引取リタル餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ原料トシテ保稅工場ニ於テ製造シタル菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノニ付テハ其ノ餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ對スル物品税ニ相當スル金額トス

一 麥芽化ノ方法ニ依リ製造シタル餡ヲ使用シタル菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノ

二 菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ中ニ含有スル麥芽糖化以外ノ方法ニ依リ製造シタル餡、葡萄酒又ハ麥芽糖百斤ニ付 二圓五十錢

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ物品税法第十四條ノ規定ニ依ル交付金ヲ交付セス

一 菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ輸出後一年以内ニ交付金ノ交付ヲ申請セザルトキ

二 菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ一回ノ輸出數量カ三百斤ニ滿タサルトキ

第三十四條 物品税法第十四條ノ規定ニ依ル交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ輸出ノ際關稅法施行規則第三十四條第一項ノ規定ニ依ル申告ノ外菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ種類、每種類ノ數量、使用原料ノ種類、製造者ノ氏名又ハ名稱及製造ノ場所ヲ稅關ニ申告シ餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ含有量ニ付檢定ヲ受ケヘシ但シ第三十二條但書ノ規定ニ依ル交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 物品税法第十四條ノ規定ニ依ル交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ添附シテ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第三十二條但書ノ規定ニ依ル交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ書類ノ外餡、葡萄酒又ハ麥芽糖製造場所轄稅務署ノ物品稅納稅證明書及保稅工場所轄稅關ノ製造證明書ヲ提出スヘシ

第二十八條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日並ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス但シ所轄稅務署監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三 製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四 販賣シ又ハ移出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日並ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱
前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲クル事項ノ記載ニ付テハ之ヲ準用ス
第三十八條 販賣場ヲ有セスシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト
看做ス

第三十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル物品ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附 則

第四十條 本令ハ物品稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸
出ニ係ル菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノニ付テハ之ヲ適用セス

第四十一條 物品稅法第三十條ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三條ノ規定ニ準シテ作成シタル申告書ニ同法施行
前ヨリ引續キ琥珀製品、象牙製品、七寶製品、菓子、盆栽盆石及鉢植類並ニ愛玩用動物及同用品ノ小賣業ヲ營ムコトノ事
實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四十二條 物品稅法第三十一條第一項ノ規定ニ依リ課スヘキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十五年五月三十一
日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ 昭和十五年五月及六月

稅額千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至七月

稅額二千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至八月

稅額五千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至九月

第四十三條 物品稅法第三十一條第二項ノ規定ニ依ル申告ハ第二種ノ物品又ハ飴、葡萄酒若ハ麥芽糖ノ所在地所轄稅務署ニ
之ヲ爲スヘシ

第四十四條 宗教團體法第三十五條第一項ノ佛堂ニ於テ式典用又ハ禮拜用ニ供スル物品(第三種ノ物品ヲ除ク)ハ物品稅法
第十三條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除ス

附 則 (昭和十六年三月勅令第二九三號)

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

課稅物品表

品名	課稅最低限	
	單位	價格
第一種 甲類 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品但シ理化學用ノモノヲ除ク イ 貴石、半貴石 ダイヤモンド、ルビー、サファイヤ、アレキサンドライト、クリソベリール、 トパーズ、スピネル、エメラルド、アクアマリン、ペリール、トールマリ ン、ジルコン、クリソライト、ガーネット、オパール、翡翠、水晶、瑪瑙、 猫眼石、虎眼石、孔雀石、土耳其玉、月長石、青金石、クンツァイト、ブラ ッドストーン及ヘマタイト	一個 一個又ハ一組	三圓 三圓
二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品 イ 天然眞珠及養殖眞珠 ロ 眞珠ヲ用ヒタル製品	一個 一個又ハ一組	三圓 三圓
三 貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品但シ理化學用ノモノ又ハ醫療用ノモ ノヲ除ク イ 貴金屬製品但シ金ペンヲ除ク ロ 金側又ハ白金側ノ時計但シ金ヲ鍍シ又ハ張りタルモノヲ除ク ハ 金屏風及金衝立 ニ 其ノ他金又ハ白金ヲ用ヒタル製品但シ金箔、金絲、金粉又ハ金液ヲ用ヒタル	一個又ハ一組 一個 一個	三圓 三圓 三圓

モノ及金ヲ鍍シ又ハ張りタルモノヲ除ク	一個又ハ一組	三圓
四 鼈甲製品	一個又ハ一組	三圓
五 珊瑚製品、琥珀製品、象牙製品及七寶製品	一個又ハ一組	三圓
イ 珊瑚製品	一個又ハ一組	三圓
ロ 琥珀製品但シ電氣絶縁用ノモノヲ除ク	一個又ハ一組	三圓
ハ 象牙製品但シ骨牌稅ヲ課セラルル骨牌ヲ除ク	一個又ハ一組	三圓
ニ 七寶製品	一個又ハ一組	三圓
六 毛皮又ハ毛皮製品	一個	五圓
イ 毛皮	一個	五圓
ロ 毛皮製品	一個又ハ一組	五圓
敷物、膝掛、手套類、襟卷、被服類、被服用ノ裏、襟、袖及縁	一個又ハ一組	五圓
七 羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品	一個	五圓
イ 羽毛製品	一個	五圓
襟卷	一個	五圓
ロ 羽毛ヲ用ヒタル製品	一個	五圓
蒲團、座蒲團及クツシヨ	一個	五圓
乙類		
八 時計		
懷中時計、腕時計、置時計、掛時計及電氣時計	一個	十五圓
九 文房具		
イ 萬年筆、硯箱、文箱、料紙箱、色紙箱、短冊箱、スケッチ箱及覽架	一個又ハ一組	四圓
ロ 金ペン(軸ヲ附シタルモノヲ含ム)、シャープペンシル、インク入(インクスタンドヲ含ム)、硯、筆、墨、繪具、ペーパーナイフ、筆入、筆立、ペン立、ペン皿	一個又ハ一組	四圓
文鎮、色紙、短冊、アルバム、鉛筆削器及本立(ブツクエンドヲ含ム)	一個又ハ一組	二圓
十 身邊用細貨類		

イ 指環、腕環、耳飾、頸飾、ペンダント、櫛、笄、簪、頭髮用ピン、ハットピン、ネクタイピン、襟止、帶止、バックル、鎖、カフス釦、根付及メダル	一個又ハ一組	三圓
ロ ハンドバッグ、手提袋、財布、懷中用書狀入、名刺入、筥迫及シース	一個	五圓
十一 化粧用具		
イ 化粧用刷子(頭髮用ノモノヲ含ム)、コンパクト、香水噴及白粉入其ノ他ノ化粧品容器	一個	三圓
ロ 化粧具匣(折疊式ノモノヲ含ム)其ノ他ノ化粧用具セット	一個又ハ一組	五圓
十二 喫煙用具		
イ 煙管、パイプ類及同ケース	一個又ハ一組	三圓
ロ 煙草入、灰皿、煙草セット及煙草盆	一個又ハ一組	五圓
十三 帽子、杖、蓆及傘		
イ 帽子	一個	五圓
ロ 杖及蓆	一個	三圓
ハ 傘(ビーチパラソルヲ含ム)	一個	六圓
十四 靴及トランク	一個	十圓
イ 皮革製又ハ金屬製ノモノ	一個	三十圓
ロ 其ノ他	一個	三十圓
十五 靴及履物		
イ 靴(較革製又ハ鯨革製ノモノヲ除ク)	一足	二十圓
(一) 長靴	一足	十二圓
(二) 其ノ他	一足	四圓
ロ 履物		
十六 書畫及骨董		
十七 室内裝飾用品		
置物、花器、香器、額縁、柱掛其ノ他ノ壁面裝飾用品、人形、節句飾物及		

羽子板	一個又ハ一組	十圓
十八 玩具	一個又ハ一組	三圓
十九 運動具		
イ ボール	一個	五十錢
(一) 庭球、野球又ハホッケー用ノモノ	一個	五圓
(二) 其ノ他	一個	十圓
ロ ネット	一個又ハ一對	五圓
ハ グローブ、ミット、圓盤、砲丸、槍、鐵槌、フエンシング用劍及バール	一個	五圓
ニ バット、ラケット、ガット及ホッケー用スチツク	一個	五圓
(一) バット及ホッケー用スチツク	一個	二圓
(二) ラケット	一個	五圓
(三) ガット	一張分	二圓
ホ スケート、スキー、同部分品及附屬品		
(一) スケート	一對	五圓
(二) スキー	一對	十圓
(三) シール	一對	五圓
(四) 締具、金具及スキーストック	一對	五圓
ヘ リュツサツク、ピツケル及コツヘル	一個又ハ一組	五圓
二十 照明器具		
スタンド、シャンデリヤ、ペンダント、ブラケット、バルベツト、シーリングライト、ポルダーライト、グローブ、シールド及之ニ類スルモノ	一個又ハ一組	五圓
二十一 電氣器具及瓦斯器具		
イ 湯沸器(珈琲沸器及牛乳沸器ヲ含ム)、タオル蒸器、調理用器具(七輪、竈及炊飯器ヲ除ク)、アイロン、鍍(半田鍍ヲ除ク)、鍍燒器、毛髮乾燥器、炬燵、行火、火鉢(電氣炭ヲ含ム) 足温器及蒲團類	一個又ハ一組	五圓

ロ パーマネントウエーヴ機及同附屬ドライヤー、洗濯機、掃除機、熨房用ラヂエーター、ルームクーラー、温水槽、調理臺	一個又ハ一組	三十圓
二十二 園藝及將棋用具		
イ 園藝用具		
(一) 碁盤	一個	十圓
(二) 碁石	一組	五圓
(三) 碁筒	一組	三圓
ロ 將棋用具		
(一) 將棋盤	一個	五圓
(二) 將棋駒	一組	二圓
二十三 家具		
イ 幅八十五種以上ノ箆筒	一個又ハ一組	五十圓
ロ イ號以外ノ箆筒、棚類、箱類、寢臺、鏡及鏡臺類、机及卓子類、椅子及腰掛類、火鉢、臺類、屏風、衝立、几帳、衣桁、帽子掛、傘立	一個又ハ一組	三十圓
二十四 漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ掲ケサルモノ、但シ理化學用ノモノ、醫療用ノモノ、電氣絶緣用ノモノ及土木建築用ノモノヲ除ク	一個又ハ一組	十圓
二十五 貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ掲ケサルモノ	一個又ハ一組	三圓
二十六 皮革製品ニシテ別號ニ掲ケサルモノ	一個	十圓
イ 被服類	一個	五圓
ロ 座蒲團及クツシヨン	一對	二圓
ハ 手袋	一個	十圓
二十七 織物、メリヤス、レース、フェルト及同製品並ニ組物	一反	十八圓
イ 織物但シ帶地及敷物地ヲ除ク		
(一) 着尺地、羽尺地、裏地、襦袢地、袴地及夜具地類		
白生地		

(一) 其ノ他	一反	二十二圓
(二) 座蒲團地	五帖分	十五圓
(三) 羽裏地、和服用コート裏地及裾廻地	一枚	十圓
(四) 其ノ他		
幅四十六種未満ノモノ	一米	二圓
幅四十六種以上百二十種未満ノモノ	一米	五圓
幅百二十種以上ノモノ	一米	十二圓
メリヤス、レース及フェルトニシテ布帛狀ノモノ但シ敷物地ヲ除ク	一平方米	三圓
織物、メリヤス、レース及フェルトノ製品並ニ組物		
(一) 着物、羽織、襦袢及之ニ類スルモノ		
單衣	一個	二十五圓
其ノ他	一個	三十三圓
(二) 袴	一個	二十三圓
(三) 帶(帶地ヲ含ム)		
女子用ノ丸帶及袋帶	一個	三十圓
單帶、名古屋帶、兵兒帶、男帶其ノ他ノ帶	一個	十八圓
(四) 洋服		
男子用ノモノ	一組	七十圓
一組ノモノ(三ツ揃ノモノ)	一個	三十五圓
上衣	一個	十二圓
チヨツキ	一個	二十三圓
ズボン	一個	四十五圓
女子用ノモノ		
一組又ハ上下連續シタルモノ	一組又ハ一個	四十五圓
上衣		

(五) 外套、和服用コート、トンビ、ケープ及之ニ類スルモノ	スカーツ	一個	二十五圓
男子用ノモノ	一個	二十圓	
女子用ノモノ	一個	六十圓	
(六) 其ノ他ノ被服類			
シヤツ、ズボン下、スウェーター、バジヤマ、ローブ、ガウン、下着、肌着及之ニ類スルモノ	一個	四十五圓	
(七) 服飾附屬品			
襟卷	一個	五圓	
帶場、扱帶及帶締	一個	十圓	
半襟	一個	七圓	
ネクタイ	一個	四圓	
手袋	一對	三圓	
手巾、靴下及之ニ類スルモノ	一個又ハ一足	二圓	
(八) 毛布、膝掛、蚊帳及蒲團類			
毛布及膝掛	一枚	十五圓	
蚊帳	一枚	二十五圓	
蒲團	一個	二十五圓	
敷蒲團	一個	二十圓	
其ノ他	一個	二十五圓	
(九) 座蒲團、クツシヨシヨ(クツシヨシヨ側ヲ含ム)及フットスツール	一個	五圓	
窓掛、卓子掛(センターピースヲ含ム)、ピアノ掛、鏡臺掛、椅子掛、寢臺掛、袱紗及風呂敷類	一個	六圓	
(十) 敷物類(敷物地ヲ含ム)	一個	五圓	
(十一) 敷帳及化粧廻	一個	百圓	

ン、マンドラ、マンドリラ、マンドセロ、マンドローネ、ギター、ギタローネ、バラライカ、ウクレレ、バンジョー、フリユ
 ート、ピッコロ、クラリネット、オーボ、バズーン、ホルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チェロ
 バ、サクソフォーン、スザフォーン、ホルン、バイブラフォーン、喇叭(信號喇叭ヲ除ク)、木琴、鐵琴、ハーブ、リラ、箏、
 三絃、琵琶、明笛、尺八、鼓、ドラム類、タンボリン及シンバル
 口 樂器部分品及附屬品
 絃樂器用ノ絃、弓又ハ撥及樂器用ケース

六 雙眼鏡及隻眼鏡
 七 銃及同部分品

イ 銃
 獵銃、拳銃及空氣銃
 口 銃部分品
 銃身及銃床

八 藥莢(裝藥シタルモノヲ含ム)及彈丸但シ獵銃、拳銃又ハ空氣銃ノモノニ限ル
 九 ゴルフ用具同部分品及附屬品

イ ゴルフクラブ及ゴルフボール
 ロ ゴルフクラブノヘッド及シャフト
 ハ ゴルフクラブ用バッグ

十 娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
 十一 撞球用具
 撞球臺、キュー、球及チヨーク

十二 ネオン管及同變壓器
 十三 喫煙用ライター

十四 乘用自動車但シ普通乘用自動車ニシテ輪距二百八十九種ヲ超ユルモノニ限ル
 十五 化粧品
 香水、香紙、香袋、白粉、紅、化粧墨、クリーム、化粧下、化粧水、化粧粉、頭髮用ノ香水、油及煉油、整髮料、染毛料、
 鬚毛料、美爪料、脫毛料、脂取料

乙類

十六 ラヂオ聴取機及同部分品

イ ラヂオ聴取機但シ真空管ヲ使用セザルモノ及大藏大臣ノ指定スルモノヲ除ク
 ロ ラヂオ聴取機部分品
 ラヂオ聴取機匣、トランスフオーマー、チヨークコイル、コンデンサー、抵抗器、ダイヤル及シヤシ

十七 受信用真空管、擴聲用增幅器及擴聲器

十八 扇風機及同部分品

イ 扇風機
 口 扇風機部分品
 扇風機用ノ羽根及モーター

十九 燈房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ

二十 冷蔵庫及同部分品

イ 冷蔵庫
 口 冷蔵庫部分品
 冷蔵庫用冷凍機

二十一 金庫及鋼鐵製家具

イ 金庫(手提金庫ヲ含ム)
 口 鋼鐵製家具

二十二 簾、棚類、箱類、寢臺、机及卓子類、椅子及腰掛類

二十三 シャンプー及洗粉

二十四 紅茶、珈琲及其ノ代用物並ニココア紅茶、マーテ、珈琲、チヨリー及ココア
 嗜好飲料但シ酒類及清涼飲料ヲ除ク

イ 牛乳又ハ乳製品ヲ原料トスル酸性飲料
 口 果實汁、果實蜜、珈琲シロップ、紅茶シロップ及之ニ類スルモノ

第三種

一 燐寸

二 飴、葡萄糖及麥芽糖

遊興飲食税法

(昭和十五年三月二十九日法律第四十一號)

第一條 料理店、貸席、旅館其ノ他命令ヲ以テ定ムル類似ノ場所ニ於ケル遊興及飲食ニハ本法ニ依リ遊興飲食税ヲ課ス

第二條 遊興飲食税ノ税率ハ遊興飲食ノ料金ノ百分ノ十五トス但シ藝妓ノ花代ニ付テハ料金ノ百分ノ三十トス

前項ノ遊興飲食ノ料金ハ前條ニ規定スル場所ノ經營者カ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興又ハ飲食ニ付領收スヘキ金額ヲ謂フ

遊興飲食ノ料金ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 遊興飲食ノ料金カ一人一回三圓ニ滿タサル場合ニハ遊興飲食税ヲ課セス但シ左ニ掲クル料金ニ付テハ此ノ限ニ在ラ

一 藝妓ノ花代及藝妓ノ花代ヲ伴フ遊興飲食ノ料金

二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

三 命令ヲ以テ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金

前項ノ一人一回ノ料金ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 遊興飲食税ハ第一條ニ規定スル場所ノ經營者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎月分ノ遊興飲食料金ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ

政府ニ提出スヘシ但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第六條 遊興飲食税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第七條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎月分ノ遊興飲食料金中其ノ月ニ於テ領收セサルモノニ對

スル税金ヲ其ノ料金ヲ領收シタル月ノ翌月末日迄ニ納付スルコトヲ得但シ其ノ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テ未タ納付セザ

ル税金アルトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ未タ税金ヲ納付セサル料金ニシテ領收スルコト能ハサルニ至リタルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ

遊興飲食税ヲ免除ス

第八條 第一條ニ規定スル場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スヘシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第九條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者及經營者ト經營上取引關係アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

前項ニ規定スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十條 收稅官吏ハ前條第一項ニ規定スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ遊興飲食稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處フ

一 第五條第一項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

二 政府ニ申告セスシテ第一條ニ規定スル場所ヲ經營シタル者

前項第二號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ遊興飲食稅ヲ徵收ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第九條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第九條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

第十四條 第十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 第一條ニ規定スル場所ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引關係アル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引關係アル者ヲ處罰ス

第十六條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ遊興飲食稅ノ課稅標準タル料金ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十七條 政府ハ第一條ニ規定スル場所ノ經營者ノ組織スル團體ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前項ノ團體ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法第五十二條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

支那事變特別稅法第六十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ハ之ヲ第十七條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ト看做ス

遊興飲食税法施行規則

(昭和十五年三月三十一日勅令第五百一十一號)

- 第一條 左ニ掲クル場所ニ於ケル遊興及飲食ニハ遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ遊興飲食税ヲ課ス
- 一 貸座敷
- 二 引手茶屋
- 第二條 遊興飲食ノ料金ハ花代、揚代、飲食料、席料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス遊興飲食税法第一條ニ規定スル場所ノ經營者カ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興又ハ飲食ニ付領收スヘキ金額ノ合計額ニ依ル
- 第三條 左ニ掲クル遊興飲食ノ料金ニ付テハ其ノ料金カ一人一回三圓ニ滿タサル場合ト雖モ遊興飲食税ヲ課ス
- 一 娼妓ノ揚代、藝妓ニ類スル者ノ花代其ノ他之ニ類スルモノ(以下其ノ他ノ花代ト稱ス)
- 二 洋風ノ設備ヲ有シ婦女カ客席ニ侍シテ接待スルカフェー、バー其ノ他ノ料理店(客席ニ侍シテ接待スル婦女カ常時五人以下ナルモノヲ除ク)ニ於ケル遊興飲食ノ料金
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一人一回ノ遊興飲食ノ料金ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
- 一 二人以上共同シテ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ料金ヲ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル人員ニテ除シテ得タル金額ニ依ル
- 二 同一ノ遊興又ハ飲食ニ付其ノ他ノ花代ヲ領收スヘキ者ト其ノ他ノ花代以外ノ料金ヲ領收スヘキ者ト異ナル場合ニ於テハ其ノ他ノ花代ト其ノ他ノ花代以外ノ料金トヲ合算シタル金額ニ依ル
- 第五條 遊興飲食税法第五條ノ規定ニ依ル申告書ハ毎月分ノ遊興飲食料金ヲ藝妓ノ花代、其ノ他ノ花代及花代以外ノ料金ニ區分シテ之ニ記載シ所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ
- 前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ稅務署長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スヘシ
- 第六條 遊興飲食税法第七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ毎月分ノ遊興飲食料金中其ノ月ニ於テ領收セサルモノヲ藝妓ノ花代、其ノ他ノ花代及花代以外ノ料金ニ區分シテ記載シタル申請書ヲ前條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ提出シ承認ヲ受クヘシ
- 前項ノ料金ヲ領收シタル場合ニ於テハ其ノ領收シタル料金ヲ藝妓ノ花代其ノ他ノ花代及花代以外ノ料金ニ區分シテ記載シ

タル申告書ヲ翌月十日迄ニ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條 遊興飲食稅法第七條第二項ノ規定ニ依リ遊興飲食稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ領收スルコトヲ能ハサル事由ヲ具シ所轄稅務署ニ申請スヘシ

第八條 遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ヲ經營セントスル者ハ其ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

- 一 經營者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 經營スル場所ノ種類及名稱並ニ所在地
- 三 從業者ノ種類及員數
- 四 第三條第二號ニ規定スル料理店ニ在リテハ前號ノ外客席ニ侍シテ接待スル婦女ノ常時ノ員數
- 五 經營スル場所ノ構造其ノ他設備ノ概要
- 六 開業ノ年月日

第九條 遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營者ハ一回ノ遊興飲食每ニ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 遊興又ハ飲食ノ年月日
- 二 遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者ノ數
- 三 遊興飲食料金ノ種類及金額
- 四 二人以上共同シテ爲シタル遊興又ハ飲食ニ付テハ一人一回ノ遊興飲食料金
- 五 遊興飲食料金ノ領收ノ年月日

稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル者ノ住所及氏名ノ記載ヲ命スルコトヲ得

第十條 藝妓、藝妓ニ類スル者若ハ娼妓ノ雇主、抱主若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ營業ニ關シ仲介ヲ爲ス者ハ藝妓、藝妓ニ類スル者又ハ娼妓ノ出先ノ場所毎ニ每回少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 藝妓、藝妓ニ類スル者又ハ娼妓ノ名稱
- 二 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ノ金額

第十一條 藝妓、藝妓ニ類スル者若ハ娼妓ノ雇主、抱主若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ營業ニ關シ仲介ヲ爲ス者ハ毎月分ノ藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ藝妓、藝妓ニ類スル者又ハ娼妓ノ出先ノ場所毎ニ區分シテ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ

所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十二條 遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營者其ノ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十三條 第八條及前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條 遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十五條 遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營者其ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十六條 遊興飲食稅法第一條ニ規定スル場所ノ經營者其ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第八條及前條ノ規定ニ準シ申告ヲ爲スヘシ

第十七條 遊興飲食稅法第十七條第一項ノ規定ニ依リ稅務署長ハ同法第一條ニ規定スル場所ノ經營者ノ組織スル團體ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ團體ニ對シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ所屬團體員カ納期內ニ納付シタル遊興飲食稅額ノ百分ノ一乃至百分ノ三ニ相當スル金額ノ交付金ヲ交付ス

第十八條 前條ノ團體同條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得

附 則

本令ハ遊興飲食稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際第三條第二號ニ規定スル料理店ヲ經營スル者ハ客席ニ侍シテ接待スル婦女ノ常時ノ員數ヲ本令施行ノ日ヨリ一月以內ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

入場税法

(昭和十五年三月二十九日法律第四十四號)

第一條 本法ニ依リ入場税及特別入場税ヲ課ス

第二條 入場税ハ左ニ掲クル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ヲ催ス場所

二 競馬場

三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二種

一 舞踏場、麻雀場、撞球場

二 ゴルフ場、スケート場

第三條 入場税ノ税率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料カ一人一回一圓未滿ナルトキ

入場料カ一人一回一圓以上三圓未滿ナルトキ

入場料カ一人一回三圓以上ナルトキ

回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ

第二種ノ場所

撞球場

其ノ他

本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハス第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フヘキ金

入場料ノ百分ノ十

入場料ノ百分ノ二十

入場料ノ百分ノ三十

入料場ノ百分ノ二十

入場料ノ百分ノ十

入場料ノ百分ノ二十

入場料ノ百分ノ三十

額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 第一種ノ場所ノ入場料カ一人一回十九錢ニ滿タサル場合ニハ入場税ヲ課セス

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同シ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者カ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場税ヲ免除ス

第六條 入場税ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムヘシ但シ常時開設ニ非サルモノニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムヘシ

第七條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スヘシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第八條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第九條 特別入場税ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセサル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第十條 特別入場税ノ税率ハ特別入場料ノ百分ノ十トス
本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハス前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フヘキ金額ヲ謂フ

第三條第三項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス
第十一條 特別入場料カ一人一回十九錢ニ滿タサル場合ニハ特別入場税ヲ課セス

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第十二條 特別入場税ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ納ムヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第十三條 第五條、第七條及第八條ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十四條 第六條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ徵收スヘキ税金ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第十五條 收稅官吏ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス
第十六條 政府ニ申告セシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十五條第一項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

第十八條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場税ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

附 則
本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者又ハ同第二種ノ場所ヲ經營スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ支那事變特別稅法第三十三條ニ規定スル運動競技ヲ開催スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノニ付之ヲ準用ス

入場税法施行規則

(昭和十五年三月三十一日勅令第五百十三號)

- 第一條 入場税法第二條ニ掲クル第一種第三號ノ場所ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 博覽會場
 - 二 展覽會場
 - 三 遊園地
 - 四 鍛鍊馬場
- 第二條 入場税法第二條ニ規定スル第一種ノ場所ノ入場料ハ觀覽料、座席料、仲錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス入場スル者カ入場ノ爲ニ支拂フヘキ金額ノ合計額ニ依ル
- 入場税法第二條ニ規定スル第二種ノ場所ノ入場料ハ舞踏料、競技料、會費其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス入場スル者カ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フヘキ金額ニ依ル
- 第三條 入場税法第五條ニ規定スル収益ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル
- 第四條 入場料又ハ収益ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場税法第五條ノ規定ニ依リ入場税ヲ免除ス
- 一 軍人ノ慰恤並ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護
 - 二 兵器、艦船其ノ他ノ國防金品ノ獻納
- 第五條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同シ)若ハ設備ノ主催者ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場税法第五條ノ規定ニ依リ入場税ノ免除ヲ受ケントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種又ハ第二種ノ場所ノ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クヘシ
- 一 期間
 - 二 入場料又ハ収益ノ總額ヲ支出スヘキ事業又ハ目的
 - 三 入場料
 - 四 收入支出ノ概算書

前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催又ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證憑書類ヲ添ヘ收入支出ノ計算書ヲ提出スヘシ

第六條 入場税法第六條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場税ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ但シ常時開設ニ非サルモノニ在リテハ左ノ場合ヲ除クノ外終了後直ニ之ヲ拂込ムヘシ

一 開催又ハ經營ノ期間カ一月以上ニ互ル場合

二 開催日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第七條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二 第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱

三 催物又ハ設備ノ種類

四 各等級別觀客定員及入場料

五 入場券發賣ノ方法

六 第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七 開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間

第八條 第一種ノ催物若ハ設備又ハ第二種ノ場所ニシテ常時開設スルモノノ主催者又ハ經營者其ノ主催又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ前二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十二條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十三條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ催物又ハ設備ノ種類別ニ稅率ノ區別ニ從ヒ毎日少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 入場シタル人員及入場料ノ總額

二 入場券ノ受入及拂出

三 入場稅額

第十五條 入場税法第十二條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場税ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ但シ左ノ場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムヘシ

一 開催ノ期間カ一月以上ニ互ル場合

二 開催日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

第十六條 第二條第一項、第三條乃至第五條、第七條乃至第九條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十七條 收稅官吏入場税法第十五條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スヘシ

附 則

本令ハ入場税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市制

(抄録) (明治四十四年四月七日法律第六十八號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第六十三號

町村制

(抄録) (明治四十四年四月七日法律第六十九號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第六十四號

(市制、町村制ノ内容同一ナルモノハ條文ヲ併記シ共通セシメ其ノ異ナル所ノミ市制ヲ右方ニ町村制ヲ左方ニ記ス)

第九十六條

市ハ其必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬ス費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第九十七條

市ハ其ノ支出ニ充ツル爲市税、分擔金及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第九十八條

市税及其ノ賦課徴收ニ關シテハ地方税法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條

削除 (昭和十五年三月法律第六十三號及六十四號)

第一百條

(同上)

第一百零一條

(同上)

第一百零二條

(同上)

第一百零三條

(同上)

第一百零四條

(同上)

第一百零五條

(同上)

第一百零六條

(同上)

第一百零七條

(同上)

第一百零八條

(同上)

第一百零九條

(同上)

分擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ數人若ハ市ノ一部ヲ利スル財產若ハ營造物又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ利益アル事件ニ關シ特ニ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ徴收ス (昭和十五年法律第六十三號及第六十四號)

第一百一十條

削除 (昭和十五年法律第六十三號及第六十四號)

入場税法施行細則

(昭和十五年四月一日大蔵省令第十七號)

第一條 入場税法施行規則第六條及第十五條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スベシ
 第二條 日本銀行ニ於テ入場税及特別入場税ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スベシ

附 則

本令ハ入場税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙適宜輪廓横四寸五分 縦三寸三分)

入場税(又ハ特別入場税)拂込書

第 何 號	何 年 度	大 藏 省 主 管
租 税	入 場 券	入 場 税 (又 特別入場税)
何 税 務 署		
Y		
頭書ノ金額拂込候也		
場 所		
住 所		
氏名又ハ名稱印		
日本銀行何店宛		
昭和何年何月何日		

備 考

本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

昭和何年何月分
 入場税(又ハ特別入場税)徴收高計算書

所轄税務署 何税務署

區分	總額	内 課 税				免 税	摘 要	
		課 税		免 税				
		人員	料	人員	料			
	(特別入場料)	(特別入場料)	(特別入場料)	(特別入場料)	円	円	円	円
第一種								
何	回数定期又ハ貸切契約ニ依ルモノ							
	何圓ノモノ							
	何十錢ノモノ							
	、 、 、 、 、							
々	十九錢ニ滿タザルモノ							
	計							
何	回数定期又ハ貸切契約ニ依ルモノ							
	何圓ノモノ							
	何十錢ノモノ							
	、 、 、 、 、							
々	十九錢ニ滿タザルモノ							
	計							
第二種								
何	々							
	、 、 、 、 、							
合	計							

昭和何年何月何日

場所 何府縣何市何町何番地

何某又ハ何會社理

備考

- 一、區分ノ欄ニハ入場税法第二條ニ規定スル催物又ハ設備ノ種類並ニ通常ノ料金額ヲ掲グルモノトス但シ第二種ノ場所ニ付テハ設備ノ種類ノミヲ掲グ
- 二、總額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ入場料ヲ徴シタル全部ノ人員及入場料金額ヲ掲グルモノトス

第三號書式(用紙横八寸五分)

備考 日本銀行、本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

第何號	第何年度	入場税(又特別入場税)
何年	何月	何日
領收證書	納	納
場所	住所	氏名又ハ名稱
日本銀行何店理	Y	昭和何年何月何日領收

第何號	第何年度	大藏省主管
何年	何月	何日
通知書	租税	入場税(又特別入場税)
場所	住所	氏名及ハ名稱
何税務署長官氏名殿	Y	昭和何年何月何日領收
日本銀行何店理		

第三號書式(用紙適宜輪廓横四寸五分二枚接續)

入場税法施行規則ノ規定ニ依ル検査章書式

(昭和十五年四月一日大藏省令第十八號)

入場税法施行規則第十七條ノ規定ニ依ル検査章ノ書式左ノ通定ム
書式(用紙厚質白紙縦二寸五分横一寸五分)

第何號	何稅務署	官氏名
入場稅ニ關スル検査章	署名印	
特別入場稅ニ關スル検査章	署名印	
年月日交付	何稅務署	

本令ハ入場税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

狩獵法

(抄錄)(大正七年四月四日法律第三十二號)

改正 大正十一年四月二十八日法律第七十四號
昭和十五年三月二十九日法律第四十七號

第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、竊繩、箕、鉤又ハ毘ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ柵、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス
甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス
狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス
(第四項略)

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ
一等 綜合所得稅ヲ納ムル者及其ノ家族 七十圓
二等 一等以外ノ者ニシテ分類所得稅年額二十圓以上ヲ納ムル者及其ノ家族 四十圓
三等 一等及二等以外ノ者 十八圓
前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年勅令第三百八十一號ヲ以テ大正八年九月一日ヨリ施行)
附 則 (昭和十五年法律第四十七號)
本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ日ヨリ昭和十六年四月十五日迄ニ狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ付テハ昭和十四年分所得稅二百圓以上ヲ納ムル者及其ノ家族ヲ以テ第八條ニ規定スル一等ニ該當スル者、昭和十四年分所得稅ヲ納ムル者及其ノ家族ヲ以テ同條ニ規定スル二等ニ該當スル者、此等ノ者以外ノ者ヲ以テ同條ニ規定スル三等ニ該當スル者ト看做シ本法ヲ適用ス

狩獵法施行規則

(抄錄) (大正八年八月十六日農商務省令第二十八號)

第六條 狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ
附 則
第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法

(抄錄) (明治三十二年三月十四日法律第六十一號)

- 第二十九條ノ二 本法ニ於テ保税地域ト稱スルハ稅關構内、保税倉庫、(稅關假置場)、稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ
- 第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得
- 一 遭難船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ
 - 二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ
 - 三 遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ
 - 四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ
- 第七十五條 關稅ノ逋脱ヲ圖リ又ハ關稅逋脱シタル者ハ其ノ逋脱ヲ圖リ又ハ逋脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ掲クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス
- 第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ前條但書ニ掲クル貴石ナルトキハ罰金ハ五千圓以下トシ其ノ原價カ五千圓ヲ超ユルトキハ原價ニ相當スル金額以下トス

關稅定率法

(抄錄) (明治四十三年四月十五日法律第五十四號)

- 第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス
- 第二條 從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス
- 第七條 左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免除ス
 - 一 御料品
 - 二 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及共ノ一族並其ノ從者ニ屬スル物品

- 三 陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器、彈藥及爆發物
- 四 政府ノ輸入ニ係ル燃料用礦油
- 五 軍艦
- 六 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其ノ他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品及在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品但シ本邦ヨリ派遣シタル大使、公使其ノ他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品又ハ本邦大使館若ハ公使館ニ屬スル公用品ニ對シ免税ニ制限ヲ附スル國ニ付テハ相互條件ニ依ル
- 七 本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦領事館ニ屬スル公用品
- 八 本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章
- 九 記録文書其ノ他ノ書類
- 十 官立公立ノ學校、博物館、物品陳列所等ノ營造物及命令ヲ以テ指定シタル私立ノ學校ニ陳列スル標本又ハ參考品ニシテ大藏大臣ノ認許シタルモノ
- 十一 慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈セラレタル給與品及孤兒院、養老院、施療病院等ノ慈善團體ニ寄贈セラレタル物品ニシテ直接慈善ノ用ニ供スルモノ
- 十二 社寺、教會又ハ禮拜堂ニ寄贈セラレタル式典用具及禮拜用具
- 十三 政府ノ專賣品又ハ酒精ノ製造ニ供スル原料品ニシテ政府ノ輸入ニ係ルモノ
- 十四 商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル
- 十五 旅客ノ用品及旅客ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ稅關力適當ト認メタルモノニ限ル
- 十六 在外軍隊、軍艦又ハ公館ヨリ送還シタル物品
- 十七 個人ニ屬ス引越荷物但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル
- 十八 輸出シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレレ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖及第八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク
- 十九 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ但シ第八條ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ除ク
- 二十 本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採收シタル魚介類、海獸、海藻其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ル
- 二十一 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲引渡ス物品但シ第十條ニ掲ケタル物品ヲ除ク
- 二十二 難破シタル本邦船舶ノ解體材及鐵裝品
- 二十三 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲積戻リタルモノ但シ第八條又ハ第九條ニ依リ輸入稅ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク
- 二十四 國道府縣其ノ他ノ公共團體、政府ノ指定スル産業ニ關スル法人又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ輸入スル種用動物、獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液
- 二十五 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認許ヲ受ケ輸入スル航空機又ハ航空機用ノ發動機若ハプロペラ
- 二十六 左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再ヒ輸出スルモノニハ輸入稅ヲ免ス但シ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

- 一 加工ノ爲輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ
- 二 輸入貨物ノ容器ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ
- 三 輸出貨物ノ容器ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ
- 四 修繕ノ爲輸入スル物品
- 五 學術研究ノ爲輸入スル物品
- 六 試驗品トシテ輸入スルモノ
- 七 注文取集ノ爲輸入スル見本品
- 八 製作見本品トシテ輸入スルモノ
- 九 本邦ニ渡來スル巡回興行者カ輸入スル興行用物品
- 十 博覽會、展覽會共進會又ハ品評會等へ出品スル爲輸入スル物品
- 十一 輸入原料品ニシテ命令ヲ以テ指定シタル輸出品ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得
- 十二 輸入原料品ニシテ製帽用兎毛、纖維素バルブ、機械用若ハ工業用ニ供スル爲形ツクリタル貴石、茶鉛、厚〇・一七ミリメートルヲ超エサル亞鉛薄板又ハ命令ヲ以テ指定シタル油又ハ酒精ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得

入税ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得
 欺詐其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第一項又ハ第二項ノ拂戻ヲ受ケムトシタル者ハ關稅法第七十五條ノ例ニ依リ處分ス

關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件

(大正十年五月三十日勅令第二百三十八號)

改正

大正十一年三月三十日勅令第七十七號	昭和十一年六月六日勅令第九十三號
大正十四年四月十一日勅令第九十二號	昭和十二年八月十一日勅令第九十二號
昭和二年四月十一日勅令第九十二號	昭和十三年八月十一日勅令第九十二號
昭和四年四月十一日勅令第九十二號	昭和十四年八月十一日勅令第九十二號
昭和六年四月十一日勅令第九十二號	昭和十五年八月十一日勅令第九十二號
昭和八年四月十一日勅令第九十二號	昭和十六年八月十一日勅令第九十二號
昭和十年四月十一日勅令第九十二號	昭和十七年八月十一日勅令第九十二號
昭和十二年四月十一日勅令第九十二號	昭和十八年八月十一日勅令第九十二號
昭和十四年四月十一日勅令第九十二號	昭和十九年八月十一日勅令第九十二號
昭和十六年四月十一日勅令第九十二號	昭和二十年八月十一日勅令第九十二號

第一條 關稅定率法第九條第一項ノ規定ニ依リ製造品並輸入原料品及之ニ對スル輸入税ノ免除又ハ拂戻ノ率ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種

製造品

一 硝子

輸入原料品

拂戻率

無色平面ノ硝子板(厚四ミリメートルヲ超エサルモノヲ除ク)

イ 千平方センチメートルヲ超エサルモノ

使用原料ニ付每百平方メートル 百三圓二十七錢

金屬ヲ鍍セサル鐵線

使用原料ニ付每百平方メートル 二百四十九圓七十五錢

冷間壓延シタル帶鐵

製造品中ノ構成量ニ付 納付シタル輸入税ノ全部

時計用樂器

製造品中ノ構成量ニ付 納付シタル輸入税ノ全部

二 掛時計又ハ置時計

七〇七

三 飲食物罐詰 葉鐵 七〇八
 四 木箱用金具 葉鐵 九十四錢
 五 葉鐵製ノ罐、箱、甌、具、鈕釦、卷煙草入若ハ石鹼入又ハ葉鐵ヲ用キタル鏡 葉鐵 九十四錢
 九十四錢

六 罐入礦油又ハ罐入酒精 葉鐵 三錢三厘
 七 平紐、丸紐又ハ總類 金屬線 納付シタル輸入税ノ全部
 七十五圓

八 人造絹製品 人造絹 製造品中ノ構成量每百斤 七十圓
 九 衣服 毛織物又ハ毛綿交織物(天蔴絨、ブラツシユ其ノ他ノバイル織物ヲ除ク) 製造品中ノ構成量每百斤 七十五圓

イ 一平方メートルノ重量 七十圓八十七錢
 百グラムヲ超エ二百グラムヲ超エサルモノ 八十一圓五十四錢
 ロ 一平方メートルノ重量 四十四圓一錢
 五百グラムヲ超エサルモノ 四十四圓一錢

ハ 一平方メートルノ重量 四十四圓一錢
 五百グラムヲ超エタルモノ 四十四圓一錢
 十 硝子器 曹達灰 十一錢三厘

十一 硝子板 曹達灰 六十錢
 イ 厚四ミリメートルヲ超エサルモノ 六十錢
 ロ 其ノ他 一圓一錢

十二 珉瑯鐵器 曹達灰 二圓六十三錢
 金屬ヲ鍍セサル鐵板(全重量百分中硅素ノ重量一以上ノ硅素鋼板ヲ除ク) 使用原料ニ付每百斤
 厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ 一錢三厘

十三 罐入麥酒 曹達灰 一圓六錢
 曹達灰 一錢三厘
 曹達灰 六十八錢

十四 罐入清涼飲料 曹達灰 七錢八厘
 十五 オルガン 曹達灰 三十七圓八十錢
 十六 鑄鐵管 鑄鐵 三十六錢
 十七 アルミニウムノ條、竿、板、箔、線若ハ撚合線(鋼心ノ有無ヲ別タス)又ハ其ノ製品 製造品中ノ構成量每百斤 十七圓七十錢

アルミニウム又ハアルミニウム合金ノ屑又ハ故(改造用ノミニ適スルモノ) 製造品中ノ構成量每百斤 十七圓七十錢

九	板、線、撚合線、筒、管又ハ其ノ製品 眞鍮、青銅又ハ其ノ他ノ銅合金ノ塊、錠、條、竿、板、線、撚合筒、管又ハ其ノ製品	銅ノ屑又ハ故(改造用ノミニ適スルモノ) 銅、眞鍮又ハ青銅ノ塊又ハ錠、銅、眞鍮又ハ青銅ノ屑又ハ故(改造用ノミニ適スルモノ) 亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	每百斤 每百斤 每百斤	七二二 七圓 七圓
十	鉛ノ板又ハ管	鉛ノ塊又ハ錠	每百斤	四十錢
十一	絶縁電線	銅ノ塊又ハ錠 銅ノ屑又ハ故(改造用ノミニ適スルモノ) 鉛ノ塊又ハ錠 鉛ノ塊又ハ錠	每百斤 每百斤 每百斤 每百斤	七圓 七圓 四十錢 四十錢
十二	鉛白、鉛丹又ハリ	鉛ノ塊又ハ錠	每百斤	四十錢
十三	砒酸鉛	鉛ノ塊又ハ錠	每百斤	四十錢
十四	亞鉛白(酸化亞鉛及硫化亞鉛)	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	每百斤	三圓
十五	白色ペイント	鉛ノ塊又ハ錠 亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	每百斤 每百斤	四十錢 三圓
十六	亞鉛鍍鐵板	金屬ヲ鍍セサル鐵(板全重量百分中硅素ノ重量一以上ノ硅素鋼板ヲ除ク) 厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ	每百斤	二圓六十三錢

十七	鐵ノ線、線索、撚合線、ワイヤ、ドツウ、イストワイヤ、釘、ステープル又ハ網(卑金屬ヲ鍍シタルト否トヲ別タス)	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒 ワイヤ、ドツウ(卷キタルモノ) 亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	每百斤 每百斤 每百斤	三圓 一圓三十錢 三圓
十八	錫箔	錫ノ塊又ハ錠 鉛ノ塊又ハ錠	每百斤 每百斤	三圓七十五錢 四十錢
十九	織物	家蠶絲	從價	二割五分
第二條	關稅定率法第九條第二項ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル原料品及之ニ對スル輸入稅ノ免除率ヲ定ムルコト左ノ如シ	輸入原料品	從價 免 除 率	四割
一	製帽用兔毛	兔毛皮	從價	四割
二	纖維素バルブ	木材	從價	四割
		一 ネヅコ屬(レツドシダ等)及ツガ屬(ヘムロツク等)		
		イ 厚六十ミリメートルヲ超エ二百ミリメートルヲ超エサルモノ	每立方メートル	七圓四十二錢
		ロ 厚二百ミリメートルヲ超エタルモノ	每立方メートル	四圓九十九錢
		ハ 丸太及割材	每立方メートル	四圓四十五錢
		ニ モミ屬(トドマツ等)		七二二

タウヒ屬(エゾマツ、スプル
イス等)及カラマツ屬(落葉松
等)

七一四

三 機械用又ハ工業用ニ
供スル爲形ツクリタ
ル貴石

イ 厚二百ミリメートルヲ
超エサルモノ 每立方メートル 六圓
ロ 其ノ他(丸太及割材ヲ
含ム) 每立方メートル 三圓六十四錢
從價 五分

四 茶鉛

鉛ノ塊又ハ錠 每百斤 四十錢
亞鉛ノ塊、錠又ハ粒 每百斤 三圓

五 厚〇・一七ミリメ
ートルヲ超エサル亞鉛
薄板

鉛ノ塊又ハ錠 每百斤 四十錢
亞鉛ノ塊、錠又ハ粒 每百斤 三圓

六 油

イ 落花生油

落花生

イ 脱殻セサルモノ 每百斤 一圓六十八錢
ロ 其ノ他 每百斤 二圓四十三錢
大豆 每百斤 三圓三十七錢

七 油精

大豆油精 每百斤 九十四錢
胡麻子油精 每百斤 十四錢
荳蔻子油精又ハ芥子
油精 每百斤 十四錢

大豆 每百斤 九十四錢
胡麻子 每百斤 十四錢
荳蔻子又ハ芥子 每百斤 十四錢

一圓六十八錢
二圓四十三錢
三圓三十七錢
九十四錢
十四錢
十四錢
六十錢

第三條 前二條ニ掲タル製造品ノ製造ニハ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用スルコトヲ得ス但シ第一條第二種製造品及
前條製造品ノ製造ニ付豫メ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前二條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ以テスル製造ハ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ之ヲ爲スコ
トヲ要ス

第三條ノ二 輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用セサル第一條第二種第一號ノ精製糖、第八號ノ銅ノ條、竿、板若ハ線、
第九號ノ眞鍮若ハ青銅ノ條、竿、板若ハ線、第十二號ノリサージ又ハ第十四號ノ亞鉛白(酸化亞鉛及硫化亞鉛)ハ之ヲ同
條第二種第二號ノ氷砂糖、第八號ノ銅ノ線、捻合線若ハ製品中ランブ口金、蝶鍬、鋸、釘若ハ洗面器類、第九號ノ眞鍮若
ハ青銅ノ製品中ランブ口金、蝶鍬、鋸、釘、洗面器類若ハ食器類、第十一號ノ絶緣電線、第十三號ノ砒酸鉛又ハ第十五號
ノ白色ベイントノ製造ニ使用スルコトヲ得

第三條ノ三 第一條第一種原料品輸入ノ日ヨリ三年内ニ其ノ製造品ヲ輸出セサルトキハ輸入原料品ニ對スル輸入税ノ拂戻ヲ
爲サス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ輸入税ノ免除ヲ受ケタル原料品ノ輸入申告者ヨリ輸入税ヲ追徴ス但シ第四號
及第五號ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ輸入原料品又ハ其ノ製造品カ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルコト
ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 輸入原料品ヲ他ノ用途ニ供シタルトキ

二 第三條二ノ場合ヲ除クノ外第一條ノ製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供シタルトキ

三 第三條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 第一條第二種原料品輸入ノ日ヨリ左ノ期間内ニ製造品ヲ輸出セサルトキ
第一號、第二號及第十九號ノ製造品ニ付テハ一年
第三號乃至第十八號ノ製造品ニ付テハ二年

五 第二條ノ原料品輸入ノ日ヨリ一年内ニ製造ヲ終ヘサルトキ

第五條 當該官吏ハ隨時製造場又ハ藏置場ニ就キ原料品、製造品、副産物、製造用器具機械又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ
得

第六條 當該官吏ハ原料品、製造品、副産物、藏置場又ハ製造用器具機械ニ封印ヲ施シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

七一六

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第二百六十五號及同年勅令第二百六十六號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ明治三十九年勅令第二百六十五號第一條ノ製造品ヲ製造シ大正十一年五月三十一日迄ニ輸出シタル者ニハ仍同令ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ肥料ヲ製造シタル者ニ對シテハ仍舊令ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

附 則 (大正十一年勅令第七十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十四年勅令第二百九十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ第一條第一種ノ製造品ヲ製造シ本令施行後輸出シタル者ニ對シテモ仍本令ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

附 則 (大正十五年勅令第五十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ第一條第一種ノ製造品ヲ製造シ本令施行後輸出シタルモノニ對シテハ仍從前ノ例ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

附 則 (昭和二年勅令第五十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル酸化コバルトヲ用ヒテ珽瑯鐵器ヲ製造シ本令施行後輸出シタル者ニ對シテハ仍從前ノ例ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

附 則 (昭和四年勅令第二百二十六號)

從前ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル砂糖ニシテ本令施行後輸入税ヲ追徴スルモノニ付テハ仍從前ノ免除率ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和六年勅令第三十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル人造絹ヲ用ヒテ人造絹製品ヲ製造シ本令施行後輸出シタル者ニ對シテハ仍從前ノ例ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

附 則 (昭和七年勅令第八十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用ヒテ第一條第一種ノ製造品ヲ製造シ本令施行後輸出シタル者ニ對シテハ仍從前ノ例ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ爲ス

附 則 (昭和九年勅令第二百七十五號)

從前ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル原料品ニシテ本令施行後輸入税ヲ追徴スルモノニ付テハ仍從前ノ免除率ニ依ル

附 則 (昭和九年勅令第二百七十五號)

本令ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル第一條第一種ノ原料品ヲ用ヒテ製造シタル製造品ヲ本令施行後輸出シタル者ニ對シテハ第三條ノ三ノ規定ハ之ヲ適用セス

本令施行前輸入シタル關稅定率法別表第二百九十八號ノ八ノ丙若ハ九ノ丙ニ屬スル染色若ハ捺染シタル綿織物(百平方メートルニ付二十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數二十七ヲ超エタルモノ)又ハ金屬ヲ鍍セサル鋼線ヲ用ヒテ製造シタル洋傘ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル麥芽又ハ醋酸石灰ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和十年勅令第七十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十一年勅令第九十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル左ノ上欄ニ掲クル物品ヲ用ヒテ製造シタル各其ノ相當下欄ニ掲クル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

七一七

鋼リボン	掛時計又ハ置時計
アルミニウムノ塊、錠、粒、條、竿、板又ハ線	アルミニウムノ條、竿、板、箔、線若ハ捲合線（鋼心ノ有無ヲ別タズ）又ハ其ノ製品
リボン、帶（捲鐵）	自動車用リム
アルミニウム箔	アルミニウム箔製容器入茶

附 則（昭和十一年勅令第二百六十二號）
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和十一年勅令第四百六十八號）
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和十二年勅令第四百十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第一種第八號、同種第二十號、同條第二種第一號、同種第二號、同種第八號乃至第十八號、第二條第二號及同條第三號ノ改正規定ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ノ輸入税率ニ依リ課稅セラレタル左ノ上欄ニ掲クル物品ヲ用ヒテ製造シタル各其ノ相當下欄ニ掲クル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ輸入稅ノ拂戻ヲ爲ス

人造絹	人造絹製品
苛性曹達	過酸化曹達
原油（トツピングシタルモノヲ含ム）及重油	燈油（攝氏十五度ニ於ケル比重〇・八〇一七ヲ超エ〇・八四九八ヲ超エサルモノ）

從前ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ニシテ本令施行後輸入稅ヲ追徵スルモノニ付テハ仍從前ノ免除率ニ依ル

附 則（昭和十三年勅令第二百一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル木材ノ内マツ屬（紅松等）ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則（昭和十四年勅令第十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅定率法第九條施行ニ關スル件

(大正十年五月三十一日
日大藏省令第十八號)

改正 大正十四年十月十一日 日省令第二十號
昭和四年五月十八日 日省令第七號
同 十一年六月一日 日省令第十六號
大正十五年四月二日 日省令第十八號
昭和九年九月十九日 日省令第三十一號
同 十一年十二月二十八日 日省令第四十號

- 第一條** 大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種原料品又ハ第二條ノ原料品ヲ用キテ製造ヲ爲サムトスル者ハ製造品ノ名稱、製造場、原料品又ハ製造品ノ藏置場、一年間ニ於ケル原料品使用見込高及原料品ノ輸入手數ヲ爲スヘキ稅關名ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受ケヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 前項ノ承認ハ落花生油又ハ油槽ニ付テハ一製造場ニ於テ使用スヘキ輸入原料品中一品ノ使用見込高一年三十萬斤ニ達スルモノアル場合ニ限り之ヲ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種第三號乃至第五號ノ物品ニ付テハ落花生油又ハ油槽ノ製造ニ付承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ製造スルモノニ限り之ヲ與ヘ又大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ二ノ規定ニ依リ製造セムトスル銅、真鍮又ハ青銅ノランプ口金、蝶鍬、鋸、釘、洗面器類若ハ食器類ニ付テハ一製造場ニ於テ使用スヘキ輸入原料品ノ使用見込高一年二萬斤ニ達スルモノアル場合ニ限り之ヲ與フルモノトス
- 第二條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製造場所轄稅務署ハ前條ノ承認ヲ取消スコトヲ得
- 一 製造者カ大正十年勅令第二百三十八號又ハ本令其ノ他關稅ニ關スル法令ニ違反シ又ハ當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ
- 二 落花生油、油槽又ハ大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ二ノ規定ニ依リ銅、真鍮又ハ青銅ノランプ口金、蝶鍬、鋸、釘、洗面器類若ハ食器類ヲ製造スル者ノ毎二年ノ輸入原料品使用高ノ一年平均カ前條第二項ノ斤數ニ達セサルトキ
- 第三條** 製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一月前ニ製造場所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ
- 第四條** 輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル原料品ノ輸入申告ハ第一條ノ承認ヲ受ケタル製造者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ附記スルコトヲ受ス
- 第五條** 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用セムトスル者ハ使用前原料品ノ名稱、種類、數量、使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ記シタル文書ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書添附シ製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受ケヘシ
- 大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ二ノ規定ニ依リ氷砂糖、銅ノ線、燃合線、銅、真鍮又ハ青銅ノランプ口金、蝶鍬、鋸、釘、洗面器類若ハ食器類、絕緣電線、砒酸鉛又ハ白色ベイントノ製造ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ輸入免狀又ハ證明書

明書ニ代フルニ精製糖、銅、眞鍮又ハ青銅ノ條、竿、板若ハ線、リサージ又ハ亞鉛白(酸化亞鉛及硫化亞鉛)ニ對スル稅務署ノ製品検査書ヲ以テスヘシ

第六條 大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ原料品ヲ混淆使用シテ製造ヲ爲サムトスル者ハ前條第一項ノ規定ニ依ル申告書ニ混淆スヘキ他ノ原料品ノ品名、種類、數量及使用ノ割合ヲ附記スヘシ

第六條ノ二 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ其ノ製造品ニシテ天災其ノ他己ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ原料品ノ輸入申告者ハ其ノ事實ヲ原料品ノ輸入手數ヲ爲シタル稅關ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ亡失シタル地ノ所轄稅務署又ハ警察官署ノ亡失證明書ヲ前項申告ノ際提出セシムルコトヲ得

第七條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ他ノ用途ニ供セムトスルトキ又ハ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供セムトスルトキハ製造者ハ其ノ旨製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

第八條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ製造品及副産物ハ他ノ同種ノ原料品又ハ製造品及副産物ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第九條 製造者輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シ製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ製造品及副産物ノ名稱及數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ検査ヲ受クヘシ

第十條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シテ製造シタル物品又ハ副産物ヲ製造場ヨリ搬出セムトスルトキハ其ノ名稱、數量及搬出先ヲ記シタル文書ヲ以テ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 大正十年勅令第二百三十八號第一條ノ製造品ヲ輸出セムトスルトキハ輸出申告書ニ第一種品ニ在リテハ製造者ノ作成シタル製造證明書及其ノ原料品ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書第二種品ニ在リテハ稅務署ノ製品検査書ヲ添附スヘシ

第一種品ニシテ拂戻率カ從價稅ニ依レルモノニ在リテハ納付シタル輸入稅額ヲ證スヘキ書類ヲモ添附スルコトヲ要ス

第一項ノ製造證明書又ハ製品検査書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 第二種製造品ニ付テハ原料品ノ輸入免狀番號及輸入手數ヲ爲シタル稅關名
- 二 製造品ノ名稱及數量
- 三 第一種製造品ニ付テハ製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ名稱、種類及數量第二種製造品ニ付テハ其ノ製造ニ使用シタル

輸入原料品ノ名稱、種類及數量但シ大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副産物ニ付テハ各原料品ノ割合

四 製造場

五 證明書又ハ検査書作成ノ年月日

第十二條 製造者大正十年勅令第二百三十八號第二條製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ其ノ製造品及副産物ノ名稱、數量竝ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シ検査ヲ受ケ其ノ製品検査書ヲ稅關ニ提出スヘシ
前項ノ製品検査書ハ前條第二種品ノ検査書ニ準シ作成スヘシ

第十三條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ用キ製造シタル第二種製造品ヲ輸出スルトキハ其ノ原料品ノ輸入手數ヲ爲シタル稅關ヲ經由スヘシ但シ輸入手數ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 輸入稅ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ製造品輸出稅關ニ申請スヘシ

- 第十五條 製造者ハ左記事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
 - 一 輸入原料品ノ名稱、種類、數量、藏置場、輸入手數ヲ爲シタル稅關及製造場ニ搬入ノ年月日
 - 二 使用シタル輸入原料品及之ヲ混淆使用シタル他ノ同種ノ原料品ノ名稱、種類、數量及使用ノ年月日
 - 三 製造品及副産物ノ名稱、數量及製造ノ年月日但シ輸入原料品ト他ノ同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副産物ニ付テハ各原料品ノ使用割合
 - 四 第九條ノ検査ヲ受ケタル製造品及副産物ノ名稱、數量及検査ノ年月日
 - 五 製造場ヨリ搬出シタル原料品、製造品及副産物ノ名稱、數量、搬出先及搬出ノ年月日
 - 六 原料品、製造品又ハ副産物ニシテ製造場ニ於テ亡失シタルモノアルトキハ其ノ名稱、種類、數量、亡失ノ事由及其ノ年月日

附 則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十四年會令第二十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十五年會令第十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和四年舊令第七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和九年舊令第三十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十一年舊令第十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十一年舊令第四十號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

贅澤品等ノ輸入税ニ關スル法律

大正十三年七月三十一日法律第二十四號

改正

大正十四年四月一日法律第四十一號
昭和四年三月三十日法律第三十四號
昭和十一年四月六日法律第四十號
昭和十二年六月一日法律第四十號

關稅定率別表輸入稅表ニ掲クル物品ニシテ本法ノ別表ニ掲クルモノニハ當分ノ内同輸入稅表ニ依ラス從價十割ノ輸入稅ヲ課ス

切リ若ハ磨カサル半貴石ハエヲ加ヘサル琥珀ニシテ機械用品又ハ工業用品ノ製造ニ供スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル輸入稅ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際免除スヘキ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十四年法律第四十一號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和四年法律第三十四號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十年法律第四十號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十一年法律第四十號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年法律第二十四號第二項ニ掲クル貴石、半貴石 又ハ琥珀ノ輸入税一部免除ニ關スル件 (大正十四年四月一日 日勅令第五十六號)

改正 昭和十年四月六日勅令第七十二號

第一條 大正十三年法律第二十四號第二項ニ掲クル半貴石又ハ琥珀ノ輸入税ニ付テハ左ノ割合ニ依リテ算出シタル金額ヲ免
除ス

半貴石

輸入税ノ八割

琥珀

輸入税ノ八割

第二條 大正十年勅令第二百三十八號第三條第二項、第四條第一號第三號第五號、第五條及第六條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依
リ輸入税ヲ免除スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附

則 (昭和十年法律第七十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年勅令第五十六號施行ニ關スル件 (大正十四年四月一日 日大藏省令第八號)

大正十四年勅令第五十六號ノ施行ニ關シテハ大正十年大藏省令第十八號第一條第一項、第二條第一號、第三條、第四條、第
五條第一項、第七條、第八條、第十條、第十二條及第十五條ノ規定ヲ準用ス

附

則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國税免

除ニ關スル法律 (大正九年八月七日法律第五十一號)

改正

大正十五年三月二十七日法律第二十三號
昭和十二年三月三十一日法律第六號
昭和十三年三月三十一日法律第六十六號
昭和十四年三月三十一日法律第五十一號
昭和十五年三月二十九日法律第四十九號

(北支事件特別税法)
(支那事變特別税法)
(支那事變特別税法中改正法律)

左ニ掲クル物品ニシテ内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ内國税ヲ免除若ハ拂戻
シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得、但シ織物及織物製品ノ物品税ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (昭和十五年法律第四十九號改正)
酒類、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糖水、織物、織物製品、揮發油、骨牌、燐寸、飴、葡萄糖、麥芽糖、物品税法第一條ニ掲
クル第二種ノ物品 (昭和十三年法律第五十一號改正) (昭和十四年法律第四十八號改正) (上)

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附

則 (大正十五年法律第二十三號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附

則 (昭和十三年法律第五十一號)

本法施行前朝鮮ニ移出シタル醬油、賣藥及賣藥類似品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附

則 (昭和十二年法律第六號)

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附

則 (昭和十三年法律第五十一號)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附

則 (昭和十四年法律第四十八號)

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附

則 (昭和十五年法律第四十九號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件

(大正九年八月二十六日勅令第二百一十一號)

七三〇

改正 大正十年六月二十八日勅令第二百九十號
同 十五年三月三十一日勅令第三百九十九號
昭和十五年三月三十一日勅令第六十號

大正九年法律第五十一號ニ依ル内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅ノ免除若ハ拂戻又ハ交付金ノ交付ニ關シテハ輸出免狀ニ關スル規定ヲ除クノ外外國ニ輸出スル該物品ニ付テハ酒稅法第八十四條第二項ニ規定スル出港稅ニ付テハ酒類ノ酒類庫出稅ニ關スル規定)ヲ準用ス但シ輸出手續ニ關スル稅關ノ事務ハ移出ヲ爲サムトスル地ノ所轄稅務署之ヲ行フ
消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ對スル交付金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ規定ニ依ルノ外朝鮮ニ於ケル稅關ノ移入免狀、又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ當該稅務署ニ提出スヘシ但シ郵便ニ依リ移出シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ骨牌稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ニ付之ヲ準用ス

附 則 本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年勅令第二百九十號)
本令ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十五年勅令第三百九十九號)
本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十五年勅令第六十號)
本令ハ昭和十五年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律

(大正九年八月七日法律第五十二號)

改正 大正十一年四月十八日法律第四十九號

第一條 朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ内地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ノ規定ニ依リテ課セラルヘキ出港稅

ヲ連脱シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收ス但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條 前條ノ出港稅ヲ連脱シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條 第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第四條 朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第五條 間接國稅犯者則處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十一年法律第四十九號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (大正十一年法律第四十九號)

大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

(大正九年八月二十六日勅令第三百十二號)

大正九年法律第五十二號第五條ノ規定ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ收稅官吏及稅關官吏トシ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ稅關官吏ノ發見ニ係ル犯則事件ニ付テハ犯則事件發見地ヲ管轄スル稅關長トシ其ノ他ノ事件ニ付テハ内地ニ在リテハ稅務署長樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長トス
大正九年法律第五十二號ニ依ル犯則事件ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

附 則 本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

七三一

朝鮮出港稅令(抄錄)(大正九年八月二十六日勅令第二十一號)

- 第一條 朝鮮ヨリ内地、臺灣又ハ樺太ニ移出スル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ出港稅ヲ課ス
- 一 移出先ニ於テ内國稅ヲ課スル物品但シ揮發油、朝鮮支那事變特別稅令第三十七條ニ掲クル物品ニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノ及移出先ニ輸入スル場合ニ内國稅ヲ課セサル物品ニシテ朝鮮ニ輸入シタルモノヲ除ク
 - 二 朝鮮ニ於テハ移出先ニ於ケル輸入稅ノ稅率ヨリ低キ稅率ニ依リ輸入稅ヲ課シ又ハ朝鮮ニ於テノ輸入稅ヲ免除シ若ハ無稅ト爲シタル物品
 - 三 帝國內ニ於テ製造シタル織物製品ニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノ但シ移出先ニ於テ内國稅ヲ課セサル織物ヲ以テ製造シタルモノヲ除ク
 - 四 朝鮮ニ於テ砂糖又ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル菓子又ハ糖果
 - 五 朝鮮ニ於テ飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ原料トシタル菓子又ハ糖果
- 第二條 出港稅ノ稅率ハ左ノ區分ニ依ル
- 一 前條第一號ノ物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル内國稅ノ稅率ト同一ノ稅率
 - 二 前條第二號ノ物品中輸入稅ヲ免除シ又ハ無稅ト爲シタル物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル輸入稅ノ稅率ト同一ノ稅率、其ノ他ノ物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル輸入稅ノ稅率ト朝鮮ニ於ケル輸入稅ノ稅率トノ差ニ相當スル稅率
 - 三 前條第三號ノ織物製品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル織物ノ價格ノ百分ノ九
 - 四 前條第四號ノ物品ニ在リテハ含有蔗糖百斤ニ付七圓八十錢ノ稅率
 - 五 前條第五號ノ物品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖百斤ニ付二圓ノ稅率
- 前項ノ規定ノ適用ニ付テハ從價稅品ノ課稅價格ハ移出港ニ於ケル市價ニ依ル同一物品ニシテ前條第一號及第二號ニ該當スルモノニ付テハ第一項第一號及第二號ノ稅率ヲ適用ス
- 第三條ノ二 移出先ニ於テ工業用ニ供スル葡萄酒ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ出港稅ヲ免除ス但シ移出ノ際稅金ニ相當スル據保ヲ提供セシムルコトヲ得
- 朝鮮支那事變特別稅令第四十七條第三項ノ規定ハ前項ノ葡萄酒ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ工業用ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第四條 左ニ掲クル物品ニシテ移出ノ日ヨリ一年内ニ移入スルモノニハ出港税ヲ免除ス但シ移出ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一 加工ノ爲移出スル物品ニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノ

二 學術研究ノ爲移出スル物品

三 試験品トシテ移出スルモノ

四 注文取集ノ爲移出スル見本品

五 製作見本品トシテ移出スルモノ

六 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等ニ出品スル爲移出スル物品

第四條ノ二 骨牌ノ出港税ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第五條 朝鮮總督ハ必要アリトキハ出港税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシメテ六月以内出港税ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六條 出港税ヲ課スヘキ物品ノ移出者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品又ハ其ノ包裝ニ納税済又ハ検査済ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼付ヲ受クヘシ

第十條 内地、臺灣又ハ樺太ニ於テ前二條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本令ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第十一條 第六條及第七條第一項ノ規定ハ第一條ノ規定ニ依リ出港税ヲ課スル物品ト同種ノ物品ニシテ出港税ヲ課セサルモノニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ二 第一條第一號ノ物品又ハ内地、臺灣若ハ樺太ニ於テ製造シタル織物製品ニシテ保税倉庫又ハ假置場ニ藏置スルモノヲ内地、臺灣又ハ樺太ニ積戻ストキハ之ヲ移出ト看做シ本令ヲ適用ス

南洋群島出港税令(抄録)(大正十一年五月三十日勅令第二百九十六號)

南洋群島出港税令(抄録)(大正十一年五月三十日勅令第二百九十六號)

第一條 南洋群島ヨリ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ移出スル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ出港税ヲ課ス

一 移出先ニ於テ内國税ヲ課スル物品但シ骨牌及内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ内國税又ハ關稅ヲ課シタル物品並内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ輸入スル場合ニ内國税ヲ課セサル物品ニシテ南洋群島ニ輸入シタルモノヲ除ク

二 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ内國税ヲ課シタル物品ニシテ其ノ課セラレタル内國税ノ税率ヨリ高キ税率ノ内國税ヲ移出先ニ於テ課スルモノ

三 内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ製造シタル織物製品、菓子、糖果及酒精ヲ原料トスル酒類以外ノ製品但シ其ノ原料トシテ使用シタル物品ニシテ移出先ニ於テ内國税ヲ課セサルモノノ製品、其ノ原料トシテ使用シタル物品カ

内地朝鮮臺灣又ハ樺太ニ於テ内國税ヲ課セラレタルモノノ製品及其ノ原料トシテ使用シタル物品カ内地朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ輸入スル場合ニ内國税ヲ課セサル物品ニシテ内地朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ輸入シタルモノノ製品ヲ除ク

四 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ内國税ヲ課シタル物品ヲ原料トシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ製造シタル織物製品、菓子、糖果及酒精ヲ原料トスル酒類以外ノ製品ニシテ其ノ原料ニ對シ課セラレタル内國税ノ税率ヨリ高キ税率ノ内國税ヲ移出先ニ於テ課スルモノ

第二條 出港税ノ税率ハ左ノ區分ニ依ル

一 前條第一號ノ物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル内國税ノ税率ト同一ノ税率

二 前條第二號ノ物品ニ在リテハ其ノ課セラレタル内國税ノ税率ト移出先ニ於ケル内國税ノ税率トノ差ニ相當スル税率

三 前條第三號ノ物品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル物品ニ對スル移出先ニ於ケル内國税ノ税率ト同一ノ税率

四 前條第四號ノ物品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル物品ニ對シ課セラレタル内國税ノ税率ト移出先ニ於ケル内國税ノ税率トノ差ニ相當スル税率

前項ノ規定ニ適用ニ付テハ從價税品ノ課税價格ハ移出港ニ於ケル市價ニ依ル

第二條ノ二 南洋群島ヨリ内地ヲ經テ外國ニ輸出スル砂糖又ハ糖蜜ニシテ輸出免許後六月以内ニ輸出シタルコトノ證明ナキモノハ之ヲ内地ニ移出シタルモノト看做シ直ニ其ノ出港税ヲ徴收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ南洋廳長官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

七三五

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ南洋廳長官ハ輸出免許ノ際其ノ出港税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條 關稅定率法第七條第一號、第二號、第六號、第七號、第十號、第十一號、第十三號、第十四號及第十六號ノ物品並ニ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ通航スル船舶ノ船用品ニシテ南洋廳支廳ニ於テ適當ト認メタルモノニハ出港税ヲ免除ス

第四條 左ニ掲クル物品ニシテ移出ノ日ヨリ一年內ニ移入スルモノニハ出港税ヲ免除ス但シ移出ノ際税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

- 一 加工ノ爲移出スル物品ニシテ南洋廳長官ノ指定シタルモノ
- 二 學術研究ノ爲移出スル物品
- 三 試驗品トシテ移出スルモノ
- 四 註文取集ノ爲移出スル見本品
- 五 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等ニ出品スル爲移出スル物品

第四條ノ二 南洋群島ニ於テ製造シタル糖蜜ヲ内地、朝鮮又ハ樺太ニ於テ酒精製造ノ原料トシテ使用スル爲南洋廳支廳ノ承認ヲ受ケ移出スルトキハ出港税ヲ免除ス

前項ノ糖蜜ヲ移出スルトキハ南洋廳長官ハ其ノ出港税額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ糖蜜ヲ移出シタル後六日以内ニ酒精ヲ製造セサルトキハ出港税ヲ徵收ス但シ天災其ノ他己ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ南洋廳長官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ出港税ノ免除ヲ受ケタル者ハ糖蜜ヲ移出シタル後六月以内ニ酒精ヲ製造シタルコトヲ證明スル書類ヲ南洋廳支廳ニ提出スヘシ

前項ノ書類ハ内地ニ在リテハ酒精製造場所轄稅務署ニ、朝鮮及樺太ニ在リテハ酒精製造場所轄稅務官署ニ其ノ交付ヲ申請スヘシ

第四條ノ四 南洋群島ニ於テ製造シタル糖蜜ニシテ南洋廳支廳ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ移出スルモノニハ出港税ヲ課セス

第四條ノ五 南洋群島ニ於テ製造シタル酒精ヲ用ヒ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ南洋廳支廳ノ承認ヲ受ケテ製造シタル燃料用變性酒精ニシテ移出スルモノニハ出港税ヲ課セス

第八條 出港税ヲ課スヘキ物品ノ移出者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品又ハ其ノ包裝ニ納稅濟又ハ檢査濟ノ證印ノ押捺又ハ證票ノ貼付ヲ受クヘシ

朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件 (抄錄) (大正十二年三月二十七日制令第六號)

第五條 左ニ掲クル物品ノ移入ハ開港又ハ朝鮮總督ノ指定スル港ニ由リ之ヲ爲スヘシ但シ海難其ノ他己ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 朝鮮ニ於テ内國稅ヲ課スヘキ物品
- 二 朝鮮出港税令ニ依リ其ノ移入ヲ條件トシテ出港税ノ免除ヲ得タル物品
- 三 内地、臺灣又ハ樺太ニ於テ内國稅ノ免除若ハ拂戻又ハ交付金ノ交付ヲ受クル爲稅關ノ移入免許ヲ受ケムトスル物品
- 四 大正九年制令第十九號ニ依リ移入稅ヲ課スヘキ物品

前項但書ノ規定ニ依リ貨物ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ヘタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關ニ届出ツヘシ

第十二條 第四條及第五條ニ掲クル物品ノ移出入ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外關稅法第二十四條乃至第二十七條、第二十九條乃至第六十條、第七十六條、第七十七條、第八十條乃至第八十二條ノ四、第百條ノ規定、保稅倉庫法、保稅工場法及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件 (大正十一年四月十八日法律第五十號)

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關シテハ關稅法、關稅定率法、噸稅法及輸出貨物ニ關シ内國稅ヲ免除シ又ハ内國稅ニ相當スル金額ヲ下戻シ若ハ交付スルコトヲ定メタル規定ヲ適用セス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年五月勅令第二百九十四號ヲ以テ同年六月一ヨリ施行)

間接國稅犯則者處分法

(明治三十三年三月十七日法律第六十七號)

改正 明治三十七年四月一日法律第十一號
明治四十一年三月六日法律第八號

- 第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得
- 第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スコトキハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ
- 第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ
- 第七條 前項ニ掲クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ他ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ
- 第八條 收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目録ヲ作ルヘシ但シ所有者又ハ所持者ハ其ノ差押目録ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得
- 第九條 差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
- 第十條 差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得
- 第十一條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得
- 第十三條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得
- 第十四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
- 第十五條 犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス
- 第十六條 稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條 收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條 收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ

二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三 證憑湮滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、液

收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘ

キ旨ヲ通告スヘシ但シ液收品ニ該當スル物品ニ付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ得(明治四十一年法律第八號改正)

犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時効中斷ス

第十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受ケタルコトナシ

第十四條第一項但書ニ依ル通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ履行シタル場合ニ於テ液收品ニ該當スル物品ヲ所持スルトキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

(明治四十一年法律第八號改正)

第十七條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過ク

ルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(明治三十七年法律第十一號改正)

犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第十八條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所有者、所持者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼ク爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知

スヘシ

第十九條 稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之ヲ解

除ヲ命スヘシ(明治三十七年法律第十一號改正)

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

間接國稅犯則者處分法施行規則

(明治三十三年三月二十三日勅令第五十二號)

改正

明治三十三年三月二十三日勅令第五十二號
 明治三十四年八月二十四日勅令第二百七十三號
 明治三十五年八月二十四日勅令第二百七十三號
 明治三十八年十一月十一日勅令第二百九十三號
 明治三十九年三月十一日勅令第二百九十三號
 大正元年七月三十一日勅令第四百二十三號
 大正二年七月三十一日勅令第四百二十三號
 大正三年七月三十一日勅令第四百二十三號
 昭和元年八月四日勅令第四百二十三號
 昭和二年八月四日勅令第四百二十三號

明治三十四年四月二十六日勅令第四百四十五號
 明治三十五年四月二十六日勅令第四百四十五號
 明治三十八年四月二十六日勅令第四百四十五號
 明治三十九年四月二十六日勅令第四百四十五號
 大正元年四月二十六日勅令第四百四十五號
 大正二年四月二十六日勅令第四百四十五號
 大正三年四月二十六日勅令第四百四十五號
 昭和元年四月二十六日勅令第四百四十五號
 昭和二年四月二十六日勅令第四百四十五號

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

- 一 酒造稅
- 二 酒精及酒精含有飲料稅
- 三 出港稅
- 四 麥酒稅
- 五 清涼飲料稅
- 六 砂糖消費稅
- 七 織物消費稅
- 八 揮發油稅
- 九 取引稅
- 十 印紙稅
- 十一 骨牌稅
- 十二 物品特別稅
- 十三 物品稅
- 十四 遊興飲食稅
- 十五 酒稅 (昭和十五年勅令第六十二號)

昭和二十七年勅令第六十七號改正
 昭和二十八年勅令第六十七號改正
 昭和二十九年勅令第六十七號改正
 昭和三十年勅令第六十七號改正
 昭和三十一年勅令第六十七號改正
 昭和三十二年勅令第六十七號改正
 昭和三十三年勅令第六十七號改正
 昭和三十四年勅令第六十七號改正
 昭和三十五年勅令第六十七號改正
 昭和三十六年勅令第六十七號改正
 昭和三十七年勅令第六十七號改正
 昭和三十八年勅令第六十七號改正
 昭和三十九年勅令第六十七號改正
 大正元年勅令第六十七號改正
 大正二年勅令第六十七號改正
 大正三年勅令第六十七號改正
 大正四年勅令第六十七號改正
 大正五年勅令第六十七號改正
 大正六年勅令第六十七號改正
 大正七年勅令第六十七號改正
 大正八年勅令第六十七號改正
 大正九年勅令第六十七號改正
 大正十年勅令第六十七號改正
 大正十一年勅令第六十七號改正
 大正十二年勅令第六十七號改正
 大正十三年勅令第六十七號改正
 大正十四年勅令第六十七號改正
 大正十五年勅令第六十七號改正
 大正十六年勅令第六十七號改正
 大正十七年勅令第六十七號改正
 大正十八年勅令第六十七號改正
 大正十九年勅令第六十七號改正
 大正二十年勅令第六十七號改正
 大正二十一年勅令第六十七號改正
 大正二十二年勅令第六十七號改正
 大正二十三年勅令第六十七號改正
 大正二十四年勅令第六十七號改正
 大正二十五年勅令第六十七號改正
 大正二十六年勅令第六十七號改正
 大正二十七年勅令第六十七號改正
 大正二十八年勅令第六十七號改正
 大正二十九年勅令第六十七號改正
 大正三十年勅令第六十七號改正
 大正三十二年勅令第六十七號改正
 大正三十四年勅令第六十七號改正
 大正三十六年勅令第六十七號改正
 大正三十八年勅令第六十七號改正
 大正四十年勅令第六十七號改正
 大正四十二年勅令第六十七號改正
 大正四十四年勅令第六十七號改正
 大正四十六年勅令第六十七號改正
 大正四十八年勅令第六十七號改正
 大正五十年勅令第六十七號改正
 大正五十二年勅令第六十七號改正
 大正五十四年勅令第六十七號改正
 大正五十六年勅令第六十七號改正
 大正五十八年勅令第六十七號改正
 大正六十年勅令第六十七號改正
 大正六十二年勅令第六十七號改正
 大正六十四年勅令第六十七號改正
 大正六十六年勅令第六十七號改正
 大正六十八年勅令第六十七號改正
 大正七十年勅令第六十七號改正
 大正七十二年勅令第六十七號改正
 大正七十四年勅令第六十七號改正
 大正七十六年勅令第六十七號改正
 大正七十八年勅令第六十七號改正
 大正八十年勅令第六十七號改正
 大正八十二年勅令第六十七號改正
 大正八十四年勅令第六十七號改正
 大正八十六年勅令第六十七號改正
 大正八十八年勅令第六十七號改正
 大正九十年勅令第六十七號改正
 大正九十二年勅令第六十七號改正
 大正九十四年勅令第六十七號改正
 大正九十六年勅令第六十七號改正
 大正九十八年勅令第六十七號改正
 大正一百年勅令第六十七號改正

- 第二條 收税官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ
- 第三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ
- 第四條 收税官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ
- 第五條 收税官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
- 第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ
- 第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
- 第八條 收税官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル顛末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ
- 第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ
- 第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ
- 第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ
- 第十三條 文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ
- 第十四條 收税官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス
- 第十五條 本令中稅務署長ノ職務ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ (大正元年勅令第十三號改正)

- 本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (明治三十四年勅令第七十號)
- 本令ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (明治三十五年勅令第二百五十三號)
- 本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (明治三十七年勅令第九十二號)
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (明治三十八年勅令第九號)
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (明治四十一年勅令第四十二號)
- 本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (大正元年勅令第三號)
- 本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (大正三年勅令第五百三十三號)
- 本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (大正十二年勅令第五百二十三號)
- 本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (大正十五年勅令第四十號)
- 本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (昭和十二年勅令第六十五號)
- 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (昭和十二年勅令第四百二十四號)
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 - 附 則 (昭和十三年勅令第二百二號)

本令ハ支那事變特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 (昭和十四年勅令第七十八號)

本令ハ昭和十四年法律第四十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 (昭和十五年勅令第六十二號)

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

間接國稅犯則者處分法ニ依ル收稅官吏ノ證票樣式

(明治三十三年三月二十
四日大藏省令第五號)

改正 明治三十五年十一月一日大藏省令第二十五號

大正 七年十二月二十八日大藏省令第四十四號

明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第四條ニ依リ收稅官吏ノ攜帶スヘキ證票樣式左ノ通り相定ム

樣式 用紙厚質白紙 縱四寸 横二寸五分

第何號	何稅務監督局(又ハ何稅務署)
	官 氏 名
收稅官吏	何稅務監督局 章 又ハ何稅務署印
〔大正〕何年何月何日交付	
何稅務監督局(又ハ何稅務署)	

間接國稅犯則者處分法等ヲ樺太ニ施行スルノ件 (抄錄) (大正元年八月二十日勅令第十二號)

七五〇

第一條 左ニ掲クル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス

一 間接國稅犯則者處分法 附 則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

間接國稅犯則者處分法ヲ臺灣ニ施行スルノ件 (抄錄)

(大正十一年十二月二十八日勅令第五百二十六號)

改正 昭和九年十二月二十九日勅令第四百三十三號
昭和十二年八月十二日勅令第四百二十五號
昭和十四年四月一日勅令第四百七十七號

昭和十二年三月三十一日勅令第六十九號
昭和十三年四月一日勅令第二百九號

第一條 間接國稅犯則者處分法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス但シ同法中稅務監督局トアルハ臺灣總督府、稅務署トアルハ州廳又ハ稅關、收稅官吏トアルハ臺灣總督府州又ハ廳ノ收稅官吏又ハ稅關官吏、稅務署長トアルハ知事廳長又ハ稅關長、市町村吏員トアルハ市街庄ノ官吏又ハ吏員、市町村制トアルハ市街庄、市制町村制トアルハ臺灣市制臺灣街庄制トス

第二條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

昭和九年勅令第四百三十三號改正
昭和十二年勅令第四百二十五號同
昭和十三年勅令第四百七十七號同
昭和十四年勅令第四百七十七號同

- 一 出港稅
- 二 砂糖消費稅
- 三 骨牌稅
- 四 織物消費稅
- 五 酒精稅

- 六 印紙稅
- 七 揮發油稅
- 八 物品特別稅
- 九 物品稅
- 十 遊興稅

附 則 本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和九年勅令第四百三十三號)

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十二年勅令第六十九號)

附 則 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十二年勅令第四百二十五號)

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十三年勅令第二百九號)

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十四年勅令第四百七十七號)

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太ニ於ケル租税ニ關スル件

(明治四十年三月二十七日法律第二十一號)

改正

大正九年法律第三十三號
昭和十二年法律第二十一號
昭和十二年法律第二十一號
昭和十二年法律第二十一號
昭和十三年法律第三十一號
昭和十五年法律第二十六號

大正十年法律第七號
昭和十二年法律第二十一號
昭和十二年法律第二十一號
昭和十四年法律第六十八號

第一條 樺太ニ於テハ左ニ掲クル租税賦課徴收ス

- 一 市街宅地稅
- 二 所得稅
- 三 營業收益稅
- 四 酒造稅
- 五 漁業稅
- 六 臨時利得稅
- 七 相續稅
- 八 資本利子稅
- 九 外貨債特別稅
- 十 法人資本稅
- 十一 北支事件特別稅
- 十二 利益配當稅
- 十三 公債及社債利子稅
- 十四 通行稅
- 十五 入場稅
- 十六 特別入場稅

- 十七 物品税
 - 十八 建築税
 - 十九 遊興飲食税
 - 二十 特別法人税
- 前項租税ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 本法ニ規定スルモノノ外租税ノ賦課徴收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附 則
 本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則
 (昭和二年三月法律第十號)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第一項第三號ノ改正規定ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 昭和二年分以前ノ營業税ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 本法施行前造石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

法人ニ於テ租税及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

(明治三十三年三月十三日法律第五十二號)

(間接國稅犯則者處分、當該法令參照・七五二頁)

政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件

(明治四十一年十一月二十八日勅令第二百八十七號)
 改正 明治四十五年勅令第三百三十六號

政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債、帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ハ其ノ債權金額ニ依ル
 明治三十八年勅令第二十號ハ之ヲ廢止ス

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律

(昭和十三年六月一日法律第八十七號)

本邦内ニ於テ募集シタル命令ノ定ムル外國債ハ租税ノ賦課又ハ納税ノ擔保ニ關シテハ之ヲ國債ト看做ス

附 則
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本法施行前募集シタル外國債ニハ本法ヲ適用セス

昭和十三年法律第八十七號ノ適用ヲ受クル外國債ノ條件ニ關スル件

(昭和十三年六月一日勅令第三百八十九號)

昭和十三年法律第八十七號ニ依リ租税ノ賦課又ハ納税ノ擔保ニ關シテ國債ト看做ス外國債ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國債ニシテ帝國政府ニ對スル納税ノ擔保ニ充用セラレ公賣ニ付セララルル場合ニ於テハ當該外國力債權金額ヲ以テ買入銷却ヲ爲スコトヲ其ノ國ノ法令ニ於テ規定スルモノニ限ル

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年法律第八十七號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件

(昭和十三年六月一日勅令第三百九十號)

昭和十三年法律第八十七號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ關東州ニ於ケル待遇ニ關スル件

(昭和十三年六月一日勅令第三百九十一號)

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ關東州ニ於ケル待遇ニ關シテハ昭和十三年法律第八十七號ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ南洋群島ニ於ケル待遇ニ關スル件

(昭和十三年八月二十七日勅令第六百三號)

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ南洋群島ニ於ケル待遇ニ關シテハ昭和十三年法律第八十七號ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方税法

(昭和十五年三月二十九日法律第六十號)

第一章 總則

第一節 通則

第一條 本法ニ於テ地方團體トハ府縣及市町村ヲ、地方税トハ府縣税及市町村税ヲ謂フ

本法ニ於テ條例トハ府縣條例及市町村條例ヲ謂フ

本法中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ、市町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行スル地ノ町村ニ之ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テハ府縣税、府縣知事、府縣吏員、府縣參事會又ハ府縣條例トアルハ夫々北海道地方税、北海道廳長官、北海道地方費吏員、北海道參事會又ハ北海道條例トシ市町村税、市町村長、市町村吏員、市町村會又ハ市町村條例トアルハ夫々町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ノ町村税、町村長、町村吏員、町村會又ハ町村條例若ハ町村條例ニ代ル町村規則トス

本法中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事又ハ府縣參事會トアルハ夫々北海道廳長官又ハ北海道參事會トス

第二條 府縣税トシテ課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 普通税

國稅附加税

獨立税

二 目的税

市町村税トシテ課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ知シ

一 普通税

國稅附加税

府縣稅附加税

獨立税

二 目的税

第三條 地方團體ニ於テ地方税及其ノ賦課徴收ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルハ條例ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二節 賦課

第四條 地方團體内ニ住所、居所、家屋敷、事務所又ハ營業所ヲ有スル者ハ地方税ヲ納ムル義務ヲ負フ

地方團體内ニ住所、居所、家屋敷、事務所又ハ營業所ヲ有セスト雖モ地方團體内ニ於テ土地、家屋又ハ物件ヲ所有シ、使用シ又ハ占有スル者ハ其ノ土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シ課スル地方税ヲ、地方團體内ニ於テ一定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ行爲ニ對シ課スル地方税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第五條 法人合併シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ賦課セラルヘキ地方税ヲ納ムル義務ヲ負フ

法人解散シタル場合ニ於テ其ノ法人ニ賦課セラルヘキ地方税ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ清算人ハ殘餘財産ノ價額ヲ限度トシテ連帶シテ其ノ法人ニ賦課セラルヘキ地方税ヲ納ムル義務ヲ負フ

相続開始アリタル場合ニ於テ相続人又ハ相続財團ハ相続開始前ノ事實ニ付被相続人ニ賦課セラルヘキ地方税ヲ納ムル義務ヲ負フ但シ國籍喪失ニ因リ相続人又ハ限定承認ヲ爲シタル相続人ハ相続ニ因リテ得タル財産ノ價額ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負ヒ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ因リ家督相続ノ開始アリタルトキハ被相続人モ亦其ノ義務ヲ負フ

第六條 納稅義務者ノ地方團體外ニ於テ所有シ、使用シ若ハ占有スル土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シテハ地方税ヲ課スルコトヲ得ス地方團體外ニ於テ營業所ヲ設ケテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ亦同シ

第七條 數府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ關係府縣ニ於テ賦課スル營業附加税(營業税割ヲ含ム)ノ課稅標準タルヘキ本稅額ハ本稅ノ決定シタル稅務官署ノ定ムル所ニ依ル

稅務官署ハ本稅ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依リ本稅額ヲ定メ之ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

關係府縣知事ニ於テ第一項ノ規定ニ依リ稅務官署ノ定メタル本稅額ニ異議アルトキハ内務大臣及大藏大臣本稅額ヲ定ム前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ申出ツヘシ

第八條 同一府縣内又ハ數府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ關係市町村ニ於テ賦課スル營業税附加税(營業税割ヲ含ム)ノ課稅標準タルヘキ本稅額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 關係市町村同一府縣内ニ在ルトキハ當該市町村ニ付府縣知事ノ定ムル額

二 關係市町村數府縣ニ互ル場合ニ於テ一府縣内ノ關係市町村一ナルトキハ前條ノ規定ニ依リ定リタル當該府縣ノ本稅額

三 關係市町村數府縣ニ互ル場合ニ於テ一府縣内ノ關係市町村二以上ナルトキハ前條ノ規定ニ依リ定リタル當該府縣ノ本稅額ニ基キ當該市町村ニ付府縣知事ノ定ムル額

前項ノ規定ニ依リ定リタル本稅額ハ府縣知事直ニ之ヲ關係市町村長ニ通知スヘシ

第九條 前條第四項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 年税又ハ期税タル地方税ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地方税ヲ賦課ス

前項ノ地方税ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ地方税ヲ賦課ス

第十一條 前項ノ地方税ノ賦課後其ノ課稅客體ノ承繼アリタル場合ニ於テ前項ノ納稅者ノ納稅ヲ以テ後ノ納稅義務者ノ納稅ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セス

命令ヲ以テ指定スル税目ニ付テハ第二項ノ規定ニ拘ラス賦課後納稅義務消滅スルモ既ニ交付シタル徵稅令書又ハ徵稅傳令書ニ記載シタル賦課額ハ之ヲ變更セス

月税タル地方税ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ翌月ヨリ地方税ヲ賦課シ其ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月分ノ全額ヲ賦課ス

一ノ地方團體ニ於テ納稅義務消滅シ他ノ地方團體ニ於テ納稅義務發生シタルトキハ納稅義務ノ發生シタル地方團體ハ納稅義務ノ消滅シタル地方團體ニ於テ賦課シタル部分ニ付テハ地方税ヲ賦課スルコトヲ得ス

第十一條 國稅附加税(地租割、家屋税割及營業税割ヲ含ム)ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年ノ四月一日ニ始ル年度ノ賦課率ニ

依ル但シ法人ノ營業稅附加稅(營業稅割ヲ含ム)ノ賦課率ハ法人ノ事業年度終了ノ日又ハ合併若ハ解散ノ日ノ屬スル年度ノ賦課率ニ依ル

府縣稅附加稅(府縣稅獨立稅割及市町村稅獨立稅割ヲ含ム)ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年度ノ賦課率ニ依ル

第十二條 左ニ掲クルモノニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス但シ第一號、第三號及第四號ニ掲クル土地、家屋又ハ物件ヲ他ニ使用收益セシムル場合ニ於テ其ノ使用收益ヲ爲ス者ニ課スルハ此ノ限ニ在ラス

一 神社、寺院又ハ教會ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地又ハ構内地但シ有料ニテ使用スルモノヲ除ク

二 國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ事業又ハ行爲

三 國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共用ニ供スル家屋又ハ物件但シ有料ニテ使用スルモノヲ除ク

四 國有ノ土地、家屋又ハ物件

五 地租法第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セラレタル土地但シ其ノ年度分ニ限ル

前項ニ掲クルモノヲ除ク外地方稅ヲ課スルコトヲ得サルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスルトキハ課稅ヲ爲ササルコトヲ得

地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ不均一ノ課稅ヲ爲スコトヲ得

第十四條 地方團體ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ地方團體ハ不均一ノ課稅ヲ爲シ又ハ其ノ一部ニ課稅ヲ爲スコトヲ得

第三節 徵收

第一款 普通徵收

第十五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ但シ第十七條第二項、第三十五條第一項又ハ第四十二條第一項ノ規定ニ依リ徵收スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣ハ前項ノ規定ニ依ル徵收ノ費用ヲ補償スル爲徵收金額及徵稅傳令書數ニ應シ府縣條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル府縣條例ノ規定ハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條 市町村避クヘカラサル事故ニ因リ既收ノ府縣稅ヲ失ヒタルトキハ府縣知事ハ其ノ申請ニ依リ稅金納入ノ義務ヲ免

除スヘシ

府縣知事前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三月以内ニ前項ノ規定ニ依リ免除ヲ爲ササルトキハ市町村ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケタル日又ハ之ヲ受ケスシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ

內務大臣訴願ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第十七條 府縣稅ヲ賦課徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ市町村ニ對シ徵稅命令書ヲ發シ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ徵稅命令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅者ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ納稅者ニ對シ直接ニ徵稅令書ヲ交付スルコトヲ得

第十八條 市町村稅ヲ賦課徵收セントスルトキハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ徵稅令書ヲ納稅者ニ交付スヘシ

第十九條 第十七條第一項ノ徵稅傳令書又ハ前條ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得

第十七條第二項ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ稅金ヲ府縣ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅者又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ムニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

第二十條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會又ハ市參事會若ハ町村會ノ決定ニ付スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣稅ニ付テハ行政裁判所ニ出訴シ市町村稅ニ付テハ府縣參事會ニ訴

七六五

願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得第六項ノ訴願ニ對スル裁決ニ不服アルトキ亦同シ
 第三項ノ府縣參事會ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第三項ノ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付テハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ヨリモ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得
 第四項ノ裁決又ハ前項ノ訴願ニ對スル裁決ニ付テハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 府縣制第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前七項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 府縣稅ノ徵稅令書若ハ徵稅傳令書又ハ市町村稅ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者納期限迄ニ稅金ヲ完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ遲クモ納期限後二十日目迄ニ督稅狀ヲ發スヘシ
 督稅狀ニハ條例ヲ以テ定ムル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ
 特別ノ事情アル地方團體ニ於テハ條例ヲ以テ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 前條ノ督稅狀ヲ發シタルトキハ手數料ヲ徵收スヘシ
 前項ノ手數料ノ額ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
 府縣稅ニ關シ市町村吏員ヲシテ督稅狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手數料ハ其ノ市町村ノ收入トス

第二十三條 第二十一條ノ規定ニ督稅ヲ受ケタル者督稅狀ノ指定期限迄ニ稅金及督稅手數料ヲ完納セザルトキ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ條例ヲ以テ之ヲ定ムル期間内ニ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
 前項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第一項ノ規定ニ依ル處分中差押物件ノ公賣ハ差押處分ノ確定ニ至ル迄之ヲ停止ス
 第一項ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ地方團體ノ區域外ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ第二項及第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 督稅ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ一萬分ノ四以内ニ於テ條例ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前月迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 徵稅令書又ハ徵稅傳令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ
- 三 納稅者ノ住所及居所カ不明ナル爲又ハ帝國内ニ非ラサル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ命令又ハ督稅ヲ爲シタルトキ
- 四 滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキ

督稅狀ノ指定期限迄ニ稅金及督稅手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ハ之ヲ徵收セス

第二十五條 府縣ノ徵收金(府縣稅並ニ其ノ督稅手數料、延滯金及滯納處分費)ハ國ノ徵收金ニ、市町村ノ徵收金(市町村稅並ニ其ノ督稅手數料、延滯金及滯納處分費)ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル但シ附加稅タル地方稅ニシテ本稅ノ決定ニ因リ賦課シ得ルニ至ルモノノ時効ハ本稅決定ノ日ヨリ進行ス

第二十三條第二項及第三項並ニ府縣制第二百二十八條及第二百二十條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 納稅者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ既ニ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル地方稅ニ付テハ納期前ト雖モ納稅義務ノ確定シタル稅金ノ全額ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 國稅、地方稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 強制執行ヲ受クルトキ
 - 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 四 相續人限定承認ヲ爲シタルトキ
 - 五 競賣ノ開始アリタルトキ
 - 六 法人解散シタルトキ
 - 七 納稅者遁脱ヲ圖ルノ所爲アリト認ムルトキ
- 前項ノ規定ニ依ル徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル
- 第二十七條 府縣知事又ハ市町村長ハ條例ノ定ムル所ニ依リ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得

第二十八條 府縣知事又ハ市町村長ハ特別ノ事情アル場合又ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣參事會又ハ市町村會ノ議決ヲ經テ地方稅ヲ減免スルコトヲ得

第二十九條 法人合併シタル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費アルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ分配シタルトキハ清算人ハ殘餘財產ノ價額ヲ限度トシテ連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

第三十條 共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生シタル物件又ハ共同行為ニ對スル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

第三十一條 同一年度ノ地方稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第三十二條 納稅義務者納稅地ニ住所、居所、事務所及營業所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ府縣稅ニ付テハ府縣知事ニ、市町村稅ニ付テハ市町村長ニ之ヲ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十三條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ニ送達スル名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第三十四條 書類ノ送達ヲ受クヘキ者カ其ノ住所、居所、事務所若ハ營業所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ者ノ住所、居所、事務所及營業所カ不明ナルトキ或ハ帝國内ニ在ラサルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル公告ハ地方團體ノ揭示場ニ之ヲ爲スヘシ

第二款 特別徵收

第三十五條 地方團體ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收義務者(以下特別徵收義務者ト稱ス)ハ地方團體ニ對シ其ノ徵收スヘキ地方稅ヲ納入スルノ義務ヲ負フ

第一項ノ地方稅ノ徵收ニ付テハ第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十六條 特別徵收義務者其ノ徵收スヘキ地方稅ヲ正當ノ事由ニ因リ徵收スルコト能ハサリシトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ特別徵收義務者ノ申請ニ依リ之ニ相當スル既納ノ金額ヲ還付スヘシ

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三月以内ニ前項ノ規定ニ依ル還付ヲ爲ササルトキハ特別徵收義務者ハ府縣稅ニ付テハ内務大臣ニ、市町村稅ニ付テハ府縣參事會ニ、訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ、訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條第三項及第四項並ニ府縣制第二百二十八條ノ第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依ル還付ノ方法ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第三十七條 第三十五條第一項ノ規定ニ依リ地方稅ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納稅者ハ其ノ税金ヲ特別徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納稅ノ義務ヲ了ス

特別徵收義務者ハ其ノ徵收スヘキ地方稅ニ相當スル金額ヲ府縣稅ニ付テハ府縣ニ、市町村稅ニ付テハ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金ノ徵收及納入ノ義務ヲ了ス

第三十八條 特別徵收義務者ハ其ノ徵收スヘキ地方稅ニ相當スル金額ヲ條例ヲ以テ定ムル期日迄ニ府縣稅ニ付テハ府縣ニ、市町村稅ニ付テハ市町村ニ納入スヘシ

第三十九條 特別徵收義務者其ノ徵收スヘキ地方稅ニ相當スル金額ヲ條例ヲ以テ定ムル期日迄ニ納入セサルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スヘシ

第四十條 特別徵收義務者避クヘカラサル事故ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ其ノ申請ニ依リ税金納入ノ義務ヲ免除スヘシ

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三月以内ニ前項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲ササルトキハ特別徵收義務者ハ府縣稅ニ付テハ內務大臣ニ訴願シ市町村稅ニ付テハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條第三項及第四項並ニ府縣制第二百二十八條ノ第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 第五條、第十五條第二項及第三項、第十九條第四項、第二十二條第一項及第二項第二十三條乃至第二十六條、第二十九條、第三十條第一項並ニ第三十一條ノ規定ハ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ地方稅ヲ徵收セシムル場合ノ納入金ニ付テ準用ス此ノ場合ニ於テハ第十五條第三項中內務大臣トアルハ市町村條例ノ規定ニ付テハ府縣知事トス

第四十二條 地方團體ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方稅ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ラス其ノ地方團體ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ地方稅ヲ拂込マシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方團體ハ證憑書類其ノ他ノモノニ證紙ヲ貼用セシメ又ハ證紙金額ニ相當スル現金ノ納付ヲ受ケ納稅濟印ノ押捺ヲ爲シ證紙ノ貼用ニ代ヘシムルコトヲ得

證紙ヲ貼用スルトキハ證紙ヲ貼用シタルモノノ紙面ト證紙ノ彩紋トニカケテ當該地方團體ノ印章又ハ特別徵收義務者ノ印章若ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第四十三條 本法ニ依リ地方稅、督促手數料、延滞金若ハ滯納處分費ヲ納付スヘキ者又ハ其ノ者ノ財產カ當該地方團體外ニ在ルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ本人又ハ財產所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル徵收金ノ徵收ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ニ於ケル徵收ノ例ニ依ル

第一項ノ規定ニ依リ徵收ノ囑託ヲ爲シタル場合ニ於テハ囑託ニ係ル事務及送金ニ要スル費用ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ負擔トシ囑託ニ係ル事務ニ伴フ督促手數料及滯納處分費ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ收入トス

第二章 普通稅

第一節 府縣稅

第三十七條 第二種配付額ハ當該町村ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一 八百

二 當該町村ノ尋常小學校兒童數ノ人口ニ對スル比率カ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該町村ノ人口ニ乘シタル數ノ十倍

第三十八條 第三種配付額分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十九條 單位稅額カ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セス

第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依ル町村配付稅ノ額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該町村ノ單位稅額ノ合算額カ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過額ニ當該町村ノ人口ヲ乘シタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

第四十條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四章 補則

第四十一條 本法ノ適用ニ付テハ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル町村ニ準スヘキモノハ之ヲ町村ト看做ス

伊豆七島及小笠原島ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條乃至第二十五條、第二十九條、第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ人口、第十五條ノ還付稅額、第二十條、第二十三條、第二十九條及第三十六條ノ國稅附加稅額、第十五條ノ道府縣配付稅總額、第二十條ノ市町村配付稅總額、第二十三條ノ大都市配付稅總額、第二十九條ノ都市配付稅總額、第三十六條ノ町村配付稅總額、第十五條ノ災害土木費負債額並ニ第十六條、第二十四條、第三十條及第三十七條ノ尋常小學校兒童數ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十三條 地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付錯誤アリタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ後年度ニ於テ地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付加算又ハ控除ヲ行ヒ分與額ヲ算定ス

第四十四條 本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應スル爲メ地方分與稅委員會ヲ置ク

地方分與稅委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 本法ニ定ムルモノノ外地方分與稅ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラス還付税中ニハ家屋税ヲ包含セス
第二條乃至第四條ノ地租中ニハ昭和十四年分以前ノ地租ヲ包含セス
第二條第二項及第六條第一項ノ所得税中ニハ改正前ノ所得税法ニ依リ所得税ヲ包含セス

第四十七條 昭和十五年度ニ於ケル配付税ノ額ハ第二條第二項ノ規定ニ拘ラス二億七千七百三十五萬五千六百二十圓トス
第二條第二項中百分ノ十七・三八トアルハ昭和十六年度ニ於テハ百分ノ十四・一七昭和十七年度ニ於テハ百分ノ十七・二五トス

第四十八條 昭和十五年度及昭和十六年度分トシテ分與スヘキ配付税ノ額ハ第六條第一項ノ規定ニ拘ラス夫々二億七千七百三十五萬五千六百二十圓及二億八千百一十一萬四千五百二十七圓トス

第六條第一項中百分ノ十七・三八トアルハ昭和十七年度分ニ付テハ百分ノ二十一・三五、昭和十八年度分ニ付テハ百分ノ十七・四二トス

第六條第二項及第三項、第七條第一號乃至第三號並ニ第八條第一號乃至第三號ノ規定ハ昭和十五年度乃至昭和十七年度分ニ付テハ之ヲ適用セス

第四十九條 第十條第一號中百分ノ六十二トアルハ昭和十五年度分ニ付テハ百分ノ六十四トス（昭和十六年三月法律第三十八號改正）
第十條第二號中百分ノ三十八トアルハ昭和十五年度分ニ付テハ百分ノ三十六トス（同上）

第五十條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り道府縣配付税ニハ第一種配付額及第二種配付額ノ外ニ地方税收入ノ激變ヲ緩和スル爲第三種配付額ヲ設ク昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額第二種配付額及第三種配付額ハ道府縣配付税總額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額トス

昭和十五年度	第一種配付額	第二種配付額	第三種配付額
	百分ノ三十五	百分ノ三十五	百分ノ三十

二 法人ノ合併ニ因ル不動産ノ取得

三 保險業法ニ依リ會社方其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ依リテ不動産ヲ移轉スル場合ニ於ケル不動産ノ取得

四 委託者ヨリ受託者ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得

五 委託者ノミガ信託財産ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得

六 信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動産ノ取得

第五十四條 漁業權稅ハ漁業權（入漁權ヲ除ク）又ハ其ノ取得ニ對シ其ノ漁場所在ノ府縣ニ於テ其ノ漁業權者又ハ漁業權取得者ニ之ヲ課ス

前條第二項第一號及第二號ノ規定ハ前項ノ漁業權ノ取得ニ對スル漁業權稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 狩獵者稅ハ狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ對シ其ノ住所所在地所在ノ府縣ニ於テ之ヲ課ス

第五十六條 藝妓稅ハ藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シ其ノ住所所在地所在ノ府縣ニ於テ之ヲ課ス

第二款 市町村稅

第一款 附加稅

第五十七條 國稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ベキ市町村稅左ノ如シ

地租附加稅

家屋稅附加稅

營業稅附加稅

鑛區稅附加稅

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租附加稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 府縣稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ベキ市町村稅左ノ如シ

段別稅附加稅

船舶稅附加稅

自動車稅附加稅

電柱稅附加稅

不動産取得稅附加稅

漁業權稅附加稅
狩獵者稅附加稅
藝妓稅附加稅

第五十九條 地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ賦課率ハ同一市町村ニ於テハ之ヲ同一ト爲スヘシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 府縣稅附加稅（段別稅附加稅ヲ除ク）ノ賦課率ハ同一市町村ニ於テハ之ヲ同一ト爲スヘシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

段別稅附加稅ノ賦課率ハ地租ノ稅率ニ其ノ市町村ニ於ケル地租附加稅ノ賦課率ヲ乘シタルモノヲ當該府縣ニ於ケル段別稅ノ賦課率ヲ以テ除シテ得タルモノヲ超ユルコトヲ得ス

第六十一條 地租附加稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅附加稅ノ賦課率カ本稅ノ百分ノ二百ヲ超ユルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テ賦課率カ本稅ノ百分ノ二百四十ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 小學校營繕費、災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 災害應急又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

第六十二條 鑛區稅附加稅ノ賦課率ハ本稅ノ百分ノ十ヲ超ユルコトヲ得ス

第二款 獨立稅

第六十三條 獨立稅トシテ課スルコトヲ得ヘキ市町村稅左ノ如シ

市町村民稅
舟稅
自轉車稅
荷車稅
金庫稅
扇風機稅

屠畜稅
犬稅

府縣ニ於テ第四十八條ニ掲クル獨立稅ヲ課セサルモノアルトキハ市町村ハ之ヲ市町村ノ獨立稅トシテ課スルコトヲ得

市町村ハ前二項ニ掲クルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ獨立稅ヲ課ルコトヲ得

前項ノ獨立稅ノ新設及變更ニ付テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第六十四條 市町村民稅ハ左ニ掲クル者ニ對シ之ヲ課ス但シ貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一 市町村內ニ一戸ヲ構フル個人又ハ一戸ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム個人

二 前號ニ該當セサルモ市町村內ニ事務所、營業所又ハ家屋敷ヲ有スル個人

三 市町村內ニ事務所又ハ營業所ヲ有スル法人

前項第三號ノ法人ニ付テハ其ノ事務所又ハ營業所毎ニ市町村民稅ヲ課ス

第六十五條 市町村民稅ノ賦課期日ハ十月一日トス

前項ニ定ムルモノノ外市町村民稅ノ課稅方法ハ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六十六條 市町村民稅ノ納稅義務者一人ニ對スル賦課額ハ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

人口七十萬以上ノ市 二千圓
其ノ他ノ市 千五百圓
町村 千圓
市町村民稅ノ賦課總額ハ左ノ金額ニ第六十四條ニ定ムル納稅義務者數ヲ乘シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

人口七十萬以上ノ市 八圓
其ノ他ノ市 六圓
町村 四圓

前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ第六十四條第一項第三號ノ法人ハ其ノ事務所又ハ營業所毎ニ獨立ノ納稅義務者ト看做ス

第六十七條 舟稅ハ總噸數二十噸未滿ノ舟ニ對シ主タル定繫所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

主タル定繫所不明ナルトキハ定繫所所在ノ市町村中船籍港ノ存スル市町村ニ主タル定繫所アルモノト看做ス
前二項ノ規定ノ適用ニ付關係市町村長意見ヲ異ニスルトキハ其ノ申出ニ依リ府縣知事(關係市町村數府縣ニ互ル場合ニ於
テハ内務大臣)之ヲ定ム

第六十八條 自轉車稅ハ自轉車ニ對シ其ノ定置所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第六十九條 荷車稅ハ荷車ニ對シ其ノ定置所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十條 金庫稅ハ金庫ニ對シ其ノ所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十一條 扇風機稅ハ扇風機ニ對シ其ノ所在ノ市町村ニ於テ其ノ使用者ニ之ヲ課ス

第七十二條 屠畜稅ハ屠畜ニ對シ其ノ屠殺場所在ノ市町村ニ於テ其ノ獸畜ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十三條 犬稅ハ犬ニ對シ其ノ飼育所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十四條 第四十九條乃至第五十六條ノ規定ハ第六十三條第二項ノ規定ニ依リ獨立稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於
テハ第五十條第三項中内務大臣トアルハ府縣知事(關係市町村數府縣ニ互ル場合ニ於テハ内務大臣)トス

第三章 目的稅

第七十五條 府縣ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

地租割 地租ノ百分ノ二十五以內

家屋稅割 家屋稅ノ百分ノ二十五以內

營業稅割 營業稅ノ百分ノ二十五以內

府縣稅獨立稅割 府縣稅獨立稅ノ百分ノ十三以內

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第七十六條 市町村ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

地租割 地租ノ百分ノ六十八以內

家屋稅割 家屋稅ノ百分ノ六十八以內

營業稅割 營業稅ノ百分ノ六十八以內

府縣稅獨立稅割 府縣稅獨立稅ノ百分ノ三十四以內

市町村稅獨立稅割 市町村稅獨立稅ノ百分ノ三十四以內

市町村民稅ニ對シテハ市町村稅獨立稅割ヲ課スルコトヲ得ス

市町村ハ第一項ニ掲クルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ都市計畫稅ノ新設及變更ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十四條第二項ノ規定ハ第一項ノ地租割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第七十七條 府縣ハ水利ニ關スル事業ニ要スル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ特ニ利益ヲ受クル土地ニ對シ左ノ水利稅ヲ課ス
ルコトヲ得

地租割

段別割

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ課稅ニ、第四十九條第四項ノ規定ハ前項ノ段別割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

水利稅ノ賦課額(數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額)ハ當該土地ノ受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第七十八條 市町村ハ水利ニ關スル事業其ノ他土地ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ特ニ利益ヲ
受クル土地ニ對シ左ノ水利地稅稅ヲ課スルコトヲ得

地租割

段別割

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ課稅ニ、第四十九條第四項ノ規定ハ前項ノ段別割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

前條第三項ノ規定ハ水利地稅稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第七十九條 市町村ハ共同作業場、共同倉庫、共同集荷場其ノ他之ニ類スル施設ニ要スル費用ニ充ツル爲該施設ニ因リ特ニ
利益ヲ受クル者ニ對シ共同施設稅ヲ課スルコトヲ得

共同施設稅ノ新設及變更ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

共同施設稅ノ賦課額(數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額)ハ當該納稅義務者ノ受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條及第六條ノ規定ハ共同施設稅ニ付テハ之ヲ適用セス

第四章 補則

第八十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地方稅ヲ逋脱シタル者ニ對シテハ條例ヲ以テ其ノ逋脱シタル金額ノ五倍ニ相當スル
金額(其ノ金額十圓未滿ナルトキハ十圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第八十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地方稅ヲ逋脱シタル者ニ對シテハ條例ヲ以テ其ノ逋脱シタル金額ノ五倍ニ相當スル
金額(其ノ金額十圓未滿ナルトキハ十圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノノ外地方税ノ賦課徴収ニ關シテハ條例ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

府縣稅ノ賦課徴収ニ關シ科料セラレタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市町村稅ノ賦課徴収ニ關シ過料ヲ科セラレタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十一條乃至第二十三條及第二十五條並ニ府縣制第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前五項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 地方稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間、事業經營者ニ關シテハ仍其ノ職務時間内家宅事務所若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第八十二條 町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合會ハ之ヲ町村會、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合條例ハ之ヲ町村條例ト看做ス

第八十三條 本法又ハ他ノ法律ニ定ムルモノヲ除クノ外地方稅及其ノ賦課徴収ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 本法ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

本法ニ依リ主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ハ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

本法ニ依リ主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ輕易ナルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第八十五條 主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ主務大臣又ハ府縣知事ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更生シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十六條 島嶼ニ於ケル地方稅及其ノ賦課徴収ニ關シ本法ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

第八十七條 本法ハ昭和十五年分地方稅ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅附加稅及家屋稅割ニ關スル規定ハ昭和十七年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十六年度分迄ニ限リ別稅及同附加稅ノ課稅ニ關シ本法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣ニ在リテハ內務大臣及大藏大臣、市町村ニ在リテハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

宗敎團體法第三十五條第一項ノ佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地ニ對シテハ有料ニテ使用セシムルモノヲ除クノ外之ニ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第八十八條 明治四十一年法律第三十七號及大正十五年法律第二十四號ハ昭和十四年度分限り之ヲ廢止ス

家屋稅及同附加稅ニ關シテハ前項ノ規定ニ拘ラス昭和十六年度分迄ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十九條 昭和十四年度分以前ノ所得稅附加稅、營業收益稅附加稅及鑛產稅附加稅ニシテ昭和十五年四月一日以後ニ於テ本稅ノ決定セラレルモノノ賦課ニ付テハ第七條及第八條ノ例ニ依ル

第九十條 昭和十四年法律第七十八號第一條第一項ノ規定ニ依リ讓與セラレル不動産ノ取得ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ不動産取得稅ヲ課スルコトヲ得ス

第九十一條 市制第六十七條第六號又ハ町村制第四百七十七條第六號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル特別稅ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ內務大臣及大藏大臣ノ指定スル稅目ニ限リ第六十三條第四項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル獨立稅ト看做ス

第九十二條 都市計畫法第八條ヲ削除ス昭和十四年度分以前ノ都市計畫特別稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ規定ハ營業收益稅割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第九十三條 昭和十五年分及昭和十六年度分迄ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十五年分及昭和十六年度分ノ家屋稅ノ課稅標準タルヘキ家屋ノ賃賃價格ハ大正十五年法律第二十四號第十條ノ規定ニ依ル家屋ノ賃賃價格ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ於テ補整ヲ加ヘタルモノニ依ル

家屋稅、家屋稅附加稅及都市計畫特別稅家屋稅ノ賦課ニ關シテハ前項ノ規定ニ依ル家屋ノ賃賃價格ノ補整ヲ理由トシテ異議ノ申立並ニ訴願及訴訟ノ提起ヲ爲スコトヲ得ス

第九十四條 罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第四條 削 除

第十五條ノ二中「且地租、營業收益税及所得稅ノ附加稅ノ賦課カ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ニ達シ」ヲ削ル

昭和十四年度分以前ノ同法第四條ノ規定ニ依ル附加稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十五條 昭和七年法律第三十三號附則第二項中「且地租、營業收益税及所得稅ノ附加稅ノ賦課カ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ヲ創達シル」

第九十六條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地方稅法施行令

(昭和十五年三月三十一日勅令第百九十八號)

第一條 本令中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ、市町村ニ關スル規定ハ町村制ニ代ル施行スル地ノ町村ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府縣知事又ハ府縣稅トアルハ夫々北海道廳長官又ハ北海道地方稅トシ市町村稅トアルハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ノ町村稅トス

本令中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事トアルハ北海道廳長官トス

町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス

第二條 數府縣ニ於テ又ハ同一府縣内若ハ數府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ハ内務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ營業稅附加稅(營業稅割ヲ含ム)ノ賦課ニ關シ必要ナル事項ヲ稅務官署又ハ府縣知事ニ届出ツヘシ

第三條 地方稅法第十二條第一項第二號及第三號ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左ノ如シ

府縣組合

市町村組合

町村組合

市町村内ノ區

學區

水利組合

水利組合聯合

第四條 地方稅法第六十一條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ左ニ掲クルモノハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ニ關スルコト
- 二 人口二十萬以上ノ市(前號ニ掲クル市ヲ除ク)ニ於テ本稅ノ百分ノ二百六十ヲ超エ地租附加稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅附加稅ノ賦課率ヲ定ムルコト

三 前二條ニ掲クル市以外ノ市ニ於テ本税ノ百分ノ二百八十ヲ超エ地租附加税、家屋税附加税又ハ營業税附加税ノ賦課率ヲ定ムルコト

四 町村ニ於テ本税ノ百分ノ三百ヲ超エ地租附加税、家屋税附加税又ハ營業税附加税ノ賦課率ヲ定ムルコト

第五條 地方税法第四十六條又ハ第六十一條ノ規定ニ依ル地租附加税、家屋税附加税又ハ營業税附加税ノ賦課率ノ許可ニ付テハ當該地方團體ノ財政情況ニ應シ年度ヲ限ルコトヲ得

第六條 内務大臣及大藏大臣ノ指定スル税ニ關スル地方税法第六十三條第四項ノ許可ノ職權ハ地方税法第八十四條第二項ノ規定ニ依リ府縣知事ニ之ヲ委任ス

第七條 地方税法第八十四條第三項ノ規定ニ依リ左ニ掲クル事項ニ付テハ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一 地方税法第四十六條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル賦課率ヲ低減スルコト

二 地方税法第六十三條第三項第七十六條第三項又ハ第七十九條第一項ノ規定ニ依ル獨立税又ハ目的税ニ付課税標準ヲ變更スルコトナクシテ賦課率又ハ賦課定額ヲ低減スルコト

第八條 島嶼ニ於ケル府縣稅及其ノ賦課徵收ニ關シ地方税法ニ依リ難キ事項ニ付テハ府縣條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

島嶼ニ於ケル町村ノ町村稅及其ノ賦課徵收ニ關シ地方税法ニ依リ難キ事項ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ニ之ヲ定ムヘシ

第九條 本令又ハ他ノ勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外地方稅及其ノ賦課徵收ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

附 則

第十條 本令ハ昭和十五年度分地方稅ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅附加税ニ關スル規定ハ昭和十七年度分ヨリ之ヲ適用ス

第十一條 左ノ勅令ハ昭和十四年度分限リ之ヲ廢止ス但シ大正十五年勅令第三百三十九號第一條乃至第六條ノ規定ハ昭和十六年度分迄ニ限リ仍其ノ效力ヲ有ス

大正九年勅令第二百八十二號
大正十五年勅令第四百三十三號
大正十五年勅令第二百八十六號
大正十五年勅令第三百三十九號

第十二條 第二條ノ規定ハ地方税法第八十九條及第九十二條第二項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第十三條 昭和十五年度及昭和十六年度分ノ家屋稅ノ賦課率カ家屋賃賃價格ノ百分ノ三・五ヲ超ユルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テ賦課率カ家屋賃賃價格ノ百分ノ三・八五ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 災害應急又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

第十四條 昭和十五年度分及昭和十六年度分ノ家屋稅附加税ノ賦課率カ家屋賃賃價格ノ百分ノ三・五ニ相當スル率ヲ超ユルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テ賦課率カ家屋賃賃價格ノ百分ノ四・二ニ相當スル率ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 小學校營繕費、災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費又國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 災害應急又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ左ニ掲クルモノニ付テハ府縣知事ノ許可ニ代ヘ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ニ關スルコト

二 人口二十萬以上ノ市（前號ニ掲クル市ヲ除ク）ニ於テ家屋賃賃價格ノ百分ノ四・五五ニ相當スル率ヲ超ユル賦課率ヲ定ムルコト

三 前二號ニ掲クル市外以ノ市ニ於テ家屋賃賃價格ノ百分ノ四・九ニ相當スル率ヲ超ユル賦課率ヲ定ムルコト

四 町村ニ於テ家屋賃賃價格ノ百分ノ五・二五ニ相當スル率ヲ超ユル賦課率ヲ定ムルコト

第十五條 昭和十五年度分及昭和十六年度分ノ都市計畫特別稅家屋稅ノ賦課ノ制限左ノ如シ

府縣稅 家屋賃賃價格ノ百分ノ三・五ノ百分ノ十二・五以內

市町村稅 家屋賃賃價格ノ百分ノ三・五ノ百分ノ三十四以內

地方税法施行規則

(昭和十五年四月一日内務・大藏省令第一號)

- 第一條** 本令ニ於テ地方團體トハ府縣及市町村ヲ、條例トハ府縣條例及市町村條例ヲ謂フ
本令中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ、市町村ニ關スル規定ハ町村制ニ代ル施行スル地ノ町村ニ之ヲ準用ス此ノ
場合ニ於テハ府縣稅又ハ府縣知事トアルハ夫々北海道地方稅又ハ北海道廳長官トシ市町村稅又ハ市町村長トアルハ夫々町
村制ニ代ル施行スル地ノ町村ノ町村稅又ハ町村長トス
本令中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事トアルハ北海道廳長官トス
町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス
- 第二條** 數府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ハ營業稅法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ左ニ掲クル
事項ヲ所轄稅務署ニ届出ツヘシ
- 一 法人ニ在リテハ當該事業年度中(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ前年中ニ有シ
タル營業所ノ名稱及其ノ所在地
- 二 内務大臣及大藏大臣ノ指定スル事項(營業所毎ニ區分シタルモノ)
- 第三條** 同一府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者營業稅法ニ依リ純益金額ノ決定通知ヲ受ケタルトキ八十
四日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ關係府縣知事ニ届出ツヘシ
- 一 營業ノ種類
- 二 法人ニ在リテハ當該事業年度中(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ前年中ニ有シ
タル營業所ノ名稱及其ノ所在地
- 三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ前年中ニ有シ
タル營業所ノ名稱及其ノ所在地
- 四 純益金額、其ノ決定年月日及其ノ決定ヲ爲シタル稅務官署
- 五 營業稅額
- 六 内務大臣及大藏大臣ノ指定スル事項(營業所毎ニ區分シタルモノ)
- 數府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者營業稅法ニ依リ純益金額ノ決定通知ヲ受ケタルトキ八十四日以内
ニ當該府縣内ニ於ケル營業所ニ付前項第六號ニ掲クル事項ヲ關係府縣知事ニ届出ツヘシ但シ同一府縣内ノ關係市町村一ナ

ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 稅務官署地方稅法第七條第二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲クル事項ヲ通知スヘシ

一 營業ノ種類

二 當該府縣内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地

三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ年別區分

四 純益金額ノ決定年月日

五 營業稅額

第五條 府縣知事地方稅法第八條第二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲クル事項ヲ通知スヘシ

一 營業ノ種類

二 當該市町村内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地

三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ年別區分

四 純益金額ノ決定年月日

五 營業稅額

第六條 地方稅法第九條第二項及第五十四條第一項ニ規定スル漁場トハ漁業法施行規則第十六條ニ規定スル區域及同令第四十九條第一項ノ規定ニ基キテ設ケタル保護區域ヲ謂フ

第七條 地方稅法第十條第四項ノ規定ニ依リ左ノ稅目ヲ指定ス

舟稅

自轉車稅

荷車稅

金庫稅

大稅

舟稅割

自轉車稅割

荷車稅割

金庫稅割

大稅割

第八條 地方稅法第六十六條第一項及第二項並ニ地方稅法施行令第四條及第十四條第二項ニ規定スル人口ハ市制町村制施行規則第一條ニ規定スル人口ニ依ル

附 則

第九條 本令ハ昭和十五年度分地方稅ヨリ之ヲ適用ス

第十條 左ノ省令ハ昭和十四年度分限り之ヲ廢止シ但ス地方稅ニ關スル法律施行規則第一條ノ規定ハ昭和十六年度分迄ニ限リ仍其ノ效力ヲ有ス

大正元年內務省令第十六號

大正四年內務省令第六號

地方稅ニ關スル法律施行規則

昭和四年內務省令第十四號

昭和四年內務省令第十五號

臨時地方財政補給金規則

第十一條 昭和十四年法律第七十八號第一條第一項ノ規定ニ依リ讓與セララルル不動産ニシテ登録稅ノ免除ヲ受クルモノノ取得ニ對シテハ不動産取得稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十二條 第二條乃至第五條ノ規定ハ昭和十四年度分以前ノ所得稅附加稅及營業收益稅附加稅(都市計畫特別稅益業收益稅割ヲ含ム)ニシテ昭和十五年四月一日以後ニ於テ本稅ノ決定セララルモノニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第二條第一項中營業稅法第十五條又ハ第十六條トアルハ從前ノ所得稅法第二十四條若ハ第二十五條又ハ營業收益稅法第十一條若ハ第十二條トス

本令公布ノ日前ニ申告ヲ了シタル者ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ル届出ハ本令公布ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條 昭和十五年四月一日以後ニ於テ礦產稅ノ納稅告知ヲ受ケタル者數府縣ニ於テ又ハ同一府縣内若ハ數府縣内ノ數市町村ニ於テ礦業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所(礦區ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ設ケタルモノナルトキハ納稅告知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ左ニ掲クル事項ヲ所轄稅務署又ハ關係府縣知事ニ届出ツヘシ

一 礦物ノ掘採中有シタル營業所ノ名稱及所在地

本令公布ノ日前ニ申告ヲ了シタル者ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ル届出ハ本令公布ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

二 内務大臣及大藏大臣ノ指定スル事項（營業所毎ニ区分シタルモノ）
 稅務官署關係府縣知事ニ本稅額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲クル事項ヲ通知スヘシ
 一 當該府縣内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地
 二 納稅告知ノ年月日
 三 鑛產稅額
 前項ノ規定ハ府縣知事關係市町村長ニ本稅稅額ノ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第十四條 地方稅ノ賦課徵收ニ關シ從前ノ規定ニ依リ地方團體ノ定メタル條例等ニシテ地方稅法ニ牴觸セサルモノハ之ヲ地方稅法ニ依リ定メタル條例ト看做ス
 雜種稅、雜種稅附加稅又ハ市町村特別稅ニ關シ從前ノ規定ニ依リ地方團體ノ定メタル條例等ニシテ地方稅法ニ牴觸セサルモノハ之ヲ府縣稅獨立稅、府縣稅獨立稅附加稅又ハ市町村稅獨立稅ニ關シ地方稅法ニ依リ定メタル條例ト看做ス
 第十五條 神戸市ニ在ル家屋ニ對スル昭和十五年及昭和十六年度分ノ家屋稅ノ賦課ニ付テハ大正十五年法律第二十四號第十二條ノ規定ニ依リ決定シタル家屋ノ賃賃價格ヲ以テ同法第十條ノ規定ニ依リ決定シタル家屋ノ賃賃價格ト看做ス

地方稅法施行規則第二條第二號、第三條第一項第六號、第十二條第一項、第十三條第一項第二號ニ依リ届出ツベキ事項
 （昭和十五年四月三十日内務・大藏省告示第十五號）

- 第一 地方稅法施行規則第二條第二號、第三條第一項第六號ニ關スル事項
- 一 物品販賣業
 - 賣上金額、經費（仕入品、原料品ノ代價其ノ他之ニ類スルモノヲ除ク以下之ニ同シ）
 - 二 銀行業
 - 收入金額（利益又利息ノ配當及有價證券ノ利子收入ニ付テハ各期末現在ノ預金額ヨリ割引手形及貸付金ノ額ヲ差引タルモノニ按分シタルモノ）
 - 給付金契約現在高、經費
 - 三 無盡業
 - 信託報酬、經費
 - 四 信託業
 - 收入保險料、經費
 - 五 保險業
 - 收入金額
 - 六 金錢貸付及物品貸付業
 - 收入金額、經費
 - 七 鐵道、軌道及自動車運輸業
 - 收入金額、經費
 - 八 運送業（運送取扱業ヲ含ミ前號ノ運輸事業ヲ除ク）
 - 收入金額（鐵道納金ニ相當スルモノヲ除ク）、經費
 - 九 瓦斯事業
 - 收入金額、經費
 - 十 製造業（瓦斯事業ヲ除ク）
 - 固定資産、經費
 - 鑛產物價額、經費
 - 十一 鑛業及砂鑛業
 - 收入金額（賣買ニ付テハ賣買益金）、經費
 - 十二 土地建物賣買及賃貸業
 - 收入金額、經費
 - 十三 水産業
 - 收入金額、經費
 - 十四 請負業
 - 收入金額、經費

其ノ他ノ營業

收入金額、經費

其ノ他ノ營業
 夫 前各號ノ外稅務署長又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル事項
 數種ノ營業ヲ兼ヌルモノニ在リテハ營業所毎ノ營業別ニ前各號ニ定ムル事項ヲ記載スルモノトス
 收入金額又ハ經費等ニシテ各營業所ニ共通スルモノハ之ヲ除外シテ記載スルモノトス
 前各號ノ營業ニ付營業稅法其ノ他法律ニ依リ營業稅ヲ課セス又ハ免除セラレタルモノニ付テハ其ノ課セス又ハ免除セラ
 レタル部分ニ相當スル金額ハ區分記載スルモノトス
 法人ノ清算純益ニ關スルモノニ付テハ合併又ハ解散ノ日ニ於ケル資產價額ヲ記載スルモノトス

第二

地方稅法施行規則第十二條第一項ニ關スル事項第一ニ掲クル事項ハ地方稅法施行規則第十二條第一項ノ規定ニ依ル
 出ノ場合ニ之ヲ準用スルモノトス

第三

地方稅法施行規則第十三條第一項第二號ニ關スル事項
 一 鑛產物價額、鑛區坪數、經費
 二 前號ノ外稅務署長又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル事項
 從前ノ規定ニ依リ鑛產稅ヲ課セラレサル部分ニ相當スル金額ハ之ヲ區分記載スルモノトス

臨時地方稅措置ニ關スル件

(昭和十三年四月一日勅令第二百四號)

改正 昭和十五年三月三十一日勅令第九十九號

當分ノ內臨時稅措置法ニ依ル田畑地租ノ輕減ノ例ニ依リ地租法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セラルル田畑ニ對スル地
 租附加稅(地租割ヲ含ム)ヲ輕減ス

附 則

本令ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス
 本令ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

附 則 (昭和十五年三月勅令第九十九號)

本令ハ昭和十五年度分ヨリ之ヲ適用ス
 本令ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス
 昭和十四年度分以前ノ特別地稅、特別地稅附加稅及營業稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

都市計畫法

(抄錄) (大正八年四月五日法律第三十六號)

改正 大正十五年三月三十日法律第三十八號

昭和六年三月二十日法律第十五號

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行
 スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ負擔トス
 主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限
 度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於

テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其稅率ヲ定ムヘシ

- 一 地租割 地租百分ノ九以內 (昭和六年法律第三十號改正)
 - 二 營業收益稅割 營業收益稅百分ノ二十二以內 (大正十五年法律第三十八號改正)
 - 三 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四以內
 - 四 特別地稅、賃賃價格千分ノ三・四以內 (大正十五年法律第三十八號追加昭和六年法律第三十號改正)
 - 五 其他勅令ヲ以テ定ムルモノ
- 營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス (大正十五年法律第三十八號追加)
- 特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ賃賃價格ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス (同上)

第二十七條

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年勅令第四百八十一號ヲ以テ大正九年一月一日ヨリ施行)

本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益稅割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス 營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セラレサル營業稅額ハ大正十五年度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス (昭和六年三月法律第三十號)

本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ改正規定ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス 昭和六年度分ニ付テハ第八條ノ改正規定中百分ノ九トアルハ百分ノ八、千分ノ三・四トアルハ千分ノ三・二トス 昭和六年度分ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ從前ノ地租ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ地租割ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ特別地稅ヲ賦課スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從前ノ地價ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スヘシ

罹災救助基金法 (抄錄)

第三條 府縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金ノ最少額ハ五十萬圓トス

第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲地租、所得稅(第二種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ除ク)及營業收益稅ノ附加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ明治四十一年法律第三十七號ノ制限ノ外千分ノ十三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得但前條ノ制限額ニ達シタル府縣ハ此限ニ在ラス (昭和七年法律第三十三號改正)

府縣制 (抄錄)

(明治三十二年三月十六日法律第六十四號) 改正 昭和十五年三月二十九日法律第六十二號

府縣制

第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及府縣稅

第三百三條 府縣ハ地方稅法ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得 (昭和十五年三月二十九日法律第六十二號改正)

府縣制施行規則 (昭和十五年四月一日內務省令第十一號改正)

第三十五條 府縣稅ハ徵收令書、徵收傳令書ニ依リ夫役現品ハ賦課令書ニ依リ負擔金、使用料、手数料、分擔金、過料、過意金、及物件ノ賃賃料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スヘシ但シ地方稅法第三十五條又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ徵收スル府縣稅及急迫ノ場合ニ賦課スル夫役並ニ納額告知書又ハ納付書ニ依リ難キモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 削除 (昭和十五年法律第六十二號)

第四百五條 (同上)

第四百六條 (同上)

第四百七條 (同上)

第四百八條 (同上)

第四百九條 (同上)

第五百十條 (同上)

第五百十一條 府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ水利ニ關スル事業其ノ他土地ノ利益ト爲ルヘキ事件ニ依リ特ニ利益ヲ受クル者ヨ

リ分擔金ヲ徵收スルコトヲ得 (昭和十五年法律第六十二號)
第百十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ
夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條 削除 (昭和十五年法律第六十二號)

第百十四條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料、手数料又ハ分擔金ノ徵收ヲ免レタル者ニ付テハ府縣條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レタル金額ノ五倍ニ相當スル金額 (其ノ金額十圓未満ナルトキハ十圓) 以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

(昭和四年四月法律第五十五號改正昭和十五年三月法律第六十二號改正)

前項ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手数料及分擔金ノ徵收ニ關シテハ府縣條例ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財産又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ (同上)

過料ヲ科シ及之ヲ徵收スル府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十五條 使用料、手数料若ハ分擔金ノ徵收又ハ夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者、其ノ徵收又ハ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得 (同上)

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 (同上)

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得 (同上)

第百十六條 使用料、手数料、分擔金、夫役又ハ現品ニ代フル金錢、過料其ノ他ノ府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

急迫ノ場合ニ於テ夫役又ハ現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ換算シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ府縣條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル督促又ハ第二項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限マテニ完納セサルトキハ國稅滯納處分

ノ例ニ依リ處分スヘシ (同上)

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時効ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル (同上)
府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏員カ爲シタル前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第四項ノ規定ニ依ル處分ニ係ル差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス
第四項ノ處分ハ其ノ府縣ノ區域外ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

附 則 (昭和十五年法律第六十二號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ昭和十四年度分以前ノ府縣稅、夫役現品及府縣費ノ分賦並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ徵收ノ告知アリタル使用料及手数料ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テ地方稅法ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル
從來市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テ本法施行ノ際現ニ名譽職參事會員及其ノ補充員タル者ハ最近ノ改選期ニ於テ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス但シ本法施行ノ際ニ於テ各十人ノ定員ヲ超ユル員數ニ付テハ府縣知事抽籤シテ解任スヘキ者ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員ノ補缺順位ハ府縣知事抽籤シテ之ヲ定ム

從來市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於ケル昭和十四年度分以前ノ財務ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ市部會及郡部會又ハ市部參事會及郡部參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ府縣會又ハ府縣參事會之ヲ行フ

從來市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ノ財產處分ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

從來市部及郡部ノ經濟ノ分別シタル府縣ニ於ケル府縣稅ノ賦課其ノ他ノ財務ニ關シテハ當分ノ內命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

府縣制施行令

(抄錄) (大正十五年六月二十四日勅令第二百號)

改正 昭和十五年四月一日勅令第二百三十三號

第二十六條 分擔金ハ府縣制第十一條ノ事件ニ關シ必要ナル費用ニ充ツル爲之ヲ徵收ス(昭和十五年四月勅令第三三三號改正)

分擔金ノ徵收額(數年ヲ期シテ徵收スルトキハ其ノ總額)ハ當該土地ノ受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)

地方税法第十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ課稅ヲ爲シ若ハ府縣ノ一部ニ課稅ヲ爲シ又ハ同法第七十七條ノ規定ニ依リ水利稅ヲ課スルトキハ同一事件ニ關シ分擔金ヲ徵收スルコトヲ得ス(同上)

分擔金ノ徵收ヲ受クル者ノ範圍及其ノ徵收方法ハ府縣ニ於テ之ヲ定ム(同上)

第二十七條 削除(昭和十五年勅令第二百三十三號)

第二十八條 削除(同上)

第二十九條 削除(同上)

第三十條 府縣ノ内外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業ニ付營業收益稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對スル營業收益稅附加稅ノ賦課ニ關シテハ府縣制第八條第一項ノ例ニ依ル

第三十一條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

府縣ハ前項徵收ノ費用トシテ地租附加稅及特別地稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七、其ノ他ノ府縣稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第三十二條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

府縣知事前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ、府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣制第三十八條及第二百二十八條ノ規定ハ本條ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 府縣稅ヲ徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限り前二項ノ規定ニ依ラス其ノ府縣ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ府縣稅ヲ納入セシムルコトヲ得

第三十四條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス但シ府縣知事ハ市町村吏員ヲシテ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅人又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

第三十五條 第三十三條第二項ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ徵稅令書ヲ發セシメタル場合ニ於テハ府縣條例ノ規定スル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スルコトヲ得(昭和四年六月勅令第八十號改正)

第三十六條 徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人期限内ニ稅金ヲ完納セザルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ遅クトモ納期限後二十日迄ニ督促狀ヲ發スヘシ(昭和十年七月勅令第七十四號改正)

間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ハ第一項ニ規定スル期限ヲ定ムルコトヲ得(昭和十年七月勅令第七十四號追加)

第三十七條 督促狀ヲ發シタルトキハ手數料ヲ徵收ス

手數料ノ額ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(昭和四年六月勅令第八十號改正)

市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手數料ハ其ノ市町村ノ收入トス

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員カ第一項ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(昭和八年十月勅令第二百八十五號追加)

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得(同上)

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ本條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス(同上)

第三十八條 市制町村制施行令第四十五條乃至第五十二條ノ規定ハ府縣稅ノ賦課徵收ニ之ヲ準用ス

第三十九條 府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定シタル府縣稅ニ付テハ第三十一條第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

第四十條 前條第一項ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納稅人ハ其ノ稅金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納稅ノ義務ヲ了ス

第四十一條 第三十九條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スヘキ府縣稅ヲ府縣知事ノ指定シタル期日迄ニ府縣金庫又ハ郵便官署ニ拂込ムヘシ其ノ期日迄ニ拂込マサルトキハ府縣知事ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スヘシ

第四十二條 第三十一條第二項、第三十二條及第三十四條第三項、第四項並ニ市制町村制施行令第四十五條乃至第四十八條ノ規定ハ第三十九條第一項ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ徵收セシムル場合ノ拂込金ニ之ヲ準用ス

第四十三條 府縣稅ノ徵收期ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(昭和四年勅令第八十號改正)

第四十四條 府縣稅ノ徵收ニ關スル細則ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(同上)

第四十五條 町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス、其ノ準用シ難キ事項ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(同上)

第四十七條 從來市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部及郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會及市部參事會並ニ郡部會及郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第五十一條 府縣費ニ關スル市部及郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ(昭和四年六月勅令第八十號改正)

第五十五條 島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ分別スルコトヲ得

第五十六條 東京府下伊豆七島中小島及鳥島並ニ小笠原島中北硫黃島、南硫黃島、南鳥島、中ノ鳥島及沖ノ鳥島ニ於ケル府縣議員ノ選舉ニ關シテハ當分從前ノ例ニ依ル(昭和十五年四月一日勅令第二百三十二號)

附 則(昭和十五年四月一日勅令第二百三十三號) 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十四年度分以前ノ府縣稅及府縣費ノ分賦ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テ地方稅法ニ別段ノ定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

從來島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トヲ分別シタル府縣ニ於ケル昭和十四年度分以前ノ財務ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

市制

町村制

(抄錄) (明治四十四年四月七日法律第六十八號) 改正 昭和十五年三月二十九日法律第六十三號

第九十六條 市ハ其必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬ス費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第九十七條 市ハ其ノ支出ニ充ツル爲市稅、分擔金及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十八條 市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ地方稅法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條 削除(昭和十五年三月法律第六十三號及六十四號)

第一百條 (同上)

第一百零一條 (同上)

第一百零二條 分擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ數人若ハ市ノ一部ヲ利スル財產若ハ營造物又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ利益アル事件ニ關シテ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ徵收ス(昭和十五年法律第六十三號及六十四號)

第二百二十四條 夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ準率ト爲シ、直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ、且之ヲ金額ニ算

出シテ賦課スヘシ但シ、第四百七十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス（昭和十五年法律第六十三號第六十四號）
學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス（同上）

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得（同上）
夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得（同上）

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス（同上）
第二百二十五條 數人若ハ一部ヲ利スル財產若ハ營造物又ハ數人若ハ一部ニ對シ利益アル事件ニ關シテハ、町村ハ夫役

現品ニ付不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ一部ニ對シテ其ノ賦課ヲ爲スコトヲ得（昭和十五年法律第六十三號第六十四號）
第二百二十七條 削除（昭和十五年法律第六十三號第六十四號）

第二百二十八條 同上
第二百二十九條 使用料、手數料及分擔金ニ關スル事項ニ付テハ、町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ（大正十五年法律第七五號改正）同上

第二百二十九條 詐欺其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料、手數料又ハ分擔金ノ徵收ヲ免レタル者ニ付テハ、町村條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レタ
ル金額ノ五倍ニ相當スル金額（其ノ金額十圓未満ナルトキハ十圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得（同上）

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及分擔金ノ徵收ニ關シテハ、町村條例ヲ以テ十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設
クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ（同上）

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スル
コトヲ得（同上）依リ以下項前條下ノコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二百三十條 使用料、手數料、加入金若ハ分擔金ノ徵收又ハ夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ徵收又ハ賦課ニ付違法又ハ錯

誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得（昭和十五年法律第六十三號第六
十號改正）

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町市長ニ申立ツルコトヲ得
前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町市長ハ七日以内ニ之ヲ町村參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服
アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（大正十五年六月
法律第七十五號改正）

前項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二百三十一條 使用料、手數料、加入金、分擔金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ

長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ（昭和十五年法律第六十三號第六十四號改正）
町村

第四項ノ處分ハ町村ノ區域外ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得（同上）
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金額ヲ納メサルトキハ町市長ハ期限ヲ指定

シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處
分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（大正十五年法律

第四百六十七條）
第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第二百四十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但第一號、第四號及第九號ニ掲クル事件ニシテ勅令ヲ以テ指定
スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ（昭和四年法律第五十七號本條改正）

町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
一 基本財産及特別基本財産ニ關スルコト

二 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更シ又ハ廢止スルコト
三 使用料ヲ新設シ又ハ變更スルコト

- 五 分擔金ヲ新設シ又ハ變更スルコト(昭和十五年法律第六十三號及第六十四號改正)
- 六 第百二十四條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此限ニ在ラス(同上)
- 七 第百二十五條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト
- 八 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト(同上)
- 九 市債ヲ起シ或ハ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第百三十二條第百三十三條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十四年度分以前ノ町村税、夫役現品及町村組合費並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ徵收ノ告知アリタル使用料、手数料及加入金ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テ地方税法ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

市制町村制施行令 (抄錄)

(大正十五年六月二十四日勅令第二百一號)

改正 昭和十五年四月一日勅令第二百三十四號

- 第三十九條ノ二 削除(昭和十五年勅令第二百三十四號)
- 第三十九條ノ三 削除(同上)
- 第四十條 分擔金ハ市制第百二十二條又ハ町村制第百二條ノ財産、營造物又ハ事件ニ關シ必要ナル費用ニ充ツル爲之ヲ徵收ス(昭和十五年四月勅令第二百三十四號改正)
- 分擔金ノ徵收額(數年ヲ期シテ徵收スルトキハ其ノ總額)ハ市制第百二十二條又ハ町村制第百二條ノ財産、營造物又ハ事件ニ因ル受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)
- 地方税法第十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ課税ヲ爲シ若ハ市町村ノ一部ニ課税ヲ爲シ又ハ同法第七十八條ノ規定ニ依リ水利地益税ヲ課シ若ハ同法第七十九條ノ規定ニ依リ共同施設税ヲ課スルトキハ同一事件ニ關シ分擔金ヲ徵收スルコトヲ得ス(同上)
- 分擔金ノ徵收ヲ受クル者ノ範圍及其ノ徵收方法ハ市町村ニ於テ之ヲ定ム(同上)

- 第四十一條 削除(昭和十五年四月一日勅令第二百三十四號)
- 第四十二條 (同上)
- 第四十三條 (同上)
- 第四十四條 (同上)
- 第四十五條 (同上)
- 第四十六條 (同上)
- 第四十六條ノ二 (同上)
- 第四十六條ノ三 (同上)
- 第四十七條 (同上)
- 第四十八條 (同上)
- 第四十九條 (同上)
- 第五十條 (同上)
- 第五十一條 (同上)
- 第五十二條 (同上)
- 第五十三條 (同上)
- 第五十四條 (同上)
- 第五十五條 (同上)
- 第五十六條 (同上)
- 第五十七條 (同上)
- 第五十八條 (同上)
- 第五十九條ノ二 左ニ提クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ(昭和十四年六月勅令第百八十六號新設、同八年十月勅令第百八十六號ヲ以テ本項借書及第四號刪除)
- 一 水道(大正十年勅令第三百三十一號第一號ニ該當スルモノヲ除ク)、下水道、電氣、瓦斯、鐵道、軌道及自動車竝ニ中央卸賣市場法ニ於ル市場ノ使用料ニ關スルコト(昭和八年十月勅令第百八十六號同十四年二月同第三百三十四號改正)
- 二 据置期間ヲ通シテ償還期限二年度ヲ超ユル市町村債及借入ノ翌年度ニ於テ借入金ヲ以テ償還スル市町村債ニ關スルコト

ト (昭和八年十月勅令第二百八十六號改正同十五年勅令第二百三十四號改正)

- 前項第二號ニ掲クル事件ト雖モ左ニ掲クルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス (同上)
- 一 傳染病豫防費又ハ急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル市町村債
- 二 小學校舎ノ建築、増築、改築其ノ他小學校設備ノ費用ニ充ツル爲借入ルル市町村債ニシテ据置期間ヲ通シ償還期限十年度ヲ超エサルモノ
- 三 前二號ニ掲クル市町村ノ起債ノ方法、利息ノ定率又ハ償還方法ノ變更
- 四 市町村債又ハ市町村債ノ起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還方法ノ變更ニシテ内務大臣及大藏大臣ノ指定スルモノ

第六十條

左ニ掲クル事件ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス (昭和四年六月勅令第八十六號改正)

- 一 耕地整理又ハ區劃整理ノ爲市町村又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ境界ヲ變更スルコト但シ關係アル市町村會又ハ區會ニ於テ意見ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス (同上)
- 二 所屬未定地ヲ市町村又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區域ニ編入スルコト但シ關係アル市町村會又ハ區會ニ於テ意見ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス (同上)
- 三 公告式、印鑑、書類送達、諸證明、市町村ノ一部ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト (同上)
- 四 公會堂、公園、水族會、動物園、植物園、鑛泉、浴場、共同宿泊所、消毒所、產婆、胞衣及產穢物燒却場、幼兒哺育場、商品陳列所、勸業館、農業倉庫、殺蝨乾燥場、種畜、牛馬種付所、斃獸解剖場、上屋、荷揚場、貯木場、土砂採取場、石材採取場、農具ノ管理及使用竝ニ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト (同上)
- 五 手數料、加入金、延滞金及積立金穀等ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト (同上)
- 六 市町村稅ニ關スル條例 (地方稅法第二十一條第二項及第三項、第二十三條第一項竝ニ第六十五條第二項ノ條例ヲ除クヲ設ケ又ハ改廢スルコト但シ地方稅法及地方稅法施行令ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項ニ關スルトキハ此ノ限ニ在ラス (昭和十五年四月勅令第二百三十四號改正)
- 七 使用料、分擔金又ハ委員ニ關スル條例ヲ廢止スルコト (昭和十五年四月勅令第二百三十四號改正)
- 八 三年度ヲ超エサル繼續費ヲ定メ又ハ其ノ年期限内ニ於テ之ヲ變更スルコト (同上)
- 九 繼續費ヲ減額スルコト (同上)

- 十 市町村債ノ借入額ヲ減少シ又ハ利息ノ定率ヲ低減スルコト (同上)
- 十一 市町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更シ若ハ債券發行ノ方法ニ依ラサル市町村債ヲ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更スルコト (同上)
- 十二 市町村債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セシ且利息ノ定率ヲ高メスシテ借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (同上)
- 十三 市町村債ノ償還年限ヲ延長セシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度内ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト (同上)
- 十四 府縣ノ基金若ハ資金又ハ市町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レタル府縣債ノ收入金ヨリ借入ルル市町村債ヲ起シ及其ノ起債ノ方法、利息ノ定率又ハ償還方法ヲ變更スルコト (同上)
- 十五 市町村債ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト (昭和四年十月勅令第二百八十六號又ハ同十五年四月勅令第二百三十四號)

附 則 (昭和十五年四月勅令第二百三十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭知十四年度分以前ノ市町村稅及昭和十五年三月三十一日以前ニ徵收ノ告示アリタル使用料ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テ地方稅法ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

公共團體ノ收入及仕拂ニ關シ國庫出納金端數計算
法準用ノ件 (大正五年八月二十三日勅令第二百九號)

- 第一條 國庫出納金端數計算法第六條ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左ノ如シ
- 市制第六條ノ市ノ區
- 水利組合
- 北海道土功組合
- 健康保險組合 (昭和二年勅令第三十四號追加)
- 朝鮮ノ道、府邑面郡島學校費、學校組合及水利組合 (昭和六年三月勅令第三十二號改正、同十二年六月勅令第二百八十四號改正)

臺灣ノ州、廳地方費、市街庄及水利組合（大正十一年三月勅令第五十五號、同十三年十二月勅令第三百一號改正）
樺太ノ市町村（大正十一年三月勅令第五十五號、同十三年十二月勅令第三百一號改正）

第二條 國庫出納金端數計算法第六條ノ公共團體ノ收入及支拂中左ニ掲クル種目ニハ同法ヲ準用セス

一 法令ニ依リ當然公共團體ニ歸屬スル收入金

二 貨幣交換差金

三 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金

四 缺損補填金

附 則

本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則（昭和六年三月勅令第三十二號）

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時地方財政補給金規則

（昭和十二年七月二十九日內務省令第三十一號）
（昭和十三年六月三十日內務省令第二十六號改正）
（昭和十四年六月二十一日內務省令第二十三號改正）

第一條 政府ハ過重ナル地方稅負擔ノ緩和ヲ圖ル爲北海道府縣ニ對シ臨時地方財政補給金（以下補給金ト稱ス）四千五百萬圓ヲ、市町村ニ對シ補給金一億三百萬圓ヲ交付ス

第二條 補給金ノ交付ヲ受ケタル北海道府縣又ハ市町村ハ內務大臣ノ指示ニ從ヒ之ヲ稅ノ減收ノ補填竝ニ北海道地方稅若ハ府縣稅中地租附加稅（宅地分ヲ除ク）及特別地稅又ハ市町村稅中戶數割（戶數割ヲ賦課セサル市町村ニ於ケル家屋稅附加稅特別所得稅及之ニ類スルモノヲ含ム）ノ輕減ニ充當スヘシ

第三條 特別ノ事情アルトキハ北海道府縣ニ在リテハ內務大臣、市町村ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ拘ラス補助金ヲ內務大臣ノ指示ト異ル方法ニ依リ稅ノ輕減、支那事變ニ伴フ輕費及歲入ノ減收ノ補填、稅ノ増徴ニ依リ補填ヲ要スル歲入缺陷ノ補填又ハ將來ノ負擔ヲ著シク過重ナラシムヘキ公債ノ繰上償還ニ充當スルコトヲ得

第四條 補給金ハ其ノ使途確定シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事情アルトキハ其ノ使途確定セサルモ之ヲ交付スルコトヲ得

第五條 特別ノ必要アルトキハ內務大臣又ハ地方長官ハ補給金ノ交付ヲ受ケタル北海道府縣又ハ市町村ニ對シ歲入出豫算ノ追加又ハ更正ニ關シ豫メ承認ヲ受ケシムルコトヲ得

第六條 北海道府縣又ハ市町村本令若ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違背シタルトキ又ハ故意若ハ重大ナル過失ニ因リ不當ニ補給金ノ交付ヲ受ケ若ハ受ケントスルノ所爲アリタルトキハ內務大臣又ハ地方長官ハ北海道府縣又ハ市町村ニ對シ補給金ノ全部若ハ一部ヲ交付セス又ハ既ニ交付シタル補給金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトヲ得

第七條 町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル町村組合ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本令中町村又ハ町村稅ニ關スル規定ハ町村又ハ町村稅ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方分與稅

(昭和十五年三月二十九日法律第六十一號)

第一章 總則

第一條 還付稅及配付稅ヲ以テ地方分與稅トシ還付稅ハ道府縣ニ、配付稅ハ道府縣及市町村ニ對シテ之ヲ分與ス

第二條 地租、家屋稅及營業稅ノ徵收額ノ全部ヲ以テ還付稅トス

所得稅及法人稅ノ徵收額ノ百分ノ十七・三八並ニ入場稅及遊興飲食稅ノ徵收額ノ百分ノ五十ヲ以テ配付稅トス

第二章 還付稅

第三條 毎年度分トシテ分與スヘキ還付稅ハ當該年度ニ於テ徵收スヘキ地租、家屋稅及營業稅トス

地租、家屋稅又ハ營業稅ニ付或ル年度ニ於テ支出シタル拂戻金ハ當該年度ノ徵收稅額ヨリ之ヲ控除ス

第四條 各道府縣ニ分與スヘキ還付稅ハ其ノ區域内ニ於テ徵收スヘキ地租、家屋稅及營業稅トス

數道府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ課スル營業稅ニ付テハ前項ニ規定スル營業稅ノ額ハ營業稅ヲ決定シタル稅務官署之ヲ定ム

稅務官署ハ營業稅ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依リ營業稅ノ額ヲ定メ之ヲ關係府縣知事(北海道廳長官ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ通知スヘシ

關係府縣知事ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ稅務官署ノ定メタル營業稅ノ額ニ異議アルトキハ内務大臣及大藏大臣其ノ額ヲ定ム

前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ申出ツヘシ

内務大臣及大藏大臣第四項ノ異議ノ申出ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ決定スヘシ

第五條 第一項ニ規定スル地租、家屋稅又ハ營業稅ニ付支出シタル拂戻金ハ當該道府縣分ノ徵收稅額ヨリ之ヲ控除ス

還付稅ハ毎年度四回ニ分チテ之ヲ交付ス

第三章 配付稅

第一節 通則

毎年度分トシテ分與スヘキ配付稅ノ額ハ前前年度ニ於テ徵收シタル所得稅及法人稅ノ百分ノ十七・三八並ニ入場稅

及遊興飲食税ノ百分ノ五十トス

前項ノ規定ニ依リ分與スヘキ配付税ノ額カ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ百十ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ當該年度ニ於テ分與スヘキ額ヨリ減額ス

第一項ノ規定ニ依リ分與スヘキ配付税ノ額カ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ九十ニ不足スルトキハ其ノ不足額ハ之ヲ當該年度ニ於テ分與スヘキ額ニ増額ス

第七條 地方財政ノ情況上必要アルトキハ前條ノ規定ニ依リ分與スヘキ配付税ノ額ニ左ノ各號ノ一ニ定ムル額ヲ増額スルコトヲ得

一 前條第二項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ百十ヲ超過スル額ノ全部又ハ一部

二 前條第三項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ニ不足スル額ノ全部又ハ一部

三 前條第一項ノ額カ前年度ニ於ケル分與額ニ不足シ且其ノ百分ノ九十ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ不足額ノ全部又ハ一部

四 當該年度ニ於ケル配付税ノ收入見込額カ前條第一項ノ額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ノ全部又ハ一部

第八條 地方財政ノ情況上必要アルトキハ第六條ノ規定ニ依リ分與スヘキ配付税ノ額ヨリ左ノ各號ノ一ニ定ムル額ヲ減額スルコトヲ得

一 第六條第二項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ヲ超過スル額ノ全部又ハ一部

二 第六條第三項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ九十ニ不足スル額ノ全部又ハ一部

三 第六條第一項ノ額カ前年度ニ於ケル分與額ヲ超過シ且其ノ百分ノ百十ニ不足スル場合ニ於テハ其ノ超過額ノ全部又ハ一部

四 當該年度ニ於ケル配付税ノ收入見込額カ第六條第一項ノ額ニ不足スル場合ニ於テハ其ノ不足額ノ全部又ハ一部

第九條 地方分與税分與金特別會計法第四條ノ規定ニ依ル借入金ノ元利償還上必要アルトキハ當該年度ニ於ケル配付税ノ分與額ヨリ其ノ所要額ヲ減額スルコトヲ得

第十條 配付税ハ左ノ區分ニ依リ道府縣及市町村ニ對シテ之ヲ分與ス

一 道府縣配付税 配付税總額ノ百分ノ六十二

二 市町村配付税 配付税總額ノ百分ノ三十八

第十一條

配付税ノ分與額ハ前年度初日ノ現在ニ依リ各道府縣及市町村ニ付之ヲ算定ス

前項ノ期日後ニ於テ道府縣又ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テハ當該道府縣又ハ市町村ニ對スル配付税ノ分與額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第十二條 配付税ハ毎年度四回ニ分テ之ヲ交付ス

第二節 道府縣配付税

第十三條 道府縣配付税ハ之ヲ第一種配付額及第二種配付額ニ分テ第一種配付額ハ道府縣ノ課税力ヲ標準トシ第二種配付額ハ道府縣ノ財政需要ヲ標準トシテ之ヲ分與ス

第十四條 第一種配付額及第二種配付額ハ夫々道府縣配付税總額ノ半額トス

第十五條 第一種配付額ハ單位稅額カ道府縣標準單位稅額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ當該道府縣ノ人口ヲ乘シタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位稅額ハ當該道府縣ノ還付稅額及國稅附加稅額ノ合算額ヨリ災害土木費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除シタル額ヲ當該道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

道府縣標準單位稅額ハ全道府縣ノ還付稅額及國稅附加稅額並ニ道府縣配付税總額ノ合算額ヨリ全道府縣ノ災害土木費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除シタル額ヲ全道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

北海道ニ付テハ北海道拓殖費ノ毎年度支出額中ノ一定部分ヲ北海道ノ人口ヲ以テ除シタル額、沖繩縣ニ付テハ沖繩縣振興事業費ノ毎年度支出額中ノ一定部分ヲ沖繩縣ノ人口ヲ以テ除シタル額ヲ第二項ノ額ニ加算シタル額ヲ以テ單位稅額トス

前項ノ支出額中ノ一定部分ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 第二種配付額ハ當該道府縣ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一 三十萬

二 當該道府縣ノ尋常小學校兒童數ノ人口ニ對スル比率カ其全道府縣平均率ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該道府縣ノ人口ニ乘シタル數ノ四倍

第十七條 單位稅額カ道府縣標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル道府縣ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セス

前二條ノ規定ニ依ル道府縣配付税ノ額ヲ當該道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該道府縣ノ單位稅額ノ合算額カ道府縣標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過額ニ當該道府縣ノ人口ヲ乘シタル額ヲ配付税ノ分與額ヨリ減額ス

第十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ前條ノ規定ニ該當セサル道府縣ニ對シテ第十六條ノ規定ニ準シ之ヲ再分與ス
前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ再分與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ殘額ヲ生セサルニ至ル迄前二項ノ例ニ依リ之ヲ再分與ス

第三節 市町村配付税

第一款 通 則

第十九條 市町村配付税ハ大都市配付税、都市配付税及町村配付税ノ三種トス

大都市配付税ハ大都市ニ都市配付税ハ都市ニ、町村配付税ハ町村ニ對シテ之ヲ分與ス
大都市トハ人口七十萬以上ノ市ヲ、都市トハ人口七十萬未滿ノ市ヲ謂フ

第二十條 大都市配付税、都市配付税及町村配付税ノ各總額ハ左ノ各號ノ額ノ合算額トス

一 市町村配付税總額ノ半額ヲ大都市、都市又ハ町村ノ平均單位稅額ヲ市町村標準單位稅額ヨリ控除シタル殘額ニ各總人口ヲ乘シタル額ニ按分シタル額

二 市町村配付税總額ノ半額ヲ大都市、都市及町村ノ各總人口ニ按分シタル額

前項第一號ノ大都市、都市又ハ町村ノ平均單位稅額ハ大都市、都市又ハ町村ノ國稅附加稅額ヲ夫々ノ總人口ヲ以テ除シタル額トス

前項第一號ノ市町村標準單位稅額ハ全市町村ノ國稅附加稅額及市町村配付税總額ノ合算額ヲ全市町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第二款 大都市配付税

第二十一條 大都市配付税ハ之ヲ第一種配付額及第二種配付額ニ分チ第一種配付額ハ大都市ノ課稅力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ大都市ノ財政需要ヲ標準トシテ之ヲ分與ス

第二十二條 第一種配付額及第二種配付額ハ夫々大都市配付税總額ノ半額トス

第二十三條 第一種配付額ハ單位稅額カ大都市標準單位稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ當該市ノ人口ヲ乘シタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位稅額ハ當該市ノ國稅附加稅額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

大都市標準單位稅額ハ大都市ノ國稅附加稅額及大都市配付税總額ノ合算額ヲ大都市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第二十四條 第二種配付額ハ當該市ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一 四十萬

二 當該市ノ尋常小學校兒童數ノ人口ニ對スル比率カ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該市ノ人口ニ乘シタル數ノ十倍

第二十五條 單位稅額カ大都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セス

前二條ノ規定ニ依リ大都市配付税ノ額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該市ノ單位稅額ノ合算額カ大都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ニ當該市ノ人口ヲ乘シタル額ヲ配付税ノ分與額ヨリ減額ス

第二十六條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ前條ノ規定ニ該當セサル市ニ對シテ第二十四條ノ規定ニ準シ之ヲ再分與ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ再分與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ殘額ヲ生セサルニ至ル迄前二項ノ例ニ依リ之ヲ再分與ス

第三款 都市配付税

第二十七條 都市配付税ハ之ヲ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ニ分チ第一種配付額ハ都市ノ課稅力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ都市ノ財政需要ヲ標準トシ、第三種配付額ハ特別ノ事情アル都市ニ對シ其ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

第二十八條 第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ夫々都市配付税總額ノ百分ノ四十七・五、百分ノ四十七・五及百分ノ五トス

第二十九條 第一種配付額ハ單位稅額カ都市標準單位稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ當該市ノ人口ヲ乘シタル額ニ按

分シテ之ヲ分與ス

單位稅額ハ當該市ノ國稅附加稅額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

都市標準單位稅額ハ全都市ノ國稅附加稅額及都市配付稅總額ノ合算額ヲ全都市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第三十條 第二種配付額ハ當該市ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一 一萬五千

二 當該市ノ尋常小學校兒童數ノ人口ニ對スル比率カ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該市ノ人口ニ乘シタル數ノ十倍

第三十一條 第三種配付額ノ分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 單位稅額カ都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セシ

第二十九條及第三十條ノ規定ニ依ル都市配付稅ノ額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該市ノ單位稅額ノ合算額カ都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ニ當該市ノ人口ヲ乘シタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

第三十三條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四款 町村配付稅

第三十四條 町村配付稅ハ之ヲ第一種配付額第二種配付額及第三種配付額ニ分チ第一種配付額ハ町村ノ課稅力ヲ標準トシ、

第二種配付額ハ町村ノ財政需要ヲ標準トシ、第三種配付額ハ特別ノ事情アル町村ニ對シ其ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

第三十五條 第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ夫々町村配付稅總額ノ百分ノ四十七・五、百分ノ四十七・五及百分ノ五トス

第三十六條 第一種配付額ハ單位稅額カ町村標準單位稅額ニ不足スル町村ニ對シテ其ノ不足額ニ當該町村ノ人口ヲ乘シタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位稅額ハ當該町村ノ國稅附加稅額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

町村標準單位稅額ハ全町村ノ國稅附加稅額及町村配付稅總額ノ合算額ヲ全町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一 八百

二 當該町村ノ尋常小學校兒童數ノ人口ニ對スル比率カ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該町村ノ人口ニ乘シタル數ノ十倍

第三十八條 第三種配付額ノ分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十九條 單位稅額カ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セシ

第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依ル町村配付稅ノ額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該町村ノ單位稅額ノ合算額カ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過額ニ當該町村ノ人口ヲ乘シタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

第四十條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四章 補 則

第四十一條 本法ノ適用ニ付テハ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準スヘキモノハ之ヲ町村ト看做ス

伊豆七島及小笠原島ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條乃至第二十五條、第二十九條、第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ人口、第十五條ノ還付稅額、第十五條、第二十條、第二十三條、第二十九條及第三十六條ノ國稅附加稅額、第十五條ノ道府縣配付稅總額、第二十條ノ市町村配付稅總額、第二十三條ノ大都市配付稅總額、第二十九條ノ都市配付稅總額、第三十六條ノ町村配付稅總額、第十五條ノ災害土木費負債額並ニ第十六條、第二十條、第三十條及第三十七條ノ尋常小學校兒童數ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十三條 地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付錯誤アリタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ後年度ニ於テ地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付加算又ハ控除ヲ行ヒ分與額ヲ算定ス

第四十四條 本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應スル爲メ地方分與稅委員會ヲ置ク

地方分與稅委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 本法ニ定ムルモノノ外地方分與稅ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラス還付税中ニハ家屋税ヲ包含セス
第二條乃至第四條ノ地租中ニハ昭和十四年分以前ノ地租ヲ包含セス
第二條第二項及第六條第一項ノ所得税中ニハ改正前ノ所得税法ニ依リ所得税ヲ包含セス

第四十七條 昭和十五年度ニ於ケル配付税ノ額ハ第二條第二項ノ規定ニ拘ラス二億七千七百三十五萬五千六百二十圓トス

第二條第二項中百分ノ十七・三八トアルハ昭和十六年度ニ於テハ百分ノ十四・一七昭和十七年度ニ於テハ百分ノ十七・二五トス

第四十八條 昭和十五年度及昭和十六年度分トシテ分與スヘキ配付税ノ額ハ第六條第一項ノ規定ニ拘ラス夫々二億七千七百三十五萬五千六百二十圓及二億八千四百五十七圓トス

第六條第一項中百分ノ十七・三八トアルハ昭和十七年度分ニ付テハ百分ノ二十二・三五、昭和十八年度分ニ付テハ百分ノ十七・四二トス

第六條第二項及第三項、第七條第一號乃至第三號並ニ第八條第一號乃至第三號ノ規定ハ昭和十五年度乃至昭和十七年度分ニ付テハ之ヲ適用セス

第四十九條 第十條第一號中百分ノ六十二トアルハ昭和十五年度分ニ付テハ百分ノ六十四、昭和十六年度分ニ付テハ百分ノ六十五トス

第十條第二號中百分ノ三十八トアルハ昭和十五年度分ニ付テハ百分ノ三十六、昭和十六年度分ニ付テハ百分ノ三十五トス

第五十條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り道府縣配付税ニハ第一種配付額及第二種配付額ノ外ニ地方稅收入ノ激變ヲ緩和スル爲メ第三種配付額ヲ設ク昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ道府縣配付税總額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額トス

昭和十五年度	第一種配付額	百分ノ三十五	第二種配付額	百分ノ三十五	第三種配付額	百分ノ三十
--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------

昭和十六年度	百分ノ三十七・五	百分ノ三十七・五	百分ノ二十五
--------	----------	----------	--------

昭和十七年度	百分ノ四十	百分ノ四十	百分ノ二十
--------	-------	-------	-------

昭和十八年度	百分ノ四十二・五	百分ノ四十二・五	百分ノ十五
--------	----------	----------	-------

昭和十九年度	百分ノ四十五	百分ノ四十五	百分ノ十
--------	--------	--------	------

第五十一條 道府縣配付税中第三種配付額ハ新稅額カ舊稅額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

道府縣配付税中第三種配付額カ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第五十二條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り第十七條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第三種配付額トシ同條第二項中前二條トアルハ第十五條、第十六條及第五十一條第一項トス

第五十三條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り道府縣配付税額及新稅額ノ合算額カ舊稅額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ道府縣配付税ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス

昭和十五年度	百分ノ百十
昭和十六年度	百分ノ百十五
昭和十七年度	百分ノ百二十
昭和十八年度	百分ノ百二十五
昭和十九年度	百分ノ百三十

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ道府縣配付税額及新稅額ノ合算額カ舊稅額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度	百分ノ百
昭和十六年度	百分ノ九十五
昭和十七年度	百分ノ九十
昭和十八年度	百分ノ八十五
昭和十九年度	百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額カ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第十六條ノ規定ニ準シ全道

府縣ニ對シテ之ヲ再分與ス

第五十五條 第五十一條及前二條ノ舊稅額ハ昭和十三年度ニ於ケル道府縣稅額ニ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額ヲ加ヘ警察費連帶支辨金支出方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス但シ北海道ニ付テハ三十二萬六千圓、沖繩縣ニ付テハ二十萬圓ヲ之ニ加フ

第五十一條及前二條ノ新稅額ハ改正後ノ道府縣稅額及還付稅額ノ合算額トス

第一項ノ道府縣稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額、警察費連帶支辨金ノ支出方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額並ニ前項ノ改正後ノ道府縣稅額及還付稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五十六條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ第二十二條ノ規定ニ依リ算出シタル大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ各總額ト新稅ノ各總額トノ合算額カ舊稅ノ各總額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額ヲ超過スルモノニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ總額ヨリ減額ス

- 昭和十五年度 百分ノ百十
- 昭和十六年度 百分ノ百十五
- 昭和十七年度 百分ノ百二十
- 昭和十八年度 百分ノ百二十五
- 昭和十九年度 百分ノ百三十

第五十七條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ各總額ト新稅ノ各總額トノ合算額カ舊稅ノ各總額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額ニ不足スルモノニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ總額ニ増額ス

- 昭和十五年度 百分ノ百
- 昭和十六年度 百分ノ九十五
- 昭和十七年度 百分ノ九十
- 昭和十八年度 百分ノ八十五
- 昭和十九年度 百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額カ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ大都市、都市及町村ノ各總

人口ニ按分シテ之ヲ大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ各總額ニ増額ス

第五十八條 前二條ノ舊稅ノ總額ハ昭和十三年度ニ於ケル市町村稅額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス

前二條ノ新稅ノ總額、前條第二項ノ總人口並ニ前項ノ市町村稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五十九條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ大都市配付稅ニハ第一種配付額及第二種配付額ノ外ニ地方稅收入ノ激變ヲ緩和スル爲第三種配付額ヲ設ク

昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ大都市配付稅總額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額トス

- | 昭和十五年度 | 第一種配付額 | 第二種配付額 | 第三種配付額 |
|--------|----------|----------|--------|
| 昭和十五年度 | 百分ノ三十五 | 百分ノ三十五 | 百分ノ三十 |
| 昭和十六年度 | 百分ノ三十七・五 | 百分ノ三十七・五 | 百分ノ二十五 |
| 昭和十七年度 | 百分ノ四十 | 百分ノ四十 | 百分ノ二十 |
| 昭和十八年度 | 百分ノ四二・五 | 百分ノ四二・五 | 百分ノ十五 |
| 昭和十九年度 | 百分ノ四十五 | 百分ノ四十五 | 百分ノ十 |

第六十條 大都市配付稅中第三種配付額ハ新稅額カ舊稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

大都市配付稅中第三種配付額カ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第六十一條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ第二十五條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第三種配付額トシ同條第二項中前二條トアルハ第二十三條、第二十四條及第六十條第一項トス

第六十二條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ大都市配付稅額及新稅額ノ合算額カ舊稅額ニ左ニ掲クル率ヲ乘シタル額ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ大都市配付稅ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス

- 昭和十五年度 百分ノ百十
- 昭和十六年度 百分ノ百十五

昭和十七年度 百分ノ百二十
昭和十八年度 百分ノ百二十五
昭和十九年度 百分ノ百三十

第六十三條 前條ノ規定ニ依ル減額シタル額ハ大都市配付税額及新税額ノ合算額カ舊税額ニ左ニ掲クル率ヲ乗シタル額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度 百分ノ百
昭和十六年度 百分ノ九十五
昭和十七年度 百分ノ九十
昭和十八年度 百分ノ八十五
昭和十九年度 百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額カ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第二十四條ノ規定ニ準シ全大都市ニ對シテ之ヲ再分與ス

第六十四條 第六十條及前二條ノ舊税額ハ昭和十三年度ニ於ケル市税額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス

第六十五條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ都市配付税ニハ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ノ外ニ地方

税收入ノ激變ヲ緩和スル爲メ第四種配付額ヲ設ク
昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額、第三種配付額及第四種配付額ハ都市配付税總額ニ左ニ掲クル率ヲ乗シタル額トス

昭和十五年度	百分ノ三十二・五	百分ノ三十二・五	百分ノ五	百分ノ三十
昭和十六年度	百分ノ三十五	百分ノ三十五	百分ノ五	百分ノ二十五
昭和十七年度	百分ノ三十七・五	百分ノ三十七・五	百分ノ五	百分ノ二十

昭和十八年度	百分ノ四十	百分ノ四十	百分ノ五	百分ノ十五
昭和十九年度	百分ノ四十二・五	百分ノ四十二・五	百分ノ五	百分ノ十

第六十六條 都市配付税中第四種配付額ハ新税額カ舊税額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

第六十七條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ第三十二條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第四種配付額トシ同條第二項中第二十九條及第三十條トアルハ第二十九條、第三十條及第六十六條第一項トス

第六十八條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ都市配付税額(第三種配付額ヲ除ク)及新税額ノ合算額カ舊税額ニ左ニ掲クル率ヲ乗シタル額ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ都市配付税(第三種配付額ヲ除ク)ノ額ヨリ減額シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度	百分ノ百十
昭和十六年度	百分ノ百十五
昭和十七年度	百分ノ百二十
昭和十八年度	百分ノ百二十五
昭和十九年度	百分ノ百三十

第六十九條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ都市配付税額(第三種配付額ヲ除ク)及新税額ノ合算額カ舊税額ニ左ニ掲クル率ヲ乗シタル額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度	百分ノ百
昭和十六年度	百分ノ九十五
昭和十七年度	百分ノ九十
昭和十八年度	百分ノ八十五
昭和十九年度	百分ノ八十

第七十條 第六十六條及前二條ノ舊税額ハ昭和十三年度ニ於ケル市税額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介

法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス
 第六十六條及前二條ノ新稅額並ニ前項ノ市稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ
 因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
 第一項ノ市稅額中戸數割及之ニ代ル家屋稅附加稅ノ額ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
 第七十一條 第六十五條乃至前條ノ規定ハ町村配付稅ニ付之ヲ準用ス
 第七十二條 昭和十五年及昭和十六年度ニ限リ第十一條第一項中前年度初日トアルハ當該年度初日トス
 第七十三條 昭和十五年及昭和十六年度ニ於ケル國稅附加稅額ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
 第七十四條 昭和十五年及昭和十六年度ニ限リ配付稅ノ交付ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
 昭和十五年及昭和十六年度ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ配付稅ハ分與額ノ決定前ニ其ノ一部ヲ交付スルコトヲ得
 附 則 (昭和一六、三、 法律第三八號)
 本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方分與稅分與金特別會計法

(昭和十五年三月二十九日法律第六十七號)

第一條 地方分與稅分與金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ
 第二條 本會計ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ノ收入、配付稅分與ノ爲ノ一般會計ヨリノ受入金、積立金ヨリ生スル收入、
 借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ還付稅及配付稅ノ分與金、借入金ノ償還金及利子其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出ト
 ス
 第三條 本會計ノ歲出額ハ其ノ歲入及積立金ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ス
 第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲ニ必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ毎年度ニ於ケル配付稅ノ分與額ヲ地方分與稅法第六條第一項ニ規定スル額
 (前年度ニ於ケル配付稅ノ分與額ノ百分ノ九十カ之ヨリ大ナルトキハ其ノ額)ニ達セシムルニ付一般會計ヨリノ受入金及積
 立金ノ合計額ヨリ借入金ノ償還金ヲ控除シタル殘額ヲ以テシテハ之ニ不足スル金額ヲ限度トス
 第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ
 第六條 本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ積立ツヘシ
 本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ
 第七條 本會計ノ積立金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スヘシ
 第八條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調整シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
 第九條 本會計ノ毎年歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得
 第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十五年ヨリ之ヲ施行ス
 昭和十五年、同十六年度及同十七年度ニ於テ還付稅分與金ノ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ
 爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

地方分與稅分與金特別會計規則

(昭和十五年五月二十日
勅令第三百三十七號)

- 第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日現在ノ積立金明細目録ヲ添付スヘシ
- 第二條 本會計ニ於テハ當該年度ノ收入済歳入額ヲ以テ支拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ支拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ積立金ニ屬スル現金ヲ前條ノ支拂元受高ニ繰替使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ
- 第四條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ毎年度出納ノ完結迄ニ支出済ト爲ラサル歳出ニシテ時効完成ニ至ラサルモノハ支出未済トシテ遞次翌年度ニ繰越スヘシ但シ支出済額ト合シテ豫算額ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第五條 毎年度ノ歳入ノ收入済額ヨリ歳出ノ支出済額、翌年度繰越額及還付税ノ收入済額中翌年度ニ於テ分與スヘキ額ニ相當スル金額ヲ控除シ殘餘アルトキハ之ヲ積立金ニ組入レ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ
- 第六條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第七條 大藏省ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ
- 第八條 支出官ハ支出簿ノ外支拂元受高差引簿ヲ備ヘ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スヘシ
- 第九條 内務省ハ歳出簿及支拂元受高差引簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記シ支拂元受高差引簿ニハ支拂元受高、支出済額及殘額ヲ登記スヘシ
- 第十條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年度、同十六年度及同十七年度ニ於テハ第二條前段ノ規定ニ拘ラス當該年度ノ收入済歳入額及地方分與金特別會計法附則第二項ニ規定スル一時借入金ヲ以テ支拂元受高トス

地方分與稅法施行規則

(昭和十五年八月三日內務省令第三號)

第一章 還付稅

第一條 地方分與稅法(以下法ト稱ス)第四條第一項ノ各道府縣ノ區域内ニ於テ徵收スヘキ地租、家屋稅及營業稅ハ當該道府縣ノ區域内ニ存シ又ハ存シタル土地、家屋又ハ營業所ニ付徵收スヘキ地租、家屋稅又ハ營業稅トス

第二條 稅務官署法第四條第三項ノ規定ニ依リ營業稅ノ額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲クル事項ヲ通知スヘシ
一 營業ノ種類

二 當該道府縣内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地

三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノ)ニ在リテハ合併又ハ解散ノ日、個人ニ在リテハ年別區分

四 純益金額ノ決定年月日

五 營業稅額

第三條 還付稅ハ豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス

交付時期	交付金額
八月	四月乃至六月ニ收納シタル額
十一月	七月乃至九月ニ收納シタル額
二月	十月乃至十二月ニ收納シタル額
五月	一月乃至三月ニ收納シタル額

當該交付時期ニ於テ交付シ得サリシ金額ハ後ノ交付時期ニ於テ之ヲ加算シ其ノ交付金額ヲ定ム

第四條 前條ニ規定スル交付金額ノ算定ニ關シテハ地租、家屋稅及營業稅ニ付或ル月ニ於テ支出シタル拂戻金ハ當該月ノ收

納税額ヨリ之ヲ控除ス

第二章 配付税

第五條 配付税ノ分與額ノ算定期日後ニ於テ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テハ關係市町村ニ對スル配付税ノ分與額ハ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ變更ス

一 廢置分合ニ因リ一市町村ノ區域カ分割セラレザリシ場合ニ於テハ廢置分合ノ期日後當該市町村ニ對シテ交付スヘキ額ハ當該區域ノ新ニ屬シタル市町村ニ對シテ之ヲ分與ス

二 廢置分合ニ因リ一市町村ノ區域カ分割セラレタル場合ニ於テハ廢置分合ノ期日後當該市町村ニ對シテ交付スヘキ額ハ分割ニ係ル區域ヲ基礎トシテ之ヲ分別シ其ノ分別シタルモノヲ當該區域ノ屬スル市町村ニ對シテ分與ス

三 境界變更ニ因リ市町村ノ人口ノ二分ノ一以上ヲ減シタル場合ニ於テハ境界變更ノ期日後當該市町村ニ對シテ交付スヘキ額ハ變更ニ係ル區域ヲ基礎トシテ之ヲ分別シ其ノ分別シタルモノヲ當該區域ノ屬スル市町村ニ對シテ分與ス

前項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ル分別ハ當該區域ヲ區域トスル獨立ノ市町村カ當該年度ノ配付税ノ分與額ノ算定期日ニ存シタルモノト假定シタル場合ニ於テ各市町村ニ對シテ分與スヘキ配付税ノ額(都市配付税及町村配付税ノ三種配付額ヲ除ク)ニ按分ズルノ方法ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ配付税ノ額ヲ算定スルニ必要ナル乘率ハ當該年度ノ配付税ノ分與額ノ算定ニ用ヒタルモノトシ人口、國稅附加税額及尋常小學校兒童數ハ第十七條各號ニ掲クルモノニ依ル

第六條 配付税ハ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス
道府縣配付税 六月、九月、十二月及二月 分與額ノ四分ノ一宛
市町村配付税 四月、七月、十月及一月 分與額ノ四分ノ一宛

第七條 法第十五條第五項ノ北海道拓殖費ノ毎年度支出額中ノ一定部分又ハ沖繩縣振興事業費ノ毎年度支出額中ノ一定部分ハ夫々前年度ニ於ケル北海道拓殖費又ハ沖繩縣振興事業費ノ支出決算見込額(地元負擔金ノ額ヲ控除ス)ノ五分ノ一トス

第八條 都市配付税及町村配付税中三種配付額ハ第一種配付額及第二種配付額ノ分與額過少ト認めラルル市町村ニシテ左ノ事由アルモノニ對シ當該事由ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

一 災害應急又ハ復舊費ニ充ツル爲メ借入タル負債額ノ多額ナルコト
二 公用地等ノ面積大ナルコト
三 官業ノ規模大ナルモノアルコト
四 人口ノ増加著シキコト
五 人口ノ密度稀薄ナルコト
六 尋常小學校兒童數ノ増加著シキコト
七 道府縣稅附加税額又ハ獨立稅額少額ナルコト
八 其ノ他特別ノ事情アルコト

第九條 法第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條乃至第二十五條、第二十九條、第三十條、第三十二條第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ人口ハ最近ノ國勢調査ニ依ル人口トス

第十條 法第十五條ノ還付稅額ハ前々年度ニ於ケル還付稅ノ交付額トス

第十一條 法第十五條、第二十條、第二十三條、第二十九條及第三十六條ノ國稅附加税額ハ前前年度ニ於ケル附加税ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ基キ之ヲ算定ス此ノ場合ニ於テ段別稅又ハ段別稅附加税ハ之ヲ地租附加税ニ加算ス

前項ノ附加税ノ調定額ノ算定ニ付テハ附加税ノ賦課ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ賦課ヲ爲ササルモノハ之ヲ賦課シタルモノト看做ス

地租附加税、家屋稅附加税、營業稅附加税、段別稅又ハ段別稅附加税ニ付其ノ調定ノ年度後ニ於テ還付シタル額ハ還付シタル年度ニ於ケル地租附加税、家屋稅附加税、營業稅附加税、段別稅又ハ段別稅附加税ノ調定額ヨリ之ヲ控除ス

第十二條 法第十五條ノ道府縣配付稅總額、法第二十條ノ市町村配付稅總額、法第二十三條ノ大都市配付稅總額、法第二十九條ノ都市配付稅總額及法第三十六條ノ町村配付稅總額ハ夫々當該年度分トシテ分與スヘキ道府縣配付稅總額、市町村配付稅總額、大都市配付稅總額、都市配付稅總額及町村配付稅總額トス

第十三條 法第十五條ノ災害土木費負債額ハ配付税ノ分與額ノ算定期日ノ現在ニ於ケル災害土木費負債額中明治四十四年法律第十五號ニ基ク勅令ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害土木事業費(北海道ニ付テハ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害土木事業費)ニ充當シタルモノトス

八二九ノ二

國庫ヨリ元利ノ補給ヲ受クル負債額又ハ元金ノ償還延滞額ハ前項ノ負債額ヨリ之ヲ控除ス

第十四條 法第十六條、第二十四條、第三十條及第三十七條ノ尋常小學校兒童數ハ最近ノ國勢調査期日ノ現在ニ於ケル市町村立小學校ノ在籍兒童數トス

前項ノ兒童數ノ算定ニ付テハ市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ設置スル小學校ノ兒童ハ之ヲ兒童ノ住所地市町村ノ兒童ト看做シ小學校令第八條又ハ第八條ノ二ノ規定ニ依リ委託ヲ爲シタル兒童ハ之ヲ委託シタル市町村又ハ町村學校組合ノ兒童ト看做ス

第十五條 配付税ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、税額等ニ付錯誤アリタル場合ニ於テハ之ヲ知リタル年度ノ翌年度又ハ翌翌年度ニ於ケル配付税ノ分與ノ基礎ニ用フル全國ノ人口、税額等並ニ當該道府縣又ハ市町村ノ人口、税額等ニ付加算又ハ控除ヲ行ヒ分與額ヲ算定ス

第十六條 本令ノ適用ニ付テハ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル町村ニ準スヘキモノハ之ヲ町村ト看做ス

第十七條 配付税ノ分與額ノ算定期日迄ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於ケル關係市町村ノ配付税ノ額ヲ算定スルニ必要ナル人口、國稅附加税額及尋常小學校兒童數ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 人口
市制町村制施行規則第一條第二項ノ規定又ハ其ノ準用ニ依リ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ告示シタル人口

二 國稅附加税額
廢置分合又ハ境界變更ニ係ル區域ヲ基礎トシテ算定シタル額

三 尋常小學校兒童數
市制町村制施行規則第一條第二項ノ規定ニ準シ算定シタル兒童數

附 則

第十八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ限り還付税ハ第三條ノ規定ニ拘ラス豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ公布ス

昭和十五年度乃至昭和十七年度

交付時期 交付金額
八月 前年度三月ニ收納シタル額及當該年度四月及五月ニ收納シタルモノニシテ前年度ノ收入ニ歸屬スヘキ額ノ合算額ヨリ前年度三月ニ交付シタル金額(前年度一月及二月ニ收納シタル額ヲ除ク)ヲ控除シタル額並ニ當該年度四月乃至六月ニ收納シタルモノニシテ當該年度ノ收入ニ歸屬スヘキ額

十一月 七月乃至九月ニ收納シタル額
十月乃至十二月ニ收納シタル額

十二月 當該年度一月及二月ニ收納シタル額並ニ當該年度三月ニ收納スヘキ額及翌年度四月及五月ニ收納スヘキモノニシテ當該年度ノ收入ニ歸屬スヘキ額ノ全部又ハ一部

昭和十八年度 交付時期 交付金額
七月 前年度三月ニ收納シタル額及當該年度四月及五月ニ收納シタルモノニシテ前年度ノ收入ニ歸屬スヘキ額ノ合算額ヨリ前年度三月ニ交付シタル金額(前年度一月及二月ニ收納シタル額ヲ除ク)ヲ控除シタル額

八月 四月乃至六月ニ收納シタルモノニシテ當該年度ノ收入ニ歸屬スヘキ額

十一月 七月乃至九月ニ收納シタル額

十二月 十月乃至十二月ニ收納シタル額

前年度三月ニ於テ交付シタル金額(一月及二月ニ收納シタル額ヲ除ク)前年度三月ニ收納シタル額及當該年度四月及五月ニ收納シタルモノニシテ前年度ノ收入ニ歸屬スヘキ額ノ合算額ヲ超ユルトキハ後ノ交付時期ニ於テ其ノ超過額ヲ控除シ其ノ交付金額ヲ定ム

當該交付時期ニ於テ交付シ得サリシ金額ハ後ノ交付時期ニ於テ之ヲ加算シ其ノ交付金額ヲ定ム

第二十條 昭和十五年及昭和十六年度ニ限り配付税ハ第六條ノ規定ニ拘ラス左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ規定ニ拘ラス町村配付税中伊豆七島及小笠原島ノ町村ニ對スル三種配付額ノ分與額ハ十二月ニ其ノ全額ヲ交付ス

(昭和十五年十二月内務、大藏省令第四號)

道府縣配付税 交付金額
交付時期 八月及十一月 分與額ヨリ法第七十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ配付税ノ分與額ノ決定前ニ交付シタル金額ヲ

控除シタル額ノ二分ノ一宛

大都市配付税 交付金額
交付時期 分與額ヨリ法第七十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ配付税ノ分與額ノ決定前ニ交付シタル金額ヲ
九月及 控除シタル額ノ二分ノ一宛
十一月

都市配付税及町村配付税

交付時期 交付金額
九月及 第一種配付額、第二種配付額及第四種配付額ノ合計額ヨリ法第七十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基
十一月 キ配付税ノ分與額ノ決定前ニ交付シタル金額ヲ控除シタル額ノ二分ノ一宛
二月 第三種配付額ノ分與額ノ全額

第二十一條 昭和十五年及昭和十六年度ニ限り第七條中前年度トアルハ前年度トス

第二十二條 昭和十五年及昭和十九年度ニ限り都市配付税及町村配付税中第三種配付額ハ第八條ノ規定ニ拘ラス第一種
配付額、第二種配付額及第四種配付額ノ分與額過少ト認メラルル市町村ニシテ左ノ事由アルモノニ對シ當該事由ヲ斟酌シ
テ之ヲ分與ス

一 第八條第一號乃至第七號ニ掲ケル事由

二 昭和十三年度ニ於ケル市町村税額カ常態ニ比シテ少額ナリシコト

三 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル戸數割又ハ戸數割ニ代ル家屋税附加税ノ額カ常態ニ比シテ少額ナリシコト

四 税制改正ニ因ル市町村税ノ減收特ニ多額ナルコト

五 税制改正ニ因リ家屋税及家屋税附加税ノ負擔過重トナルコト

六 其ノ他特別ノ事情アルコト

第二十三條 當分ノ内伊豆七島及小笠原島ノ町村ニ對シテハ第一種配付額、第二種配付額及第四種配付額ハ之ヲ分與セス
前項ノ町村ニ對シテハ町村配付税中第三種配付額ハ町村ノ課税力及財政需要ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

第二十四條 昭和十五年及昭和十六年度ニ限り第九條第一項ノ人口ニハ同條第二項ノ規定ニ拘ラス部隊艦船及刑務所内ニ在リタル人員ハ
之ヲ含マス

第二十五條 昭和十五年及昭和十八年度ニ限り還付税額ハ第十條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度

(一) 地租

昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加税ヲ賦課シ得ヘキ土地ノ賃貸價格(昭和十四年度ニ於テ法令ニ依
リ地租ヲ減免スヘキ土地ノ賃貸價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應ジテ減シタル賃貸價格)ニ百分ノ二ヲ乘シタル額

(二) 營業税

(イ) 昭和十二年及昭和十四年度ニ於ケル營業收益税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額中法人分ノ額ニ百分ノ十
ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル額ノ合算額

(ロ) 昭和十二年及昭和十四年度ニ於ケル釧路税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ五ヲ乘シタル額

二 昭和十六年度

(一) 地租

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額

(二) 營業税

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額

三 昭和十七年度

(一) 地租

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額

(二) 家屋税

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘シタル額

(三) 營業税

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額

四 昭和十八年度

(一) 地租

昭和十六年度ニ於ケル還付税ノ交付額

(二) 家屋税

昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋税ヲ賦課スヘキ家屋ノ賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乗シタル額

(三) 營業稅

昭和十六年度ニ於ケル還付税ノ交付額
第二十六條 昭和十五年度ニ限リ第十四條第一項中最近ノ國勢調査期日トアルハ昭和十年六月一日トス
第二十七條 法第五十五條第一項ノ道府縣稅額、小學校教員俸給費ノ負擔法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額、警察費連帶支辨金ノ支出方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ夫々左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 道府縣稅額

昭和十三年度ニ於ケル道府縣稅及貸座敷引手茶屋娼妓賦金ノ調定額並ニ臨時地方財政補給金交付額
二 小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額

當該道府縣内ノ市町村ニ於ケル昭和十四年度分ノ市町村立小學校教員(代用教員ヲ含ム)俸給費及恩給納金(市町村立小學校正教員俸給費ノ百分ノ一)ノ合算額ヨリ義務教育費國庫下渡金(尋常小學校教員分ノ二分ノ一)ノ額ヲ控除シタル額
三 警察費連帶支辨金ノ支出方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額

昭和十三年度ニ於ケル警察費ノ支出額ニ付改正規定ニ依リ計算シタル國庫下渡金ヨリ従前ノ規定ニ依リ計算シタル國庫下渡金ヲ控除シタル額

四 職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額

昭和十三年度分トシテ道府縣ニ負擔ヲ命セラレタル額ヨリ市町村ニ負擔ヲ命シタル額ヲ控除シタル額
尋常高等小學校ニ於ケル前項第二號ノ尋常小學校教員分ノ俸給費ハ當該小學校教員俸給費ノ總額ヲ昭和十四年六月一日現在ニ於ケル尋常小學校分教員(代用教員ヲ含ム)數及高等小學校分教員(代用教員ヲ含ム)數ニ按分シテ之ヲ算定ス
第一項第二號及前項ノ代用教員ノ範圍並ニ前項ノ教員數ノ算定ニ付テハ義務教育費國庫負擔法第三條ノ規定、義務教育費國庫負擔法施行令第二條ノ規定及義務教育費國庫負擔法施行規程ヲ準用ス
第一項第二號及第二項ノ俸給費及教員數ニハ現役小學校教員俸給費國庫負擔法ニ依リ國庫ノ負擔スル俸給費及其ノ俸給ヲ受タル教員數ヲ含マサルモノトス

第二十八條 法第五十五條第二項ノ改正後ノ道府縣稅額ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度

(一) 地租附加稅

昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加稅又ハ特別地稅ヲ賦課シ得ヘキ土地ノ賃貸價格(地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ヲ除ク)ノ外昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租又ハ特別地稅ヲ減免スヘキ土地ノ賃貸價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應シテ減シタル賃貸價格)ニ百分ノ二ヲ乗シタル額及同年度ニ於ケル免租年期地稅別割ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル宅地以外ノ土地ニ對スル地租附加稅賦課率ト一・九トノ積ヲ以テ除シタル額ノ合算額

(二) 家屋稅

昭和十五年四月一日現在ノ家屋賃貸價格(昭和十五年內務省令第二十五號ニ依リ補整セラレタルモノ)ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

(イ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業收益稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル額ノ合算額

(ロ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル鑛產稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ五ヲ乘シタル額

(四) 鑛區稅附加稅

昭和十四年度ニ於ケル鑛區稅附加稅及砂鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ノ合計額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 獨立稅

昭和十四年度ニ於ケル雜種稅ノ調定額ニ依リ算稅シタル昭和十五年度獨立稅(段別稅ヲ除ク)收入見込額(藝妓稅ヲ營業稅藝妓置屋業稅中ニ含メ賦課スル道府縣ニ在リテハ昭和十四年度ニ於ケル藝妓置屋業稅ノ調定額ノ百分ノ七十四ノ額ヲ藝妓稅トス)

(六) 舊法ニ依ル國稅附加稅

(イ) 營業收益稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算(同時議決ノ追加更正豫算ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 鑛產稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ鑛產稅附加稅ノ本稅見込額ニ千分ノ二百ヲ乘シタル額

(一) 取引所營業稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ取引所營業稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(二) 所得稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

昭和十六年度

二 地租附加稅

(一) 地租附加稅

昭和十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乘シタル額(評定賃貸價格ヲ設定セサル道府縣ニ在リテハ段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ヲ以テ除シタル額)ノ合算額

(二) 家屋稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(四) 鑛區稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 獨立稅

昭和十五年度ニ於ケル獨立稅(段別稅ヲ除ク)調定額

(六) 舊法ニ依ル國稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(七) 所得稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

三 昭和十七年度

(一) 地租附加稅

昭和十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乘シタル額(評定賃貸價格ヲ設定セサル道府縣ニ在リテハ段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ヲ以テ除シタル額)ノ合算額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(四) 鑛區稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 獨立稅

昭和十五年度ニ於ケル獨立稅(段別稅ヲ除ク)調定額

四 昭和十八年度

(一) 地租附加稅

昭和十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乘シタル額(評定賃貸價格ヲ設定セサル道府縣ニ在リテハ同年度ニ於ケル段別稅ノ調定額ヲ地租附加稅賦課率ヲ以テ除シタル額)ノ合算額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋稅ヲ賦課スヘキ家屋ノ賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十六年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(四) 鑛區稅附加稅 昭和十六年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 獨立稅 昭和十六年度ニ於ケル獨立稅(段別稅ヲ除ク)調定額 昭和十九年度

五 地租附加稅、定屋稅附加稅及營業稅附加稅 第十一條ノ規定ニ依リ算定シタル額

(一) 鑛區稅附加稅 昭和十七年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(二) 獨立稅 昭和十七年度ニ於ケル獨立稅(段別稅ヲ除ク)調定額

第二十九條 法第五十五條第二項ノ還付稅額ハ第二十五條(昭和十九年度ニ在リテハ第十條)ニ定ムル還付稅額トス

第三十條 法第五十六條及第五十七條第一項ノ新稅ノ總額、法第五十七條第二項ノ總人口並ニ法第五十八條第一項ノ市町村稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ夫々大都市分、都市分又ハ町村分ノ合計トス

第三十一條 法第六十條、第六十二條及第六十三條並ニ第六十六條、第六十八條及第六十九條ノ新稅額ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度 (一) 地租附加稅

(イ) 昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加稅又ハ特別地稅附加稅ヲ賦課シ得ヘキ土地ノ賃貸價格(地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ヲ除ク)ノ外昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租又ハ特別地稅ヲ減免スヘキ土地ノ賃貸價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應シテ減シタル賃貸價格)ニ百分ノ四ヲ乘シタル額

(ロ) 昭和十四年度ニ於ケル免租年期地稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ宅地以外

ノ土地ニ對スル地租附加稅賦課率ト〇・九五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十四年度ニ於ケル免租年期地稅附加稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率(地租附加稅ヲ賦課セサル市ニ在リテハ當該道府縣内ノ市町村ノ地租附加稅賦課率ノ平均)ト〇・九五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ニ) 家屋稅附加稅 昭和十五年四月一日現在ノ家屋賃貸價格(昭和十五年內務省令第二十五號ニ依リ補整セシメタルモノ)ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業收益稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ額ニ百分ノ二十ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ六十ヲ乘シタル額ノ合算額

(ロ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル鑛產稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(四) 鑛區稅附加稅 昭和十四年度ニ於ケル鑛區稅附加稅及砂鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ノ合計額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 道府縣稅附加稅 昭和十四年度ニ於ケル雜種稅附加稅ノ調定額ニ依リ算定シタル昭和十五年道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)收入見込額(藝妓稅ヲ營業稅藝妓置屋稅中ニ含メ賦課スル道府縣内ノ市町村ニ在リテハ昭和十四年度ニ於ケル藝妓置屋稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ノ百分ノ七十四ヲ藝妓稅附加稅トス)

(六) 獨立稅 (イ) 市民稅 大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帶數(最近ノ國勢調査ニ依ル世帶數以下之ニ同シ)ヲ乘シタル額

(ロ) 市民稅及段別稅以外ノ獨立稅 昭和十四年度ニ於ケル雜種稅及雜種稅附加稅又ハ特別稅ノ調定額ニ依リ地方稅法第六十三條第一項及昭和十五年

內務省告示第四號ニ定ムル稅目ニ付算定シタル昭和十五年獨立稅收入見込額(自轉車稅ニ付テハ二圓ニ昭和十四年

度ニ於ケル自轉車稅附加稅ノ課稅員數ヲ乘シタル額)

(七) 舊法ニ依ル國稅附加稅

(イ) 營業收益稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 鑛產稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ鑛產稅附加稅ノ本稅見込額ニ千分ノ千二百ヲ乘シタル額

(ハ) 取引所營業稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ取引所營業稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(ニ) 所得稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ最近年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

二 昭和十六年度

(一) 地租附加稅

(イ) 昭和十五年以後ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

(ロ) 昭和十五年以後ニ於ケル段別稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十五年以後ニ於ケル段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃賃價格ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年以後ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

(四) 鑛區稅附加稅

昭和十五年以後ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 道府縣稅附加稅

道府縣稅附加稅

(六) 獨立稅

昭和十五年以後ニ於ケル道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(イ) 市民稅

大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帯數ヲ乘シタル額

(ロ) 市民稅及段別稅以外ノ獨立稅

昭和十五年以後ニ於ケル調定額

(七) 舊法ニ依ル國稅附加稅

營業收益稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 所得稅附加稅

昭和十五年以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ最近年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

三 昭和十七年度

(一) 地租附加稅

(イ) 昭和十五年以後ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

(ロ) 昭和十五年以後ニ於ケル段別稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十五年以後ニ於ケル段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃賃價格ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年以後ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

- (四) 鑛區稅附加稅
昭和十五年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額
- (五) 道府縣稅附加稅
昭和十五年度ニ於ケル道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額
- (六) 獨立稅
(イ) 市民稅
大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帶數ヲ乘シタル額
(ロ) 市民稅及段別稅以外ノ獨立稅
昭和十五年度ニ於ケル調定額
- 四 昭和十八年度
地租附加稅
(一) 地租附加稅
(イ) 昭和十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額
(ロ) 昭和十六年度ニ於ケル段別稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加稅賦課率ト
〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額
(ハ) 昭和十六年度ニ於ケル段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額
(ニ) 家屋稅附加稅
昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋稅ヲ賦課スヘキ家屋ノ賃貸價格ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額
(三) 營業稅附加稅
昭和十六年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額
(四) 鑛區稅附加稅
昭和十六年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額
(五) 道府縣稅附加稅
昭和十六年度ニ於ケル道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額
(六) 獨立稅

(イ) 市民稅

大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帶數ヲ乘シタル額

(ロ) 市民稅及段別稅以外ノ獨立稅

昭和十六年度ニ於ケル調定額

五

昭和十九年度

(一) 地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅
第十一條ノ規定ニ依リ算定シタル額

(二) 鑛區稅附加稅

昭和十七年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(三) 道府縣稅附加稅

昭和十七年度ニ於ケル道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(四) 獨立稅

(イ) 市民稅

大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帶數ヲ乘シタル額

(ロ) 市民稅及段別稅以外ノ獨立稅

昭和十七年度ニ於ケル調定額

第三十二條 法第六十四條第一項ノ市稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額及職業紹介法ニ依ル負擔ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ夫々左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 市稅額

昭和十三年度ニ於ケル市稅調定額及臨時地方財政補給金交付額

二 小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額

昭和十三年度分ノ市町村立小學校教員(代用教員ヲ含ム)俸給費及恩給納金(同俸給費中正教員分ノ百分ノ一)ノ合算額ヨリ義務教育費國庫下渡金ノ額ヲ控除シタル額

三 職業紹介法ニ依ル負擔ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額

昭和十三年度分トシテ負擔ヲ命セラレタル額
前項第二號ノ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額ノ算定ニ付テハ市町村學校組合ノ小學校教員俸給費
恩給納金及義務教育費國庫下渡金ハ組合各市町村ノ兒童數ニ按分シ之ヲ夫々當該市町村ノ小學校教員俸給費、恩給納金又
ハ義務教育費國庫費下渡金ト看做ス

前記ノ兒童數ハ昭和十三年六月一日現在ニ於ケル在籍兒童數トス

第一項第二號及第二項ノ俸給費ニハ現役小學校教員俸給費國庫負擔法ニ依リ國庫ノ負擔スル俸給費ヲ含マサルモノトス
第三十三條 法第七十條第一項ノ市稅額ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十三年度ニ於テ戶數割ヲ賦課シタル市ニシテ昭和十一年度當初豫算ニ戶數割ヲ計上シタル市

(一) 昭和十三年度ニ於ケル市稅(戶數割ヲ除ク)調定額

(二) 左ノ額ニ百分ノ百三十三ヲ乘シタル額

(イ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル戶數割額ヨリ納稅獎勵交付金及之ニ類スル歩辰金ノ額(道府縣ヨリ受クル補助

金又ハ獎勵金ヲ財源トスルモノニ付テハ其ノ額ヲ除ク以下之ニ同シ)ヲ控除シタル額

(ロ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル臨時町村財政補助給金額及尋常小學校費臨時國庫補助金額

(三) 昭和十三年度ニ於ケル臨時地方財政補助給金額(戶數割ノ減稅ニ充テタル額ヲ除ク)

二 昭和十三年度ニ於テ戶數割ヲ賦課セザリシ市ニシテ昭和十一年度當初豫算ニ戶數割ヲ計上セザリシ市

(一) 昭和十三年度ニ於ケル市稅(家屋稅附加稅ヲ除ク)調定額

(二) 左ノ額ニ百分ノ百三十三ヲ乘シタル額

(イ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル家屋稅附加稅額ヨリ左ノ額ヲ控除シタル額

(1) 昭和十一年度ニ於ケル法人ノ所有シ且使用スル家屋(以下法人家屋ト稱ス)ニ對スル家屋稅ノ調定額(昭和十

一年度當初豫算ニ定ムル賦課率ニ依ル稅額トシ過年度分ヲ含マス)ニ當初豫算ニ定ムル法人家屋ニ對スル家屋稅

附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(2) 當初豫算ニ於ケル家屋稅附加稅ノ基本ト爲リタル家屋稅額ヨリ法人家屋ニ對スル家屋稅ノ調定額ヲ控除シタル

額ニ百分ノ五十二・三ヲ乘シタル額

(3) 當初豫算ニ於ケル納稅獎勵交付金及之ニ類スル歩辰金ノ額

(三) 昭和十三年度ニ於ケル法人家屋ニ對スル家屋稅附加稅調定額

(四) 昭和十三年度ニ於ケル法人家屋以外ノ家屋ニ對スル家屋稅調定額ニ百分ノ五十二・三ヲ乘シタル額

(五) 昭和十三年度ニ於ケル臨時地方財政補助給金額(家屋稅附加稅ノ減稅ニ充テタル額ヲ除ク)

三 昭和十三年度ニ於テ戶數割ヲ賦課シタル市ニシテ昭和十一年度當初豫算ニ戶數割ヲ計上セザリシ市

(一) 昭和十三年度ニ於ケル市稅(戶數割ヲ除ク)調定額

(二) 左ノ額ニ百分ノ百三十三ヲ乘シタル額

(イ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル家屋稅附加稅額ヨリ左ノ額ヲ控除シタル額

(1) 昭和十一年度ニ於ケル法人家屋ニ對スル家屋稅ノ調定額(昭和十一年當初豫算ニ定ムル賦課率ニ依ル稅額トシ

過年度分ヲ含マス)ニ當初豫算ニ定ムル法人家屋ニ對スル家屋稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(2) 當初豫算ニ於ケル家屋稅附加稅ノ基本ト爲リタル家屋稅額ヨリ法人家屋ニ對スル家屋稅ノ調定額ヲ控除シタル

額ニ百分ノ五十二・三ヲ乘シタル額

(3) 當初豫算ニ於ケル納稅獎勵交付金及之ニ類スル歩辰金ノ額

(ロ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル臨時町村財政補助給金額及尋常小學校費臨時國庫補助金額

(ハ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル第三種所得稅附加稅額、特別所得稅額及戶別割額

(三) 昭和十三年度ニ於ケル臨時地方財政補助給金額(戶數割ノ減稅ニ充テタル額ヲ除ク)

四 昭和十三年度ニ於テ戶數割ヲ賦課セザリシ市ニシテ昭和十一年度當初豫算ニ戶數割ヲ計上シタル市

(一) 昭和十三年度ニ於ケル市稅(家屋稅附加稅、第三種所得稅附加稅、特別所得稅及戶別割ヲ除ク)調定額

(二) 左ノ額ニ百分ノ百三十三ヲ乘シタル額

(イ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル戶數割額ヨリ納稅獎勵交付金及之ニ類スル歩辰金ノ額ヲ控除シタル額

(ロ) 昭和十一年度當初豫算ニ於ケル臨時町村財政補助給金額及尋常小學校費臨時國庫補助金額

(三) 昭和十三年度ニ於ケル法人家屋以外ノ家屋ニ對スル家屋稅調定額ニ百分ノ五十二・三ヲ乘シタル額

(四) 昭和十三年度ニ於ケル法人家屋ニ對スル家屋稅附加稅調定額

(五) 昭和十三年度ニ於ケル臨時地方財政補助給金額(家屋稅附加稅、第三種所得稅附加稅、特別所得稅及戶別割ノ

減税ニ充テタル額ヲ除ク)

第三十四條 法第七十條第一項ノ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ第三十二條ノ例ニ依リ之ヲ算定ス

第三十五條 町村配付税ノ分與ニ用フル新税額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額又ハ町村税額ノ算定ニ付テハ第三十一條及第三十二條又ハ第三十三條ノ例ニ依リ之ヲ算定ス此ノ場合ニ於テ第三十一條中七圓又ハ五圓トアルハ三圓(單位税額カ一圓五十錢未滿ノ町村ニ付テハ二圓)トシ特別税口銀税(之ニ代ル寄附金ヲ含ム)ハ之ヲ戸數割ト看做ス

第三十六條 昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ於ケル法第十五條ノ國稅附加税額ハ第十一條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度

(一) 地租附加税

昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加税又ハ特別地租ヲ賦課シ得ヘキ土地ノ賃貸價格(地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ヲ除ク)ノ外昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租又ハ特別地租ヲ減免スヘキ土地ノ賃貸價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應シテ減シタル賃貸價格)ニ百分ノ二ヲ乘シタル額及同年度ニ於ケル免租年期地租別割ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル宅地以外ノ土地ニ對スル地租附加税賦課率ト一・九トノ積ヲ以テ除シタル額ノ合算額

(二) 家屋税

昭和十五年四月一日現在ノ家屋賃貸價格(昭和十五年內務省令第二十五號ニ依リ補整セラレタルモノ)ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加税

(イ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業收益稅附加税ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル額ノ合算額

(ロ) 昭和十二年乃至昭和十四年度ニ於ケル鑛產稅附加税ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ五ヲ乘シタル額

(四) 舊法ニ依ル國稅附加税

(イ) 營業收益稅附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加税ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加税賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 鑛產稅附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ鑛產稅附加税ノ本稅見込額ニ十分ノ二百ヲ乘シタル額

(ハ) 取引所營業稅附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ取引所營業稅附加税ノ本稅見込額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(ニ) 所得稅附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加税ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加税賦課率ヲ乘シタル額

二 昭和十六年度

(一) 地租附加税

昭和十五年度ニ於ケル地租附加税ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乘シタル額(評定賃貸價格ヲ設定セサル道府縣ニ在リテハ段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加税賦課率ヲ以テ除シタル額)ノ合算額

(二) 家屋税

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加税

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加税ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(四) 舊法ニ依ル國稅附加税

(イ) 營業收益稅附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加税ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加税賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 所得稅附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額
昭和十七年度

三 地租附加稅

(一) 昭和十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃賃價格ニ百分ノ二ヲ乘シタル額(評定賃賃價格ヲ設定セサル道府縣ニ在リテハ段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ヲ以テ除シタル額)ノ合算額

(二) 家屋稅附加稅
昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃賃價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

四 昭和十八年度

(一) 地租附加稅

昭和十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃賃價格ニ百分ノ二ヲ乘シタル額(評定賃賃價格ヲ設定セサル道府縣ニ在リテハ同年度ニ於ケル段別稅ノ調定額ヲ地租附加稅賦課率ヲ以テ除シタル額)ノ合算額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋稅ヲ賦課スヘキ家屋ノ賃賃價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十六年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

第三十七條 昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ於ケル法第二十條、第二十三條、第二十九條及第三十六條ノ國稅附加稅額ハ

第十一條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度

(一) 地租附加稅

(イ) 昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加稅又ハ特別地稅附別稅ヲ賦課シ得ヘキ土地ノ賃賃價格(地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ヲ除ク)外昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租又ハ特別地稅ヲ減免スヘキ土地ノ賃賃價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應ジテ減シタル賃賃價格)ニ百分ノ四ヲ乘シタル額

(ロ) 昭和十四年度ニ於ケル免租年期地稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ宅地以外ノ土地ニ對スル地租附加稅賦課率ト〇・九五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十四年度ニ於ケル免租年期地稅附加稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率(地租附加稅ヲ賦課セサル市ニ在リテハ當該道府縣内ノ市町村ノ地租附加稅賦課率ノ平均)ト〇・九五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十五年四月一日現在ノ家屋賃賃價格(昭和十五年內務省令第二十五號ニ依リ補整セラレタルモノ)ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

(イ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ額ニ百分ノ二ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ六十ヲ乘シタル額ノ合算額

(ロ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル礦產稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(四) 舊法ニ依ル國稅附加稅

(イ) 營業收益稅附加稅
昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 礦產稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ礦產稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ千二百ヲ乘シタル額

(ハ) 取引所營業稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ取引所營業稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(ニ) 所得稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ最近年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

二 昭和十六年度

(一) 地租附加税

(イ) 昭和十五年度ニ於ケル地租附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

(ロ) 昭和十五年度ニ於ケル段別税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加税賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十五年度ニ於ケル段別税ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加税賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ニ) 定屋税附加税
昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃賃價格ニ百分ノ三・五ヲ乗シタル額

(三) 營業税附加税

昭和十五年度ニ於ケル營業税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

(四) 舊法ニ依ル國稅附加税

(イ) 營業收益税附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ營業收益税附加税ノ本税見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益税附加税賦課率ヲ乗シタル額

(ロ) 所得税附加税

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スヘキ所得税附加税ノ本税見込額ノ十分ノ三ノ額ニ最近年度當初豫算ニ定ムル所得税附加税賦課率ヲ乗シタル額

三 昭和十七年度

(一) 地租附加税

(イ) 昭和十五年度ニ於ケル地租附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

(ロ) 昭和十五年度ニ於ケル段別税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加税賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十五年度ニ於ケル段別税ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加税賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋税附加税

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃賃價格ニ百分ノ三・五ヲ乗シタル額

(三) 營業税附加税

昭和十五年度ニ於ケル營業税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

四 昭和十八年度

(一) 地租附加税

(イ) 昭和十六年度ニ於ケル地租附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

(ロ) 昭和十六年度ニ於ケル段別税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加税賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十六年度ニ於ケル段別税ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加税賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋税附加税

昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋税ヲ賦課スヘキ家屋ノ賃賃價格ニ百分ノ三・五ヲ乗シタル額

(三) 營業税附加税

昭和十六年度ニ於ケル營業税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

第三十八條 第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、第三十六條及前條ノ國稅附加税、道府縣税附加税、道府縣獨立税又ハ市町村獨立税ノ調定額ノ算定ニ關シテハ第十一條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十九條 第二十七條、第二十八條、第三十條乃至第三十三條、第三十六條及第三十七條ノ道府縣税額又ハ市町村税額ノ算定ニ付テハ都市計畫特別税ハ之ヲ除外ス

第四十條 従前ノ府縣制施行令第二十八條ノ規定ニ依ル分賦金ハ之ヲ道府縣税ト看做シ道府縣税額又ハ市税額ノ算定ニ付之ヲ加算又ハ控除ス

第四十一條 配付税ノ分與額ノ算定期日迄ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於ケル關係市町村ノ配付税ノ額ヲ算定スル必要ナル新税額及市町村額ハ廢置分合又ハ境界變更ニ係ル區域ヲ基礎トシテ之ヲ算定シ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ廢置分合又ハ境界變更ノ日ニ於ケル現住人口ニ依リ

廢置分合又ハ境界變更ニ係ル區域ヲ基礎トシテ之ヲ算定ス

附 則 (昭和十五年十二月内務、大藏省令第四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參 照】

明治四十四年三月二十一日公布法律第十五號ハ府縣災害土木費國庫補助ニ關スル件、昭和十五年七月十日内務省令第二十五號ハ家屋賃貸價格補整ニ關スル件及同日内務省令第四號ハ地方税法第九十一條ノ規定ニ依リ税目指定ノ件ナリ

國稅徵收法

(明治三十年三月二十六日法律第二十一號)

改正

昭和十三年四月六日法律第七十五號	昭和十一年五月二十二日法律第四十二號	昭和十一年三月二十二日法律第三十五號	昭和十一年三月二十二日法律第三十四號	昭和十一年三月二十二日法律第三十三號	昭和十一年三月二十二日法律第三十二號	昭和十一年三月二十二日法律第三十一號	昭和十一年三月二十二日法律第三十號	昭和十一年三月二十二日法律第二十九號	昭和十一年三月二十二日法律第二十八號	昭和十一年三月二十二日法律第二十七號	昭和十一年三月二十二日法律第二十六號	昭和十一年三月二十二日法律第二十五號	昭和十一年三月二十二日法律第二十四號	昭和十一年三月二十二日法律第二十三號	昭和十一年三月二十二日法律第二十二號	昭和十一年三月二十二日法律第二十一號	昭和十一年三月二十二日法律第二十號	昭和十一年三月二十二日法律第十九號	昭和十一年三月二十二日法律第十八號	昭和十一年三月二十二日法律第十七號	昭和十一年三月二十二日法律第十六號	昭和十一年三月二十二日法律第十五號	昭和十一年三月二十二日法律第十四號	昭和十一年三月二十二日法律第十三號	昭和十一年三月二十二日法律第十二號	昭和十一年三月二十二日法律第十一號	昭和十一年三月二十二日法律第十號	昭和十一年三月二十二日法律第九號	昭和十一年三月二十二日法律第八號	昭和十一年三月二十二日法律第七號	昭和十一年三月二十二日法律第六號	昭和十一年三月二十二日法律第五號	昭和十一年三月二十二日法律第四號	昭和十一年三月二十二日法律第三號	昭和十一年三月二十二日法律第二號	昭和十一年三月二十二日法律第一號
------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

第一章 總 則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
- 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
- 第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價格ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
- 第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得
 - 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 府縣稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ
 - 三 強制執行ヲ受クルトキ
 - 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 五 競賣ノ開始アリタルトキ
 - 六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
 - 七 納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
- 第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料、延滯金及滯納處分費

強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(明治四十四年法律第三十七號改正)

督促手數料、延滞金及滞納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滞納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(同上)

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滞金及滞納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得(同上)

第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滞金及滞納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

第四條ノ五 同年ノ所得稅、地租、營業收益稅、資本利子稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得(明治三十五年法律第三十六號及昭和六年法律第十六號改正)

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(明治三十五年法律第三十六號改正)

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受ケヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(明治三十五年法律第三十六號及明治三十八年法律第四十六號改正)

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス政府ハ前項徵收ノ費用トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村ニ交付金ヲ交付ス(明治四十四年法律第三十七號、大正三年法律第十二號及昭和十一年法律第二號改正)

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス(明治三十五年法律第三十六號改正)

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料、延滞金ヲ徵收ス(明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正)

第三章 滞納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ(明治三十五年法律第三十六號改正)

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料、延滞金及稅金ヲ完納セサルトキ(明治四十四年法律第三十七號改正)

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滞納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、延滞金、滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム(明治四十四年法律第三十七號改正)

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル三箇月間ノ食料及薪炭(昭和十年法律第十五號改正)
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
- 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
- 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
- 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
- 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立ニ付前項ニ同シ(昭和十一年法律第四十二號改正)
- 第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス(明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正)
- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
- 二 職業ニ必要ナル器具及材料
- 第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス
- 第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ(明治三十五年法律第三十六號改正)
- 第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐篋ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐篋ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ヲ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ
- 第三者ノ家屋、倉庫及筐篋ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得
- 前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐篋ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル
- 第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セザルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ
- 第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ(明治三十五年法律第三十六號改正)

- 差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス(明治三十八年法律第四十六號改正)
- 第二十三條 一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ
- 前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス
- 第二十三條 二 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ(明治三十八年法律第四十六號改正)
- 前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ(同上)
- 第二十三條 三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ(明治三十八年法律第四十六號改正)
- 差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ(同上)
- 第二十四條 四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス(同上)
- 第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十五年法律第三十六號改正)
- 公賣ニ付スル買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セザルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得
- 債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス(明治三十八年法律第四十六號改正)
- 公益上必要アル場合ニ於テハ隨意契約ヲ以テ第一項ノ公賣ニ代フルコトヲ得(昭和十六年二月法律第六號)
- 第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得
- 第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト關接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス
- 第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス(明治三十五年法律第三十六號改正)
- 第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス(明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正)